

# 有価証券報告書

(金融商品取引法第24条第1項に基づく報告書)

事業年度 自 平成29年4月1日  
(第53期) 至 平成30年3月31日

## 総合警備保障株式会社

東京都港区元赤坂一丁目6番6号

(E05309)

# 目次

	頁
表紙	
第一部 企業情報	1
第1 企業の概況	1
1 主要な経営指標等の推移	1
2 沿革	3
3 事業の内容	5
4 関係会社の状況	7
5 従業員の状況	11
第2 事業の状況	12
1 経営方針、経営環境及び対処すべき課題等	12
2 事業等のリスク	13
3 経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析	16
4 経営上の重要な契約等	23
5 研究開発活動	23
第3 設備の状況	24
1 設備投資等の概要	24
2 主要な設備の状況	25
3 設備の新設、除却等の計画	26
第4 提出会社の状況	27
1 株式等の状況	27
(1) 株式の総数等	27
(2) 新株予約権等の状況	27
(3) 行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等	27
(4) 発行済株式総数、資本金等の推移	27
(5) 所有者別状況	28
(6) 大株主の状況	28
(7) 議決権の状況	29
2 自己株式の取得等の状況	30
3 配当政策	31
4 株価の推移	31
5 役員の状況	32
6 コーポレート・ガバナンスの状況等	38
第5 経理の状況	48
1 連結財務諸表等	49
(1) 連結財務諸表	49
① 連結貸借対照表	49
② 連結損益計算書及び連結包括利益計算書	51
連結損益計算書	51
連結包括利益計算書	52
③ 連結株主資本等変動計算書	53
④ 連結キャッシュ・フロー計算書	55
⑤ 連結附属明細表	93
(2) その他	94
2 財務諸表等	95
(1) 財務諸表	95
① 貸借対照表	95
② 損益計算書	97
③ 株主資本等変動計算書	99
④ 附属明細表	106
(2) 主な資産及び負債の内容	106
(3) その他	106
第6 提出会社の株式事務の概要	107
第7 提出会社の参考情報	108
1 提出会社の親会社等の情報	108
2 その他の参考情報	108
第二部 提出会社の保証会社等の情報	108
[監査報告書]	

## 【表紙】

【提出書類】	有価証券報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成30年6月26日
【事業年度】	第53期（自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日）
【会社名】	総合警備保障株式会社
【英訳名】	SOHGO SECURITY SERVICES CO., LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 青山 幸恭
【本店の所在の場所】	東京都港区元赤坂一丁目6番6号
【電話番号】	(03) 3470-6811(代表)
【事務連絡者氏名】	常務執行役員 岸本 孝治
【最寄りの連絡場所】	東京都港区元赤坂一丁目6番6号
【電話番号】	(03) 3470-6811(代表)
【事務連絡者氏名】	常務執行役員 岸本 孝治
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

##### (1) 連結経営指標等

回次	第49期	第50期	第51期	第52期	第53期
決算年月	平成26年3月	平成27年3月	平成28年3月	平成29年3月	平成30年3月
売上高 (百万円)	328,209	365,749	381,818	413,343	435,982
経常利益 (百万円)	20,745	24,700	30,667	30,309	31,913
親会社株主に帰属する 当期純利益 (百万円)	10,955	13,534	17,868	18,330	19,344
包括利益 (百万円)	13,908	22,100	5,749	22,823	25,514
純資産額 (百万円)	180,205	204,363	205,622	222,230	241,382
総資産額 (百万円)	342,495	373,863	349,561	385,877	397,164
1株当たり純資産額 (円)	1,574.74	1,800.15	1,805.09	1,956.25	2,155.74
1株当たり当期純利益金額 (円)	108.99	134.65	177.77	182.37	191.93
潜在株式調整後1株当たり 当期純利益金額 (円)	—	—	—	—	—
自己資本比率 (%)	46.2	48.4	51.9	51.0	54.9
自己資本利益率 (%)	7.0	7.8	9.9	9.7	9.3
株価収益率 (倍)	19.9	30.4	34.3	22.8	27.5
営業活動による キャッシュ・フロー (百万円)	21,056	19,666	19,678	54,561	25,496
投資活動による キャッシュ・フロー (百万円)	△16,701	△24,295	△12,808	△22,055	△19,125
財務活動による キャッシュ・フロー (百万円)	△9,142	6,596	△9,176	△20,582	△13,429
現金及び現金同等物の 期末残高 (百万円)	35,791	37,976	35,630	47,549	40,484
従業員数 (人)	28,091	31,221	31,446	36,693	37,519
[外、平均臨時雇用者数]	[2,831]	[3,849]	[4,802]	[6,304]	[6,542]

(注) 1. 「売上高」には、消費税等は含まれておりません。

2. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

## (2) 提出会社の経営指標等

回次	第49期	第50期	第51期	第52期	第53期
決算年月	平成26年 3 月	平成27年 3 月	平成28年 3 月	平成29年 3 月	平成30年 3 月
売上高 (百万円)	200,635	213,006	220,987	229,504	232,697
経常利益 (百万円)	17,736	20,475	23,019	22,112	23,720
当期純利益 (百万円)	14,915	14,708	16,690	16,632	17,971
資本金 (百万円)	18,675	18,675	18,675	18,675	18,675
発行済株式総数 (株)	102,040,042	102,040,042	102,040,042	102,040,042	102,040,042
純資産額 (百万円)	124,717	141,283	152,589	164,024	180,363
総資産額 (百万円)	246,437	266,220	248,611	268,269	270,418
1株当たり純資産額 (円)	1,240.56	1,405.34	1,517.80	1,631.55	1,781.22
1株当たり配当額 (円)	30	38	50	55	60
(うち1株当たり 中間配当額)	(12.5)	(17.5)	(20.0)	(27.5)	(30.0)
1株当たり当期純利益金額 (円)	148.36	146.30	166.02	165.44	178.26
潜在株式調整後1株当たり 当期純利益金額 (円)	—	—	—	—	—
自己資本比率 (%)	50.6	53.1	61.4	61.1	66.7
自己資本利益率 (%)	12.7	11.1	11.4	10.5	10.4
株価収益率 (倍)	14.6	28.0	36.7	25.1	29.6
配当性向 (%)	20.2	26.0	30.1	33.2	33.7
従業員数 (人)	12,422	12,331	12,290	12,072	11,976

(注) 1. 「売上高」には、消費税等は含まれておりません。

2. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

3. 第50期の1株当たり配当額38円には、創立50周年記念配当3円を含んでおります。

## 2 【沿革】

年 月	概 要
昭和40年 7月	東京都千代田区内幸町二丁目20番に資本金25百万円をもって、警備請負業を主たる事業目的として総合警備保障㈱を設立
昭和41年 8月	東京都千代田区にビル管理を行う総合管財㈱（現ALSOKビルサービス㈱）を設立
昭和42年 9月	法人向け機械警備「総合ガードシステム」を開発、発売
昭和43年12月	栃木県宇都宮市に警備請負業を主たる事業目的として北関東総合警備保障㈱を設立
昭和44年 6月	広島県広島市に警備請負業を主たる事業目的として広島総合警備保障㈱を設立
昭和45年 3月	日本万国博覧会の常駐警備を実施
昭和47年 6月	東京都港区に常駐警備を行う東京総合警備保障㈱（現ALSOK東京㈱）を設立
昭和50年 1月	無人化店舗のCD（現金自動支払機）コーナーを自動制御する「アマンドシステム」を開発、発売
昭和50年 5月	札幌市中央区に警備請負業を主たる事業目的として北海道総合警備保障㈱（現ALSOK北海道㈱）を設立
昭和50年 9月	常駐警備に設備制御・監視ができる設備を併用した「オルムシステム」を開発、発売
昭和53年 2月	東京都港区元赤坂一丁目6番6号に本社を移転
昭和54年10月	消防用設備の定期点検業務を開始
昭和57年12月	ビルメンテナンスの分野で菱電サービス㈱（現三菱電機ビルテクノサービス㈱）と業務提携
昭和58年 3月	東京都公安委員会による警備業認定証（第1号）を取得
昭和59年 9月	東京都港区に警備用機器の設置工事を行う綜警電気工事㈱を設立（平成25年8月に吸収合併）
昭和63年 4月	一般家庭向け機械警備「タクルス」を開発、発売
平成 7年 8月	都内の機械警備の一元的な集中監視と指令業務を行う東京指令センターを運用開始
平成 9年 4月	従来のCD機に加え収納代行、情報検索機能等を搭載した多機能型ATM「MMK」を開発、発売
平成 9年10月	売上金やつり銭の流れを円滑化し、現金処理に係る要員の省力化・設備コストの削減に効果を発揮する「入金機オンラインシステム」を開発、発売
平成10年 4月	一般家庭向けに、防犯・防災警備のほか救急情報、ホームバンキング、健康相談など生活便利機能を備えた「SOKホームセキュリティ」を開発、発売
平成14年 9月	機械警備業務及び常駐警備業務の設計及び提供において、ISO9001の認証を取得
平成14年10月	東京証券取引所市場第一部に株式を上場
平成15年 4月	常駐警備部門の一部を分社化し、警備請負業を主たる事業目的として綜警常駐警備㈱（現ALSOK常駐警備㈱）を設立
平成15年 7月	新コーポレートブランド「ALSOK」を制定
平成15年 8月	メールを使った企業向けリスクマネジメントツール「ALSOK安否確認サービス」を開発、発売
平成16年 5月	防犯・防災事業関連分野でホーチキ㈱と業務提携
平成16年11月	一般家庭向けに、センサー類の無線化や緊急性の高い侵入感知・非常通報・火災感知に機能を絞り込むことで低価格で警備を提供する「ALSOKホームセキュリティ7」を開発、発売
平成17年 4月	社会貢献活動の一環として、子供たちの安全を守るために、守りのプロである当社社員を講師として派遣する「ALSOKあんしん教室」を全国展開
平成17年 6月	ロボットを用いた常駐警備システムを可能とする新型巡回警備ロボットを開発、発売
平成17年11月	大型住宅向けに機能を充実させた「ALSOKホームセキュリティX7」を開発、発売
平成20年 6月	PCからの情報漏えいを監視・報告する「PC監視」サービスを開始
平成20年10月	携帯アプリを利用した子ども向け通報・駆けつけサービス「まもるっく」販売開始
平成20年12月	インターネット警備サービスの標準化など、お客様視点で発想した「安心・便利」な機能を強化した「ALSOKホームセキュリティα」を開発、発売
平成21年 7月	両替機（つり銭交換機）の設置からご要望に応じた両替金種の用意、輸送、装填、障害対応など両替機に関わる業務を一括して請け負うサービス「両替機システム」を開発、発売
平成21年12月	車両の盗難、車上荒らしなどの異常事態発生時に、お客様への通報や位置情報の提供などを行い、被害の拡大防止や盗難車両の早期発見をサポートするサービス「GUARD ONE（ガードワン）」を開発、発売
平成22年 4月	警備サービスインフラを活用した電報サービス「ALSOK電報」を開始
平成22年11月	高齢者に必要なホームセキュリティの機能を集約した「ALSOKシルバーパック」を販売開始
平成23年 2月	管工事、電気工事を主とした設備工事を行う日本ファシリオ㈱を子会社化
平成23年 4月	法人企業向けセキュリティシステム「ALSOK-GV（ジーファイブ）」を販売開始
平成24年 2月	東京スカイツリータウン®における施設警備業務を開始
平成24年10月	個人向けブランド「HOME ALSOK」立ち上げ Webを利用して警備の遠隔操作や戸締り状態の確認ができるほか、敷地内への侵入を監視する画像確認サービスを搭載した「HOME ALSOK Premium」を開発、発売
平成24年11月	総合防災事業等を行うホーチキ㈱を持分法適用関連会社化

年 月	概 要
平成25年5月	ストーカー対策を目的とした女性限定サービス「HOME ALSOKレディースサポート」を販売開始
平成25年8月	綜警電気工事㈱を吸収合併
平成25年9月	賃貸住宅向けセキュリティシステム「HOME ALSOKアパート・マンションプラン」を販売開始
平成25年9月	高齢者向け緊急通報・相談サービス「HOME ALSOKみまもりサポート」を販売開始
平成26年4月	警備請負業及び各種施設の総合管理業務等を行うALSOK双栄㈱を子会社化
平成26年4月	各種施設の総合管理業務等を行う日本ビル・メンテナンス㈱を子会社化
平成26年5月	中～大規模施設向けセキュリティシステム「ALSOK-FM（ファシリティマネジメント）サポート」を発売
平成26年8月	少子高齢化社会に向けた事業の共同展開を行うため、損保ジャパン日本興亜グループと業務提携
平成26年9月	訪問介護を行う㈱あんていけあを子会社化
平成26年10月	訪問介護や施設介護サービスを行う㈱HCMを子会社化
平成27年2月	緊急通報関連事業及び介護事業を行うALSOKあんしんケアサポート㈱を子会社化
平成27年5月	店舗で利用する釣銭を出金・両替し、売上金を銀行へ持ち込むことなく入金できる「入出金機オンラインシステム」を開発、発売
平成27年6月	高齢者や女性、子供など屋外での家族を見まもる、モバイルみまもりセキュリティ「まもるつく」を販売開始
平成27年10月	多様化する通信環境への対応など最新機能を搭載した「ホームセキュリティBasic」を開発、発売
平成28年2月	クラウドで監視カメラの録画映像を保管する「ALSOK画像クラウドサービス」を販売開始
平成28年2月	総合防災事業等を行う日本ドライケミカル㈱と業務提携
平成28年5月	介護事業及び介護周辺事業を行う㈱ウイズネットを子会社化
平成28年6月	日本ドライケミカル㈱を持分法適用関連会社化
平成29年2月	警備請負業を行うALSOK昇日セキュリティサービス㈱を子会社化
平成29年4月	警備請負業を行うALSOK-TW東日本㈱を子会社化
平成29年4月	警備請負業を行う京阪神セキュリティサービス㈱を持分法適用関連会社化
平成29年6月	認知症高齢者の徘徊対策商品「みまもりバック」を販売開始
平成29年7月	警備請負業を行うALSOK関東デリバリー㈱を子会社化
平成30年4月	東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会警備共同企業体を設立

### 3 【事業の内容】

当社グループは、当社、連結子会社72社（海外子会社9社を含む。）、持分法適用会社11社で構成されており、セキュリティ事業及び総合管理・防災事業を中心とした活動を展開しております。その他海外で同様の事業を展開する台湾新光保全股份有限公司は、連結子会社又は持分法適用会社ではありませんが、営業及び運用面において、当社グループと相互協力体制を確立しております。セグメント別の事業の内容は以下のとおりです。

なお、当連結会計年度より報告セグメントの区分を変更しております。詳細は、「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 (1) 連結財務諸表 注記事項 (セグメント情報等)」に記載のとおりであります。

#### (1) セキュリティ事業

##### ア 機械警備業務

ご契約先に警報機器を設置し、通信回線により、侵入、火災、設備異常等の情報をガードセンターで遠隔監視し、異常事態に対して待機中の警備員が出勤し対応する業務です。法人向けサービスとしては、侵入や火災、設備等の監視・管理サービスを備えたセキュリティシステム「ALSOK-ST (スタンダード)」、画像監視によるオンライン警備システムに加え、出退勤情報等の閲覧や、設備の遠隔操作がWeb上で行える「ALSOK情報提供サービス」を備えた「ALSOK-GV (ジーファイブ)」、中～大規模施設向けにファシリティマネジメント機能を強化し、低コストで施設価値の向上を可能にする「ALSOK-FM (ファシリティマネジメント) サポート」のほか、キャッシュコーナーを無人管理する「アマンドシステム」等があります。また、個人向けサービスとしては、スマートフォンや携帯電話等からの警備開始・解除操作や、外出時と在宅時それぞれのシーンに応じた警備モードから選ぶことが可能な一般住宅向けの「ホームセキュリティBasic」、これら機能に加え、屋外の画像確認機能等を搭載した「HOME ALSOK Premium」、集合住宅向けの「HOME ALSOK アパート・マンションプラン」のほか、ご高齢者向け緊急通報・相談サービス「HOME ALSOK みまもりサポート」等をご提供しております。

##### イ 常駐警備業務

ご契約先の施設に警備員を配置し、出入管理、巡回、監視、緊急時の対応等を行う業務です。イベント等における雑踏警備、国内外の要人の身辺警護もこの業務に含めております。

##### ウ 警備輸送業務

ご契約先の指定場所に現金、有価証券等の貴重品を現金輸送車等を使用して輸送する業務です。現金、有価証券等を安全に輸送する現金輸送サービスのほか、オンライン情報管理機能と警備輸送ネットワークにより、流通や小売業等の売上金や釣銭等の管理をトータルサポートし、働き方改革の推進や昨今の人手不足問題に貢献する「入(出)金機オンラインシステム」、金融機関やコンビニエンスストアに設置されたATM等を対象に現金の補充・回収や障害時の対応等、運営・管理をトータルで担う「ATM総合管理システム」があります。

#### (2) 総合管理・防災事業

設備管理、清掃管理、電話対応、リニューアル工事等のビル・マンション等の施設の維持、管理、運営や消防用設備等の点検、工事を行う事業です。また、災害対策用品やAEDの販売等があります。

#### (3) 介護事業

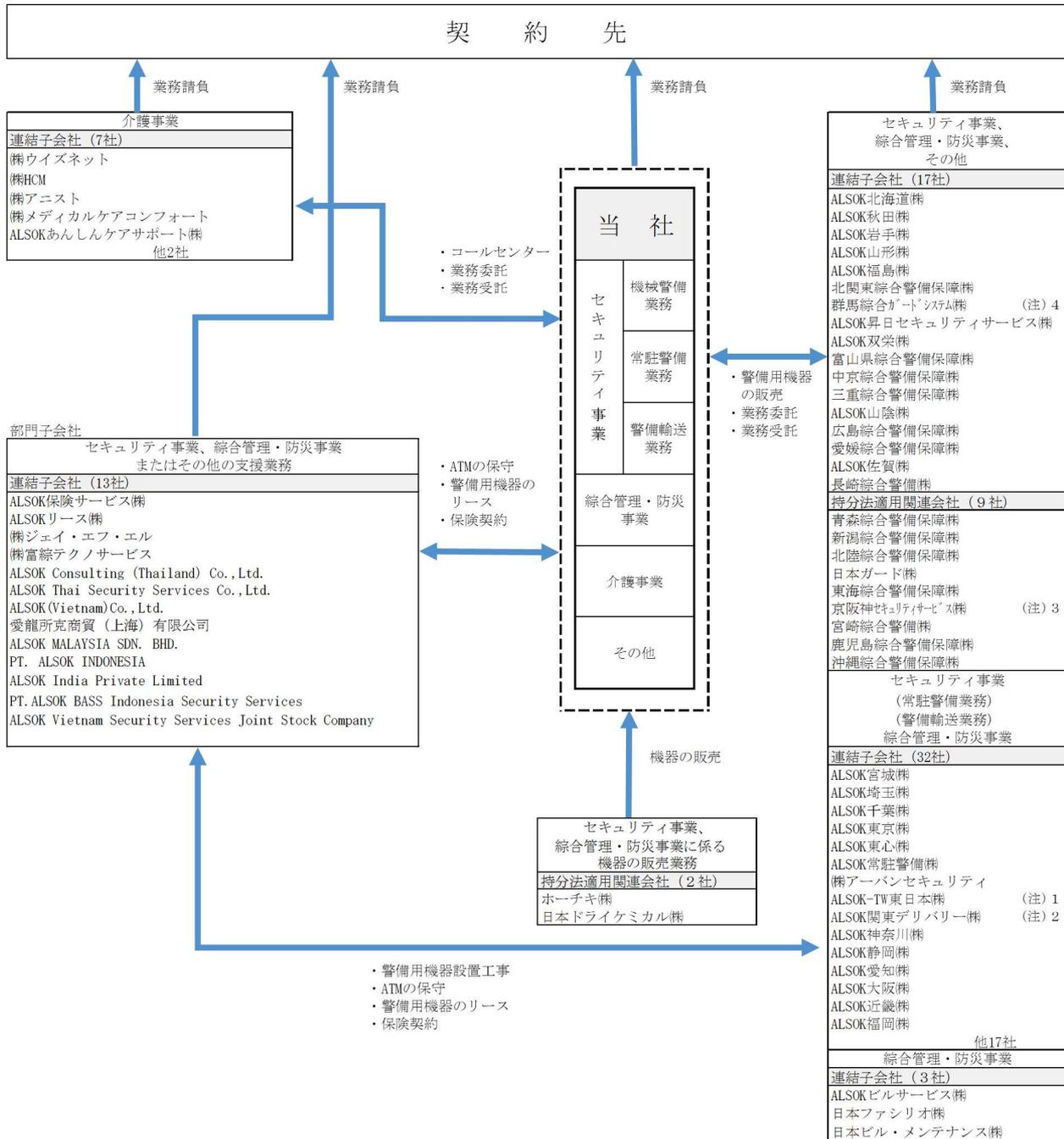
訪問介護、デイサービス、有料老人ホーム、グループホーム、福祉用具レンタル等をご提供しております。

#### (4) その他

大切なご家族を携帯端末で見守る「まもるっく」、ホームページを定期巡回し、いち早くホームページ改ざんを検知する「ホームページ改ざん検知サービス」等をご提供する情報セキュリティ事業等があります。

〔事業系統図〕

当社グループのセグメントごとの主要会社並びに系統図は以下のとおりであります。  
 なお、取引は代表的なものについてのみ記載しております。



- (注) 1. 平成29年4月1日付で、NTTグループ各社が入居するオフィスビルを中心に常駐警備業務を行うテルウェル東日本株式会社の警備事業を、当社が平成29年1月4日付で連結子会社として設立したALSOK-TW東日本株式会社に、会社分割（吸収分割）により承継いたしました。
2. 平成29年4月4日付で、東武鉄道株式会社の100%子会社である東武デリバリー株式会社から、吸収分割により同社の警備輸送業務を承継するデリバリーサービス株式会社との間で株式譲渡に関する契約を締結し、同年7月3日付で100%株式取得が終了し、商号を「ALSOK関東デリバリー株式会社」に改め、当社の連結子会社といたしました。
3. 平成29年4月24日付で、株式会社池田泉州銀行等の警備を受託している京阪神セキュリティサービス株式会社の株式の36.1%を取得し、当社の持分法適用関連会社といたしました。
4. 平成29年10月3日付の取締役会において、当社を株式交換完全親会社とし、群馬総合ガードシステム株式会社を株式交換完全子会社とする株式交換を行うことを決議し、平成29年11月10日付で実施した本株式交換により、完全子会社化いたしました。
- ※ 平成30年4月1日付で、ミャンマーにおいて警備サービス全般の業務を行うALSOK Myanmar Security Services Co.,Ltdが業務を開始し、当社の連結子会社となりました。

#### 4 【関係会社の状況】

名称	住所	資本金 (百万円)	主要な事業の内容	議決権の所有 割合(%)	関係内容
(連結子会社)					
ALSOK北海道㈱	札幌市北区	20	セキュリティ事業	100.0	業務委託及び受託 経営指導 設備の賃貸借 役員の兼任…1名
ALSOK秋田㈱	秋田県秋田市	30	同 上	100.0	業務委託及び受託 経営指導 設備の賃貸借 役員の兼任…2名
ALSOK岩手㈱	岩手県盛岡市	30	同 上	100.0	業務委託及び受託 経営指導 設備の賃貸借 役員の兼任…1名
ALSOK山形㈱	山形県山形市	30	同 上	100.0	業務委託及び受託 経営指導 設備の賃貸借 役員の兼任…1名
ALSOK福島㈱	福島県郡山市	200	同 上	100.0	業務委託及び受託 経営指導 設備の賃貸借 役員の兼任…2名
北関東総合警備保障㈱ (注) 4	栃木県宇都宮市	100	同 上	50.0	業務委託及び受託 経営指導 設備の賃貸借 役員の兼任…2名
群馬総合ガードシステム㈱	群馬県前橋市	10	同 上	100.0	業務委託及び受託 経営指導 設備の賃貸借 役員の兼任…4名
ALSOK双栄㈱	横浜市戸塚区	30	同 上	100.0	業務委託及び受託 経営指導 設備の賃貸借 役員の兼任…2名
富山県総合警備保障㈱ (注) 4	富山県富山市	64	同 上	50.0	業務委託及び受託 経営指導 設備の賃貸借 役員の兼任…4名
中京総合警備保障㈱ (注) 4	名古屋市中区	50	同 上	50.0	業務委託及び受託 経営指導 設備の賃貸借 役員の兼任…2名
三重総合警備保障㈱ (注) 4, 7	三重県四日市市	10	同 上	50.0 (20.0)	業務委託及び受託 経営指導 設備の賃貸借 役員の兼任…2名
ALSOK山陰㈱	島根県松江市	30	同 上	100.0	業務委託及び受託 経営指導 設備の賃貸借 役員の兼任…2名
広島総合警備保障㈱ (注) 4	広島市安佐南区	90	同 上	50.0	業務委託及び受託 経営指導 役員の兼任…3名
愛媛総合警備保障㈱ (注) 4	愛媛県松山市	90	同 上	50.0	業務委託及び受託 経営指導 設備の賃貸借 役員の兼任…2名

名称	住所	資本金 (百万円)	主要な事業の内容	議決権の所有 割合(%)	関係内容
長崎総合警備㈱ (注) 4	長崎県長崎市	20	セキュリティ事業	50.0	業務委託及び受託 経営指導 設備の賃貸借 役員の兼任…1名
ALSOK宮城㈱	仙台市泉区	20	同 上	100.0	業務委託及び受託 経営指導 役員の兼任…1名
ALSOK茨城㈱	茨城県水戸市	30	同 上	100.0	業務委託及び受託 経営指導 役員の兼任…1名
ALSOK埼玉㈱	さいたま市中央区	20	同 上	100.0	業務委託及び受託 経営指導 設備の賃貸借
ALSOK千葉㈱	千葉市花見川区	20	同 上	100.0	業務委託及び受託 経営指導
ALSOK東京㈱	東京都千代田区	30	同 上	100.0	業務委託及び受託 経営指導 設備の賃貸借
ALSOK東心㈱	東京都府中市	18	同 上	100.0	業務委託及び受託 経営指導 設備の賃貸借
ALSOK常駐警備㈱	東京都墨田区	300	同 上	100.0	業務委託及び受託 経営指導 設備の賃貸借 役員の兼任…1名
㈱アーバンセキュリティ	東京都新宿区	100	同 上	51.4	業務委託及び受託 経営指導 設備の賃貸借
ALSOK昇日 セキュリティサービス㈱	東京都千代田区	100	同 上	90.0	業務委託及び受託 経営指導 役員の兼任…3名
ALSOK-TW東日本㈱	東京都中央区	100	同 上	100.0	業務委託及び受託 経営指導 設備の賃貸借 役員の兼任…2名
ALSOK関東デリバリー㈱	東京都足立区	10	同 上	100.0	業務委託及び受託 経営指導 設備の賃貸借 役員の兼任…2名
ALSOK神奈川㈱	横浜市西区	30	同 上	100.0	業務委託及び受託 経営指導 設備の賃貸借
ALSOK静岡㈱	静岡市葵区	30	同 上	100.0	業務委託及び受託 経営指導 設備の賃貸借 役員の兼任…1名
ALSOK愛知㈱	名古屋市中村区	30	同 上	100.0	業務委託及び受託 経営指導 設備の賃貸借 役員の兼任…1名
ALSOK京滋㈱	京都市下京区	20	同 上	100.0	業務委託及び受託 経営指導 設備の賃貸借
ALSOK大阪㈱	大阪市中央区	20	同 上	100.0	業務委託及び受託 経営指導 設備の賃貸借 役員の兼任…1名

名称	住所	資本金 (百万円)	主要な事業の内容	議決権の所有 割合(%)	関係内容
ALSOK近畿㈱	大阪市中央区	50	セキュリティ事業	100.0	業務委託及び受託 経営指導 役員の兼任…1名
ALSOK兵庫㈱	神戸市中央区	10	同 上	100.0	業務委託及び受託 経営指導 設備の賃貸借 役員の兼任…1名
ALSOKあさひ播磨㈱ (注) 7	島根県浜田市	20	同 上	90.0 (30.0)	業務委託及び受託 経営指導 設備の賃貸借
ALSOK山口㈱	山口県山口市	10	同 上	100.0	業務委託及び受託 経営指導 設備の賃貸借 役員の兼任…2名
ALSOK徳島㈱	徳島県徳島市	10	同 上	100.0	業務委託及び受託 経営指導 設備の賃貸借 役員の兼任…1名
ALSOK高知㈱	高知県高知市	15	同 上	100.0	業務委託及び受託 経営指導 役員の兼任…1名
ALSOK福岡㈱	福岡市博多区	20	同 上	100.0	業務委託及び受託 経営指導 設備の賃貸借 役員の兼任…2名
広島綜警サービス㈱ (注) 4, 7	広島市安佐南区	30	同 上	50.0 (50.0)	業務委託
ALSOKビルサービス㈱	東京都千代田区	60	総合管理・防災事業	100.0	業務委託及び受託 経営指導 設備の賃貸借 役員の兼任…2名
日本ファシリオ㈱ (注) 3	東京都港区	2,500	同 上	91.6	経営指導 役員の兼任…1名
日本ビル・メンテナンス㈱	東京都中央区	72	同 上	100.0	経営指導 役員の兼任…2名
ALSOKリース㈱	東京都千代田区	100	セキュリティ事業 の支援業務	100.0	経営指導 役員の兼任…3名
㈱ジェイ・エフ・エル	東京都港区	40	同 上	60.0	業務受託 設備の賃貸借 役員の兼任…2名
㈱ウイズネット	さいたま市大宮区	390	介護事業	100.0	経営指導 設備の賃貸借 役員の兼任…1名
㈱HCM	東京都港区	99	同 上	100.0	経営指導 設備の賃貸借 役員の兼任…1名
㈱アニスト (注) 7	大阪市大正区	3	同 上	100.0 (100.0)	役員の兼任…1名
ALSOK あんしんケアサポート㈱	東京都大田区	410	同 上	100.0	経営指導 設備の賃貸借 役員の兼任…1名
PT. ALSOK BASS Indonesia Security Services (注) 4	Jakarta, Indonesia	11,000 百万 インドネシア ルピア	セキュリティ事業	49.0	経営指導
その他 23社	—	—	—	—	—

名称	住所	資本金 (百万円)	主要な事業の内容	議決権の所有 割合(%)	関係内容
(持分法適用関連会社) ホーチキ㈱ (注) 5, 6	東京都品川区	3,798	セキュリティ事業、総合管理・防災事業に係る機器の販売業務	17.5	機器の購入
日本ドライケミカル㈱ (注) 5, 6	東京都港区	700	同上	15.5	機器の購入
京阪神セキュリティサービス㈱	大阪府池田市	35	セキュリティ事業	36.1	業務委託及び受託 経営指導 役員の兼任…1名
青森総合警備保障㈱	青森県青森市	30	同上	30.0	業務委託及び受託 経営指導 役員の兼任…1名
新潟総合警備保障㈱ (注) 5	新潟市東区	48	同上	15.0	業務委託及び受託 経営指導 役員の兼任…1名
北陸総合警備保障㈱ (注) 5	石川県金沢市	60	同上	15.0	業務委託及び受託 経営指導 役員の兼任…2名
日本ガード㈱	岐阜県岐阜市	51	同上	31.3	業務委託及び受託 経営指導 役員の兼任…3名
東海総合警備保障㈱	静岡県伊東市	10	同上	50.0	業務委託及び受託 経営指導 役員の兼任…3名
宮崎総合警備㈱ (注) 5	宮崎県宮崎市	20	同上	15.0	業務委託及び受託 経営指導 役員の兼任…1名
鹿児島総合警備保障㈱	鹿児島県鹿児島市	20	同上	20.0	業務委託及び受託 経営指導 役員の兼任…1名
沖縄総合警備保障㈱ (注) 5	沖縄県宜野湾市	40	同上	15.0	業務委託及び受託 経営指導 役員の兼任…1名

- (注) 1. 主要な事業の内容欄には、セグメントの名称等を記載しております。
2. 連結子会社は、売上高（連結会社相互間の内部売上高を除く。）の連結売上高に占める割合がいずれも10%以下であるため、主要な損益情報等を記載しておりません。
3. 特定子会社に該当しております。
4. 持分は100分の50以下ではありますが、実質的に支配しているため子会社としております。
5. 持分は100分の20未満ではありますが、実質的な影響力を持っているため関連会社としております。
6. 有価証券報告書を提出しております。
7. 議決権の所有割合の（ ）内は、間接所有割合で内数であります。

## 5 【従業員の状況】

### (1) 連結会社の状況

平成30年3月31日現在

セグメントの名称	従業員数 (人)
セキュリティ事業	30,250 [3,515]
総合管理・防災事業	1,960 [ 814]
介護事業	1,921 [2,022]
報告セグメント計	34,131 [6,351]
その他	141 [ 56]
全社 (共通)	3,247 [ 135]
合計	37,519 [6,542]

(注) 1. 従業員数は、就業人員であり、臨時雇用者数は、当連結会計年度の平均人数を[ ]外数で記載しております。

2. 従業員数が前連結会計年度末と比べて826名増加しておりますが、その主な理由は、ALSOK-TW東日本株式会社(テルウェル東日本株式会社)の警備事業を会社分割(吸収分割)により承継したこと、およびALSOK関東デリバリー株式会社を連結子会社化したことによるものであります。

### (2) 提出会社の状況

平成30年3月31日現在

従業員数 (人)	平均年齢 (歳)	平均勤続年数 (年)	平均年間給与 (円)
11,976	39.3	16.4	5,603,070

セグメントの名称	従業員数 (人)
セキュリティ事業	9,740
総合管理・防災事業	95
介護事業	5
報告セグメント計	9,840
その他	43
全社 (共通)	2,093
合計	11,976

(注) 1. 従業員数は、就業人員であります。

2. 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。

### (3) 労働組合の状況

連結子会社の日本ファシリオ株式会社(組合員数211名)、ALSOK双栄株式会社(組合員数270名)およびALSOK-TW東日本株式会社(組合員数203名)に労働組合が結成されております。

その他の会社は労働組合の結成はされていません。

なお、労使関係は良好であります。

## 第2【事業の状況】

### 1【経営方針、経営環境及び対処すべき課題等】

#### (1) 会社の経営の基本方針

当社の経営理念は、『我が社は、「ありがとうの心」と「武士の精神」をもって社業を推進し、お客様と社会の安全・安心の確保のために最善を尽くす。』であります。これに基づく経営指針として、社徳の確立を基本精神に、お客様に対して最高のサービス・商品をご提供することを最優先とし、併せて社員にとって働きがいのある会社の実現に努めるとともに、収益を拡大すること、警備業を中核としつつ新たな分野におけるサービス・商品を幅広くご提供すること、社会の発展に貢献するサービスの展開と商品の開発を行うことを定めております。

#### (2) 目標とする経営指標

当社グループは、収益性の向上のためセキュリティ事業を中心とした事業の拡大及び業務全般にわたる合理化・効率化の推進を重要な課題として位置付けており、現状では経営指標として「売上高経常利益率」を重視しております。また、株主資本の最適活用を図る経営指標としては、「ROE（連結自己資本当期純利益率）」を重視し、中期的にはROE10%を目指しております。

#### (3) 中長期的な会社の経営戦略

当社グループは、主力であるセキュリティ事業、ビル管理・防災事業、介護事業などを強化していくとともに、「お客様が抱える様々なリスクや人手不足等を背景としたアウトソースニーズに的確に答える」との方針のもと、最適な商品・サービスをご提供してまいります。また、少子高齢化に対応しコスト構造を抜本的に改革することにより、収益基盤を強化していきます。

#### (4) 経営環境及び会社の対処すべき課題

当社グループは、日本の警備業におけるリーディングカンパニーとして、社会の安全安心の確保に貢献するとともに、法令を順守し、社徳の高い会社を目指し、より一層の企業価値向上に取り組んでまいります。また、安全安心に係る社会インフラの一翼を担う企業として、従来の警備業の枠を超えたあらゆる分野においてビジネスチャンスを拡大すべく、「最新技術を活用した新商品・サービスの開発」を図ってまいります。

##### ア 多様化するお客様のニーズへの対応

お客様の安全安心に対するニーズは多様化しており、それに対して的確に最高の品質で応えていくことが重要であると認識しております。

大規模イベントや施設警備におきましては、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を控え、これまで培ってきた警備ノウハウに新たなICTを組み合わせ、IoT機器を装備した警備員等における円滑な連携を実現することで、インシデントの発生や予兆にいち早く対応する最先端の警備をご提供し、より迅速・より広範囲にわたる警備力の向上とコストの最適化を実現させるサービスの展開を図ってまいります。

この他、金融機関向けの各種アウトソーシングサービス、働き方改革等を背景とした施設管理や売上金管理等の各種業務の受託、建物設備管理の最適化を追求した包括的サービス等、官民を通じたあらゆる場面に安心と利便性をご提供する商品・サービスを拡充してまいります。

##### イ 事業領域の拡大

当社グループでは、個人のお客様の安全安心に関わる様々なニーズにお応えするとともに、企業活動を多方面からサポートするため、介護事業やビル管理に係る事業等セキュリティ事業とシナジー効果の見込める新規事業・サービスにも積極的に取り組んでまいりました。今後もこのような観点から事業領域の拡大を加速させてまいります。

##### ウ 海外事業の展開

国内企業の海外での活動が活発化するなか、当社グループは、海外でも高まる安全安心に対するニーズに対し、日本で培ったノウハウを基に、国ごとに最適な商品・サービスをご提供し、お客様の海外事業をサポートすべく、積極的な展開を図ってまいります。

##### エ 収益性と生産性の向上

当社グループの安定的・持続的な成長の実現に向けて、収益基盤の強化・多様化を進めるとともに、ビジネスプロセスの改革等による生産性の向上や政府が掲げる働き方改革に向けた積極的な取り組みを通して新たな付加価値の創出にも取り組んでまいります。

## 2 【事業等のリスク】

当社グループの事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資家の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項には、以下のようなものがあります。

なお、文中の将来に関する事項は、本報告書提出日現在において当社グループが判断したものであります。

### (1) 特定の業種に対する売上への依存について

当社グループの売上は、金融機関に対するものが2割超と高く、これら金融機関を取り巻く経済環境の動向によっては、大幅値下げや店舗の統廃合による既存の契約物件の解約等により、当社グループの業績に大きな影響を与える可能性があります。

そのため当社グループは、既存顧客との良好で安定した取引関係の維持と発展を目指すとともに、引き続き他業種への販売促進、新規顧客の開拓を積極的に進めてまいります。

### (2) 機械警備業務について

当社グループは、売上高の39.9%を機械警備業務に依存しております。機械警備業務の運用は、ガードセンター員及び警備員の人件費の負担に加えて、ガードセンター・待機所の設備、機械警備用の車両、通信システム等の活動基盤の構築及び維持のため、継続的な資本投入を前提としております。当社グループの機械警備業務に係る様々な要因により、一定規模の契約物件を請け負えなくなった場合は、当社グループの業績に影響を与える可能性があります。また、通信システム障害等によって業務運営に支障が生じた場合においても、同様に当社グループの業績が大きく悪化する可能性があります。

そのため、事業の多様化等を推進することにより、リスクを分散しております。

### (3) 警備輸送業務について

当社グループは、入金機オンラインシステム契約による売上金の入金処理等のための現金を、自己資金又は当座借越による資金調達で充当しております。当該資金調達に伴う金利が上昇した場合、金利の負担が当社グループの業績に影響を与える可能性があります。

そのため当社グループは、資金の効率的運用に努めておりますが、これら警備輸送業務用現金の調達に伴う金利が上昇した場合は、契約先等との基本契約書にて料金改定の条件を交わしております。なお、輸送中・保管中に生じた損害に対しては、貨紙幣有価証券包括運送保険に加入しております。

また、我が国において一段とキャッシュレス決済が普及した場合、現金輸送に対するニーズが低下し、当社グループの業績に影響を与える可能性があります。

そのため、当社グループは、キャッシュレス化の進展を踏まえた新サービスの開発を検討しております。

### (4) 特定の仕入先への依存について

当社グループの機械警備の中核であるガードセンターに設置の主たるセンター装置については、開発および供給をいくつかの企業に依存しております。このため大規模な自然災害等により、センター装置の供給に障害が生じた場合、当社グループのガードセンターの運用に影響を与える可能性があります。

当社グループは、このような障害に備え、センター装置だけではなく、機械警備サービスの提供に使用する主要機器の供給についても各供給メーカーと商品売買基本契約を締結して継続的な取引と必要機器の確保をしています。

また、通常見込まれる量の供給に備えるほか、万一に備えて一定量を在庫として保有しております。

### (5) 技術環境の変化への対応について

当社グループが適切にサービスを提供するには、「テロやサイバー攻撃など凶悪化・高度化した犯罪」、「少子化・高齢化の進展」、「地震や火山噴火、風水害等の自然災害」、「インフラ設備の老朽化」等に的確に対処する必要があるため、警備関連設備の開発にとどまらず、AI、IoT、ロボット、ICT技術等を活用した新たな商品・サービス開発が不可欠となっております。これらの技術環境の変化への対応に乗り遅れた場合は、当社グループの業績に影響を与える可能性があります。

そのため当社グループは、提出会社の研究開発部門を中心に、警備関連設備の開発やAI、IoT、ICT技術等の導入への対応に努めるとともに、通信・デバイスなどの最新技術動向についても把握を行うことで、リスク回避に努めております。

(6) お客様情報の管理について

当社グループは、お客様と警備請負契約等を締結する際、関係者の氏名、住所、電話番号及び警備対象物件に係る情報等大量のお客様情報を取得し、警備の実施や営業活動等に不可欠な基本情報として利用しております。今後、不可抗力的な原因によって発生した事故を含め、お客様情報の管理に重要な問題が発生した場合、信用の低下や損害賠償請求事案の発生により、当社グループの業績及び今後の事業展開に影響を与える可能性があります。

そのため当社グループは、個人情報保護に関する社員教育の実施、業務委託先の監督をはじめ、個人データの漏えいや滅失、毀損を防ぐための必要かつ適切な措置を講じることによりお客様情報の管理の徹底に努めております。さらに万一の事故に備え、当社グループ会社を対象とした企業包括保険である「サイバーリスク保険」に加入しております。

(7) 人材の確保について

近年、我が国では、平均寿命が延び、超高齢社会となる一方、少子化が進行しております。これらは新たな警備需要の増加を期待できる半面、警備業のように労働集約型の業界においては、若年労働者を採用することが困難になり、人手不足に起因した長時間労働に繋がる可能性があります。

そのため当社グループにおいては、政府主導の働き方改革を推進し、社員の健康を確保しながら労働生産性を高めつつ、グループ会社間の採用における協力体制を強化すると共に、全国に拠点がある強みを活かした地方採用ならびに通年採用の強化にも取り組んでおります。

また、都市部と地方部の人事交流を通じて、適材適所への配置と社員の能力育成にも努めております。

加えて、豊富な実務経験を有した定年再雇用者が長く活躍できる環境を整備するため、法を上回る年齢までの継続雇用制度をグループ会社に設定するなど、質の高い労働力の確保にも努めております。

(8) 法的規制について

当社グループは、セキュリティ事業等のサービスを提供するにあたり、各種の法的規制を受けており、主なものは次の表に記載の通りであります。

今後、これらの法的規制の改廃や新たな法的規制が設けられる場合には、当社グループの業績に影響を与える可能性があります。

主要なセグメント	関係する法律又は条例	監督官庁等
セキュリティ事業 (機械警備業務、 常駐警備業務、 警備輸送業務)	警備業法	国家公安委員会（警察庁）
	道路交通法	
	下請代金支払遅延等防止法	公正取引委員会、中小企業庁
	電気通信事業法	総務省
電波法		
セキュリティ事業 (機械警備業務) 総合管理・防災事業	建設業法	国土交通省
	電気工事業の業務の適正化に関する法律	経済産業省
セキュリティ事業 (機械警備業務)	電気用品安全法	経済産業省
	特定商取引法	経済産業省、消費者庁
	消費者契約法	消費者庁
セキュリティ事業 (警備輸送業務) その他	貨物自動車運送事業法	国土交通省
	貨物利用運送事業法	
	道路運送車両法	
セキュリティ事業 (警備輸送業務)	倉庫業法	国土交通省
セキュリティ事業 (常駐警備業務)	刑事収容施設法	法務省
	構造改革特別区域法	内閣府

主要なセグメント	関係する法律又は条例	監督官庁等
総合管理・防災事業	消防法	総務省
	火災予防条例	市町村
	医薬品医療機器等法	厚生労働省
	建築物衛生法	
	廃棄物処理法	環境省
	宅建業法	国土交通省
	建築士法	
	マンション管理適正化法	
	電気事業法	経済産業省
	液化石油ガスの保安の確保及び取引の適正化に関する法律	
介護事業	介護保険法	厚生労働省、都道府県、市町村
	老人福祉法	
その他	信書便法	総務省
	労働者派遣法	厚生労働省
	職業安定法	
	保険業法	金融庁
	金融商品の販売等に関する法律	
	犯罪による収益の移転防止に関する法律	国家公安委員会（警察庁）
	探偵業の業務の適正化に関する法律	
	個人情報保護法	個人情報保護委員会
	消費税転嫁対策特別措置法	公正取引委員会、中小企業庁、消費者庁
	景品表示法	消費者庁

(9) 自然災害等によるシステム障害への対応について

自然災害や事故等によってシステムに重大な障害が発生した場合、ご契約先との情報のやり取りができなくなり、業務が停止するおそれがあります。この場合、当社グループへの損害賠償請求の発生や社会的信用の低下につながり、業績及び今後の事業展開に影響を与えるほか、監視センター等の復旧に巨額な費用を要する可能性があります。

そのため当社グループは、事業継続の観点から東日本と西日本の2拠点にデータセンターを設置し、重要システムのバックアップ環境を構築するとともに相互監視によるバックアップ体制を構築しています。大規模な広域災害の発生に備え、今後も段階的に対策を講じることにより、更なるリスク回避に努めてまいります。

(10) 大規模災害等の発生に関するリスクについて

大規模な地震や風水害、これに伴う長期間に亘る停電などの災害が発生した場合には、当社グループの構築したネットワーク等のインフラが機能停止し、当社グループが提供するセキュリティ等のサービス提供に支障をきたすおそれがあります。さらに、契約先に設置されている当社グループ資産の警報機器等が災害等により損傷し、修理・交換等の対応を余儀なくされる可能性があります。大規模な地震、風水害などが発生した場合には、当社グループの業績および財務状況に影響を及ぼすおそれがあります。

そのため当社グループはこれら大規模災害の発生に備え、経験によって培ったノウハウを活かし、事業継続計画および災害対策規程に基づく対応マニュアルの整備、対策品の備蓄、全国規模による機動的な対応体制、定期的な教育訓練の実施など、対策を講じております。

なお、災害発生時において、ATMを可能な限り停止させない取り組みとして、平成26年3月20日、東京都内における当社管理のATMに現金を装填する警備輸送業務とATMの障害対応業務を対象に、警備サービスとしては国内初となる、国際規格ISO22301（事業継続マネジメントシステム）の認証を取得いたしました。今後、さらなる体制の強化を図り、社会インフラの維持に寄与してまいります。

### 3【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

#### (1) 経営成績等の状況の概要

当連結会計年度における当社グループの財政状態、経営成績及びキャッシュ・フロー（以下、「経営成績等」という。）の状況の概要は次のとおりであります。

#### ア 財政状態及び経営成績の状況

##### （業績等の概要）

当連結会計年度における我が国経済は、雇用、所得環境の改善が続くなか、個人消費や輸出が持ち直し、設備投資も緩やかに増加するなど、労働人口の減少を背景とする人手不足のなかにあつて、全体として緩やかに回復しました。また、世界経済も、地政学的リスク、通商問題の動向、金融資本市場のボラティリティ拡大等により先行の不透明感が拭えないものの、緩やかに回復しています。

国内治安情勢につきましては、刑法犯認知件数が戦後初めて100万件を割り込んだ平成28年を昨年はさらに下回り約91万件となったものの、高齢者・障がい者等を狙った凶悪な犯罪や特殊詐欺、ストーカー犯罪、子どもや女性を狙った犯罪などの身近な犯罪が後を絶たない状況です。また、自然災害、国際テロ、仮想通貨流出等のサイバー犯罪や情報漏えい等、社会を取り巻くリスクは多様化しており、安全安心に係る社会インフラの一翼を担う企業として、社会のニーズに応える様々なサービスの提供が求められていると認識しております。

このような情勢の中、当社グループは、「お客様が抱える様々なリスクやニーズに的確に応える」との方針のもと、引き続きセキュリティ事業の強化・拡大を推進し、加えて介護事業や設備管理等を含めた総合管理・防災事業等セキュリティ事業との親和性が高い事業の拡大にも注力してまいりました。また、人材のマルチタスク化やガードセンターの統合等のコスト削減策に取り組んでいるほか、生産性向上を目指して、当社グループ全体での業務改革に取り組むとともに、更なる成長に向けて、AI、IoT、5G等の最新技術を活用した新サービスの開発等にも挑戦いたしました。

以上の結果、当連結会計年度における当社グループの連結業績は、売上高は435,982百万円（前年同期比5.5%増）、営業利益は30,111百万円（前年同期比5.9%増）、経常利益は31,913百万円（前年同期比5.3%増）、親会社株主に帰属する当期純利益は19,344百万円（前年同期比5.5%増）となりました。

当社グループの連結損益計算書を項目別に対前年度で比較すると、次のとおりであります。

項目	前連結会計年度		当連結会計年度		前年同期比	
	金額 (百万円)	百分比 (%)	金額 (百万円)	百分比 (%)	増減額 (百万円)	増減率 (%)
売上高	413,343	100.0	435,982	100.0	22,638	5.5
売上原価	310,704	75.2	330,493	75.8	19,788	6.4
売上総利益	102,639	24.8	105,489	24.2	2,849	2.8
販売費及び一般管理費	74,217	18.0	75,378	17.3	1,161	1.6
営業利益	28,422	6.9	30,111	6.9	1,688	5.9
営業外収益	3,798	0.9	3,810	0.9	12	0.3
営業外費用	1,911	0.5	2,008	0.5	96	5.1
経常利益	30,309	7.3	31,913	7.3	1,604	5.3
特別利益	59	0.0	1	0.0	△57	△96.8
特別損失	153	0.0	74	0.0	△79	△51.8
法人税等	10,281	2.5	10,893	2.5	612	6.0
非支配株主に帰属する当期純利益	1,603	0.4	1,603	0.4	△0	△0.0
親会社株主に帰属する当期純利益	18,330	4.4	19,344	4.4	1,014	5.5

当連結会計年度の売上高は、前連結会計年度と比較して22,638百万円（5.5%）増加し、435,982百万円となりました。

売上原価につきましては、労務費9,870百万円、経費6,157百万円、工事・売却原価3,761百万円の増加により330,493百万円となりました。

販売費及び一般管理費につきましては、のれん償却額550百万円、給与諸手当453百万円の増加等により75,378百万円となりました。

経常利益につきましては、営業利益の増加に伴い1,604百万円（5.3%）増加し、31,913百万円となりました。

特別利益の減少は、投資有価証券売却益の減少によるものであります。

特別損失の減少は、前期に計上した厚生年金基金解散損失引当金繰入額95百万円の影響が剥落したこと等によるものであります。

親会社株主に帰属する当期純利益につきましては、経常利益の増加に伴い1,014百万円（5.5%）増加し、19,344百万円となりました。

なお、包括利益につきましては、2,691百万円（11.8%）増加の25,514百万円となりました。運用資産の評価額が増したことによる退職給付に係る調整額2,370百万円の増加が主たる要因であります。

セグメントごとの経営成績の状況につきましては、「（2）経営者の視点による経営成績等の状況に関する分析・検討内容 イ 当連結会計年度の経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容」に記載のとおりであります。

#### （連結貸借対照表項目の比較分析）

当社グループの連結貸借対照表を項目別に対前年度と比較すると、次のとおりであります。

項目		前連結会計年度		当連結会計年度		前年同期比	
		金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)	増減額 (百万円)	増減率 (%)
資産の部	流動資産	199,627	51.7	196,845	49.6	△2,781	△1.4
	固定資産	186,250	48.3	200,319	50.4	14,068	7.6
	資産総額	385,877	100.0	397,164	100.0	11,287	2.9
負債の部	流動負債	98,104	25.4	92,495	23.3	△5,609	△5.7
	固定負債	65,542	17.0	63,287	15.9	△2,255	△3.4
	負債総額	163,647	42.4	155,782	39.2	△7,864	△4.8
純資産の部総額		222,230	57.6	241,382	60.8	19,151	8.6

当連結会計年度末の資産総額は、前連結会計年度末と比較して11,287百万円（2.9%）増加し、397,164百万円となりました。うち流動資産は、2,781百万円（1.4%）減少の196,845百万円、固定資産は、14,068百万円（7.6%）増加の200,319百万円となりました。

流動資産の減少につきましては、受取手形及び売掛金が2,167百万円、警備輸送業務用現金が1,970百万円増加した一方、現金及び預金が8,013百万円減少した結果であります。

固定資産の増加につきましては、運用資産の評価額が増したことを受け退職給付に係る資産が3,716百万円、次期以降完成予定の基幹システムへの投資によりソフトウェア仮勘定等のその他の無形固定資産が3,022百万円、ALSOK関東デリバリー株式会社の連結子会社化等に伴いのれんが2,493百万円増加したことが主たる要因であります。このほか、リース資産が2,884百万円、機械装置及び運搬具が2,727百万円、投資有価証券が2,297百万円増加したことも、固定資産の増加の要因であります。

当連結会計年度末の負債総額は、前連結会計年度末と比較して7,864百万円（4.8%）減少し、155,782百万円となりました。うち流動負債は、5,609百万円（5.7%）減少の92,495百万円、固定負債は、2,255百万円（3.4%）減少の63,287百万円となりました。

流動負債の減少につきましては、未払金が5,701百万円、支払手形及び買掛金が1,994百万円増加した一方、短期借入金が13,002百万円減少した結果であります。

固定負債の減少につきましては、リース債務が2,564百万円増加した一方、長期借入金が2,667百万円、退職給付に係る負債が2,244百万円減少した結果であります。

当連結会計年度末の純資産の部総額は、前連結会計年度末と比較して19,151百万円（8.6%）増加し、241,382百万円となりました。

イ キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度における現金及び現金同等物（以下、「資金」という。）は40,484百万円（前年同期比14.9%減）となりました。

（単位：百万円）

	前連結会計年度	当連結会計年度	前年同期比 (%)
	(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)	
営業活動によるキャッシュ・フロー	54,561	25,496	△53.3
投資活動によるキャッシュ・フロー	△22,055	△19,125	△13.3
財務活動によるキャッシュ・フロー	△20,582	△13,429	△34.8
現金及び現金同等物に係る換算差額	△4	△7	78.2
現金及び現金同等物の増加額 (△は減少)	11,919	△7,064	—
現金及び現金同等物の期首残高	35,630	47,549	33.5
現金及び現金同等物の期末残高	47,549	40,484	△14.9

当連結会計年度における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

当連結会計年度の営業活動の結果増加した資金は25,496百万円（前年同期比53.3%減）であります。資金の主な増加要因は、税金等調整前当期純利益により31,841百万円（前年同期比5.4%増）、減価償却費による資金の内部留保により14,133百万円（前年同期比2.6%増）、仕入債務の増加による資金の増加5,033百万円（前年同期は2,300百万円の減少）であります。これらに対し、資金の主な減少要因は、警備輸送業務に係る資産・負債の増減により13,630百万円（前年同期は18,157百万円の増加）、法人税等の支払により11,591百万円（前年同期比9.2%増）であります。

なお、警備輸送業務に係る資産・負債の増減額には、警備輸送業務用現金及び短期借入金のうち警備輸送業務用に調達した資金等の増減が含まれております。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

当連結会計年度の投資活動の結果使用した資金は19,125百万円（前年同期比13.3%減）であります。有形固定資産を11,776百万円（前年同期比7.0%増）、子会社株式を5,973百万円（前年同期比7.0%減）、投資有価証券を1,987百万円（前年同期比31.5%減）取得したことが主たる要因であります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

当連結会計年度の財務活動により減少した資金は13,429百万円（前年同期比34.8%減）であります。配当金の支払により5,780百万円（前年同期比0.0%減）、リース債務の返済により4,420百万円（前年同期比3.6%増）、長期借入金の返済により3,456百万円（前年同期比9.7%減）の資金が減少した結果であります。

ウ 生産、受注及び販売の実績

(生産実績)

当社グループは生産活動を行っておりませんが、当連結会計年度末日現在実施中の契約件数をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

なお、当連結会計年度より報告セグメントを変更しております。前期比較にあたっては、前連結会計年度の実績を変更後の区分方法に組み替えて行っております。

セグメントの名称	前連結会計年度末 (平成29年3月31日)	当連結会計年度末 (平成30年3月31日)	前年同期比 (%)
セキュリティ事業			
機械警備業務 (件)	888,955	922,928	3.8
常駐警備業務 (件)	4,213	4,357	3.4
警備輸送業務 (件)	65,755	72,454	10.2
合計 (件)	958,923	999,739	4.3
総合管理・防災事業 (件)	89,670	98,044	9.3
介護事業 (件)	22,628	21,234	△6.2
報告セグメント計 (件)	1,071,221	1,119,017	4.5
その他 (件)	22,285	25,263	13.4
合計 (件)	1,093,506	1,144,280	4.6

(注) 上記件数は当社グループがサービスを提供している対象先数ではなく、お客様と約定している契約の数を集計したものであります。

(販売実績)

販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

なお、当連結会計年度より報告セグメントを変更しております。前期比較にあたっては、前連結会計年度の実績を変更後の区分方法に組み替えて行っております。

セグメントの名称	前連結会計年度 (自平成28年4月1日 至平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自平成29年4月1日 至平成30年3月31日)	前年同期比 (%)
セキュリティ事業			
機械警備業務 (百万円)	170,585	173,849	1.9
常駐警備業務 (百万円)	100,465	110,243	9.7
警備輸送業務 (百万円)	56,119	60,209	7.3
合計 (百万円)	327,169	344,302	5.2
総合管理・防災事業 (百万円)	57,819	61,993	7.2
介護事業 (百万円)	24,921	25,631	2.8
報告セグメント計 (百万円)	409,910	431,927	5.4
その他 (百万円)	3,433	4,055	18.1
合計 (百万円)	413,343	435,982	5.5

(注) 1. 金額には、消費税等は含まれておりません。  
2. 販売実績が総販売実績の10%以上の相手はありません。

(2) 経営者の視点による経営成績等の状況に関する分析・検討内容

経営者の視点による当社グループの経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容は次のとおりであります。

なお、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において判断したものであります。

ア 重要な会計方針及び見積り

当社グループの連結財務諸表は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づき作成しております。この連結財務諸表の作成にあたり、重要となる会計方針については、「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 (1) 連結財務諸表 連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」に記載のとおりであります。

また、当社グループは、連結財務諸表の作成上、各種引当金の見積り計算や繰延税金資産の回収可能性の判断等に対し、現在入手可能な前提に基づく合理的な見積りを反映させておりますが、将来、これらの見積りと大きな差が生じる可能性があります。

なお、重要な会計方針のうち、見積りや仮定等による影響が大きいと考えている項目は、次のとおりであります。

(退職給付会計)

退職給付債務及び年金資産は、金額の算定手続きにおいて、年金数理計算上の見積りや仮定計算が含まれております。算定上の前提とした割引率、将来の給与水準、年金資産の長期期待運用収益率、退職率及び死亡率の見積りや仮定等は、現在把握可能な各種のデータを勘案して設定しております。これらの前提に用いた見積りや仮定等と実績との間に生じる差異については、一定の年数による定額法で償却を行っており、将来における営業費用等に影響を与える場合があります。

(繰延税金資産)

繰延税金資産は、グループ会社各社の中期利益計画や事業リスク等に基づいて課税所得を見積り、会社別に回収可能性を判断の上、計上しております。従って、グループ会社各社の見積りと実績との差異や税率の変更等により、現在計上している繰延税金資産に影響を与える場合があります。

(固定資産の減損)

固定資産については、「固定資産の減損に係る会計基準及び適用指針」に基づき、減損処理の可否を判定しております。将来の企業環境等の変化等により、回収可能価額が帳簿価額を下回ることとなった場合には、減損処理が必要となる可能性があります。

イ 当連結会計年度の経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容

(経営者の視点による分析・検討内容)

当連結会計年度における当社グループの連結業績は、「(1) 経営成績等の状況の概要 ア 財政状態及び経営成績の状況」に記載のとおりであり、売上は、8期連続で増収、7期連続で過去最高を更新いたしました。利益についても、各利益段階で過去最高を更新し、親会社株主に帰属する当期純利益は、6期連続で増益となりました。当社グループは、M&Aの活用等によりセキュリティ事業を強化するとともに、セキュリティ事業と親和性の高い総合管理・防災事業等を拡大し、多様化するお客様と社会の安全・安心ニーズに積極的に応えることに注力しております。また、海外事業においては当該国企業に出資する等事業基盤の強化を図りました。

当社グループは、経営上の目標の達成状況を判断するための客観的な指標として、売上高経常利益率とROE（連結自己資本当期純利益率）を重視しております。当連結会計年度は、売上高経常利益率7.3%、ROE9.3%という水準にあり、中期的にはそれぞれ8.0%程度と10.0%程度を目指してまいります。

今後の事業環境を展望すれば、人手不足による制約はあるものの、従来の警備ニーズに加え、内外環境の変化による設備管理・防災等安全・安心ニーズの高まり、ラグビーワールドカップ2019や東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催に向けたハード・ソフトのインフラ整備の加速等により、ビジネスチャンスの更なる拡大が期待されます。当社グループは、こうした状況の中で、AI、IoT、5G、ロボット等新技術の活用等により新商品・サービスを開発し、グループ会社を含めたグループ全体での生産性向上を実現することにより、更なる成長を実現してまいります。

セグメントごとの経営成績の状況に関する認識及び分析・検討内容は次のとおりであります。なお、当社グループは、資産については事業セグメントに配分していないことから、セグメントごとの財政状態の状況に関する認識及び分析・検討内容は省略しております。また、当連結会計年度より報告セグメントならびに一部の収益及び費用の配分方法を変更しております。前期比較にあたっては、前連結会計年度の実績を変更後の区分および配分方法に組み替えて行っております。

#### 売上高のセグメント別の増減

セグメントの名称	前連結会計年度		当連結会計年度		前年同期比	
	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	増減率 (%)
セキュリティ事業						
機械警備業務	170,585	41.3	173,849	39.9	3,264	1.9
常駐警備業務	100,465	24.3	110,243	25.3	9,777	9.7
警備輸送業務	56,119	13.6	60,209	13.8	4,090	7.3
合計	327,169	79.2	344,302	79.0	17,132	5.2
総合管理・防災事業	57,819	14.0	61,993	14.2	4,174	7.2
介護事業	24,921	6.0	25,631	5.9	709	2.8
報告セグメント計	409,910	99.2	431,927	99.1	22,016	5.4
その他	3,433	0.8	4,055	0.9	622	18.1
合計	413,343	100.0	435,982	100.0	22,638	5.5

セキュリティ事業につきましては、機械警備業務においては、法人向けサービスとして、侵入や火災、設備等の監視・管理サービスを備えたセキュリティシステム「ALSOK-ST（スタンダード）」の販売を推進してまいりました。また、昨今の人手不足を背景とした長時間労働の問題や「働き方改革」を背景に、適切な施設管理や勤怠管理に対するニーズの高まりから、画像監視に加え、出退勤情報等の閲覧や、設備の遠隔操作をWeb上で行える「ALSOK情報提供サービス」を備えた「ALSOK-GV（ジーファイブ）」、ALSOK画像クラウドサービス等の防犯カメラシステムや出入管理システム等の販売が好調に推移し売上に貢献しました。

個人向けサービスとしては、高度なセキュリティシステムを標準機能として搭載する「ホームセキュリティBasic」に加え、お客様の多様なご要望や家庭環境に合わせ、さらにきめ細やかな機能を提供する「HOME ALSOK Premium」の販売が堅調に推移しました。また、少子高齢化が進む社会に貢献するサービスとして「HOME ALSOKみまもりサポート」や、地域見守りネットワークの構築を支援する「みまもりタグ」の拡販に努めました。

常駐警備業務においては、人手不足の中で各種リスクに対する高品質な警備や警備強化へのニーズ、製造業等の警備業務アウトソーシングの動き、首都圏等の再開発に伴う警備ニーズ等がますます高まっています。警備輸送業務においては、金融機関における受注が堅調に推移したほか、働き方改革の進展や人手不足を背景として小売・飲食店等からの入（出）金機の受注が好調に推移しました。

これらに加え、M&A効果もあり、セキュリティ事業の売上高は344,302百万円（前年同期比5.2%増）、営業利益は33,292百万円（前年同期比2.0%増）となりました。

総合管理・防災事業につきましては、グループ内での連携強化による各種施設の維持・管理・運営に関する総合的なマネジメントに注力し、建物の総合管理や清掃業務、改修工事の受注が売上に貢献しました。そのほか、防災・減災ニーズの高まりによる災害対策用品や住宅用火災警報器等消火設備の販売が売上に貢献しました。さらに、建設需要の高まりを背景に設備工事部門の受注が堅調に推移したこともあり、総合管理・防災事業の売上高は61,993百万円（前年同期比7.2%増）、営業利益は5,075百万円（前年同期比10.8%増）となりました。

介護事業につきましては、施設介護事業（有料老人ホーム・グループホーム等）の利用者増加が売上に貢献し、売上高は25,631百万円（前年同期比2.8%増）となりました。利益については、要員配置の適正化等の事業効率化に取り組むなど経営改善の効果もあらわれて、単年度において営業利益は105百万円（前年同期は354百万円の営業損失）となり、部門黒字化を果たしました。

当業界においても人手不足が深刻化しており、今後の事業拡大の阻害要因になりかねませんが、新技術の活用や生産性の向上などで課題を克服し、引き続き拡大する社会の安心・安全ニーズに応じていくことが重要であると考えております。

(資本の財源及び資金の流動性)

当社グループの運転資金需要のうち主なものは、労務費や外注費を中心とする売上原価、人件費を中心とする販売費及び一般管理費、および警備輸送業務における入金機オンラインシステム契約による売上金の入金処理等のための現金であります。また、投資目的の資金需要のうち主なものは、小口多数の機械警備に係る警報機器の取得によるものであり、当連結会計年度後1年間における資本的支出を含む設備投資計画は、「第3 設備の状況 3 設備の新設、除却等の計画」に記載のとおりであります。

このような資金需要の状況の下、当社グループの資金調達は短期運転資金の調達が中心となっており、その調達方法としては自己資金および金融機関からの短期借入を基本としております。また、長期運転資金の調達の必要が生じた場合については、金融機関からの長期借入を基本としております。

当連結会計年度のキャッシュ・フローの状況につきましては、「(1) 経営成績等の状況の概要 イ キャッシュ・フローの状況」に記載のとおりであります。

また、当連結会計年度末日時点における負債による資金調達の状況につきましては、「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 (1) 連結財務諸表 ⑤連結附属明細表」における社債明細表および借入金等明細表に記載のとおりであります。なお、同日末時点における主要な借入先別の借入金額は、株式会社みずほ銀行が8,970百万円、株式会社三井住友銀行が4,197百万円、株式会社三菱東京UFJ銀行が2,754百万円、株式会社りそな銀行が1,280百万円となっております。

#### 4 【経営上の重要な契約等】

- (1) セキュリティ事業（常駐警備業務）を営むALSOK-TW東日本株式会社は、平成29年4月1日付で、NTTグループのテルウェル東日本株式会社の警備事業を会社分割（吸収分割）により承継しました。同社は当社の連結の範囲に含まれております。
- (2) 当社は、平成29年7月3日付で、東武鉄道株式会社の100%子会社である東武デリバリー株式会社の警備輸送業務を会社分割（吸収分割）により承継した新設会社の全株式を取得し、同社の商号をALSOK関東デリバリー株式会社に変更いたしました。同社は当社の連結の範囲に含まれております。
- (3) 当社は、平成29年10月3日付で、当社の連結子会社である群馬総合ガードシステム株式会社と株式交換契約を締結したうえで、平成29年11月10日付にて本株式交換を実施し、同社を完全子会社といたしました。
- (4) 当社は、平成30年6月18日付で、投資事業有限責任組合キャス・キャピタル・ファンド六号無限責任組合員CCP6株式会社および個人株主4名から株式会社ケアプラスの全株式を譲り受けることについて、それぞれの株主との間で株式譲渡契約を締結いたしました。

#### 5 【研究開発活動】

当社グループにおける研究開発活動は、主に提出会社が行っております。当社の研究開発は、収益性の向上に貢献することを目的とし、多様化する市場ニーズを捉え、かつ市場競争力のある技術および商品の開発を推進することを基本方針としております。当連結会計年度における研究開発費は、総額463百万円であり、主にセキュリティ事業に係るものであります。また、当社の研究開発部門は、研究や開発に該当しない調査・企画・知的財産管理・品質管理等の活動についても研究開発と一体として行っており、研究開発費にこうした活動に係る費用を加えた総額は1,203百万円であります。

当社では、毎日の安心・安全な暮らしのために、「警備会社」のノウハウに「情報技術」を取り入れ、「テロやサイバー攻撃など凶悪化・高度化した犯罪」、「少子化・高齢化の進展」などに対処するために、次のような研究を行っております。

##### (1) 個人向けセキュリティ

ホームセキュリティサービスにとどまらず、今後益々需要が拡大する高齢者市場に対応するべく、次世代に求められる、介護サービスを加えた日々の生活の安心・安全を支援する総合的なセキュリティサービスの研究開発を進めていきます。

##### (2) 最新技術を活用した独自のセキュリティシステム

不審者発見や犯罪・テロ防止を図るべく、「被害未然防止サービス」の実現を目指しており、AI、IoT、ICT技術を活用した、高品位・高度化・効率化を求める研究開発を行っています。

急速に進む人手不足の中で、省人化を目指した次世代のセキュリティシステムの創造に積極的に取り組む一方で、既存の警備センサーの改良なども行い、常に社会環境に適応した最先端のセキュリティを追及しています。

##### (3) 情報通信端末を利用した警備サービス

急速に普及、発達している情報通信端末や無線通信ネットワーク等の先端技術を利用し、お客さまにより使いやすく、より低コストなサービスを提供するための研究開発に取り組んでいます。

##### (4) ロボットシステム

長年の研究で培った自律走行機能や警備機能、案内機能などを搭載した警備ロボットを開発し、全国の商業施設やオフィスビルなどにご提供してきました。今後も、AIや高度な画像処理技術などこれまで積み上げてきたテクノロジーとノウハウを組み合わせることで、新たなロボットシステムの研究開発に取り組んでいきます。

##### (5) 情報警備

「生命・財産」に加え「情報」を警備するというコンセプトの下、物理的なセキュリティとサイバーセキュリティ両面からの情報セキュリティソリューション「情報警備」の開発を行い、メニューの充実に取り組んでいます。

### 第3【設備の状況】

#### 1【設備投資等の概要】

当社グループでは、警備業務を中心とした事業の拡大への対応と能力の向上を図るため、当連結会計年度において有形固定資産並びに無形固定資産へ総額16,855百万円の設備投資を実施致しました。その主な内容は、次のとおりであります。

機械警備用機器	9,582百万円
建物	368百万円
器具備品	948百万円
ソフトウェア	1,060百万円
その他の無形固定資産	3,245百万円

これらのうち、その他の無形固定資産に係る設備投資額は、主として次期以降完成予定の基幹システムへの投資に係るソフトウェア仮勘定であります。

なお、設備投資等の金額は、事業セグメントに配分しておりません。

## 2 【主要な設備の状況】

当連結会計年度における主要な設備の状況は、次のとおりであります。

### (1) 提出会社の状況

平成30年3月31日現在

事業所名 (所在地)	セグメントの名称	設備の内容	帳簿価額（百万円）						従業員数 (人)
			建物及び 構築物	機械装置 及び運搬具	土地 (面積㎡)	リース資産	その他	合計	
本社 (東京都港区)	セキュリティ事業 総合管理・防災事業 その他	建物及び構築物、 工具器具備品	287	2,817	－ (－)	22	1,272	4,400	2,224
中央支社他 第一地域本部管内 8支社 (東京都中央区 他)	セキュリティ事業 総合管理・防災事業 その他	建物及び構築物、 土地、警報機器	77	2,722	135 (501.82)	475	42	3,452	1,954
大阪中央支社他 第二地域本部管内 13支社 (大阪市中央区 他)	セキュリティ事業 総合管理・防災事業 その他	建物及び構築物、 土地、警報機器	951	3,600	930 (4,373.60)	290	405	6,178	1,843
名古屋支社他 第三地域本部管内 4支社 (名古屋市中村区 他)	セキュリティ事業 総合管理・防災事業 その他	建物及び構築物、 土地、警報機器	206	1,141	197 (1,071.60)	121	111	1,777	744
宮城支社他 第四地域本部管内 3支社 (仙台市青葉区 他)	セキュリティ事業 総合管理・防災事業 その他	建物及び構築物、 土地、警報機器	672	854	228 (2,943.40)	85	76	1,917	635
千葉支社他 第五地域本部管内 10支社 (千葉市美浜区 他)	セキュリティ事業 総合管理・防災事業 その他	建物及び構築物、 土地、警報機器	2,211	2,476	1,208 (6,244.37)	253	103	6,253	1,549
横浜支社他 第六地域本部管内 5支社 (横浜市西区他)	セキュリティ事業 総合管理・防災事業 その他	建物及び構築物、 警報機器	183	1,238	－ (－)	296	150	1,867	817
静岡支社他 第七地域本部管内 4支社 (静岡市葵区他)	セキュリティ事業 総合管理・防災事業 その他	建物及び構築物、 土地、警報機器	1,581	1,048	1,109 (3,305.80)	125	60	3,924	806
岡山支社他 第八地域本部管内 3支社 (岡山市北区他)	セキュリティ事業 総合管理・防災事業 その他	建物及び構築物、 土地、警報機器	236	603	272 (6,101.00)	108	61	1,283	504
福岡支社他 第九地域本部管内 5支社 (福岡市博多区 他)	セキュリティ事業 総合管理・防災事業 その他	建物及び構築物、 土地、警報機器	871	1,342	470 (5,486.54)	225	109	3,019	900

## (2) 子会社の状況

平成30年3月31日現在

事業所名 (所在地)	セグメントの名称	設備の内容	帳簿価額 (百万円)						従業員数 (人) 外[臨時 雇用者]
			建物及び 構築物	機械装置 及び運搬具	土地 (面積㎡)	リース資産	その他	合計	
㈱ウイズネット (さいたま市大宮 区)	介護事業	介護施設	76	0	—	7,952	49	8,077	1,276 [2,208]
ALSOK福島㈱ (福島県郡山市)	セキュリティ事業 総合管理・防災事 業 その他	建物及び構築 物、土地、警 報機器	313	599	699 (9,424.96)	3,395	145	5,153	764 [164]
広島総合警備保障 ㈱ (広島市安佐南 区)	セキュリティ事業 総合管理・防災事 業 その他	建物及び構築 物、土地、警 報機器	1,366	569	2,866 (25,336.00)	140	147	5,091	651 [56]
北関東総合警備保 障㈱ (栃木県宇都宮 市)	セキュリティ事業 総合管理・防災事 業 その他	建物及び構築 物、土地、警 報機器	1,614	196	920 (13,092.35)	1,088	187	4,008	711 [144]
㈱HCM (東京都港区)	介護事業	介護施設	16	0	—	3,048	23	3,087	339 [641]

- (注) 1. 帳簿価額「その他」は、建設仮勘定及びその他の有形固定資産です。金額には、消費税等は含まれておりません。
2. 上記のほか、機械装置、営業所・事務所等を中心に賃借資産があります。なお、当社グループにおける当連結会計年度の賃借料は21,745百万円であります。
3. 資産については、事業セグメントに配分しておりません。

## 3 【設備の新設、除却等の計画】

当社グループは、設備の新設・拡充の計画が多岐にわたるため、設備等の主な内容・目的ごとの数値を記載しております。

当社グループの当連結会計年度後1年間の設備投資計画(新設・拡充)は21,400百万円であり、その内訳は次のとおりであります。

設備等の主な内容・目的	設備投資予定額 (百万円)
ガードセンター設備、契約先設置警備用機器	11,500
資金センター設備、警備輸送車等	1,300
防災設備等	800
ネットワークシステム等 (次期以降完成予定の基幹システムを含む)	7,800
合計	21,400

- (注) 1. 金額には、消費税等は含まれておりません。
2. 設備投資は、自己資金、銀行借入金によって賄う予定であります。
3. 経常的な設備の更新のための除却等を除き、重要な設備の除却等の計画はありません。

## 第4【提出会社の状況】

### 1【株式等の状況】

#### (1)【株式の総数等】

##### ①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	300,000,000
計	300,000,000

##### ②【発行済株式】

種類	事業年度末現在発行数 (株) (平成30年3月31日)	提出日現在発行数 (株) (平成30年6月26日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	102,040,042	102,040,042	東京証券取引所 (市場第一部)	権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式であり、単元株式数は100株であります。
計	102,040,042	102,040,042	—	—

#### (2)【新株予約権等の状況】

##### ①【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

##### ②【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### ③【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

#### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

#### (4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金 増減額 (百万円)	資本金 残高 (百万円)	資本 準備金 増減額 (百万円)	資本 準備金 残高 (百万円)	摘要
平成20年4月1日～ 平成21年3月31日	1,000	102,040,042	0	18,675	0	29,320	ストックオプションの権利行使 (1種類) 発行価格 1,338円 資本組入額 669円 増加株式数 1,000株

## (5) 【所有者別状況】

平成30年3月31日現在

区分	株式の状況（1単元の株式数100株）								単元未満株式の 状況 (株)
	政府及び地 方公共団体	金融機関	金融商品 取引業者	その他の 法人	外国法人等		個人その他	計	
					個人以外	個人			
株主数 (人)	—	80	37	137	464	10	11,853	12,581	—
所有株式数 (単元)	—	332,323	6,435	246,270	230,462	19	204,715	1,020,224	17,642
所有株式数の 割合(%)	—	32.57	0.63	24.13	22.58	0.00	20.06	100.00	—

(注) 自己株式781,657株は、「個人その他」に7,816単元及び「単元未満株式の状況」に57株を含めて記載しております。

## (6) 【大株主の状況】

平成30年3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式（自己 株式を除く。）の 総数に対する所有 株式数の割合 (%)
総合商事(株)	東京都新宿区山吹町130-16 エスポワールビル21ビル	7,388	7.29
埼玉機器(株)	埼玉県さいたま市中央区下落合七丁目1-3	5,283	5.21
総合警備保障従業員持株会	東京都港区元赤坂一丁目6-6	4,269	4.21
みずほ信託銀行(株)退職給付信託み ずほ銀行口再信託受託者資産管理 サービス信託銀行(株)	東京都中央区晴海一丁目8-12 晴海アイランドトリトンスクエアオフィス タワーZ棟	4,261	4.20
かまくら商事(株)	東京都千代田区神田小川町三丁目6-8	4,150	4.09
日本マスタートラスト信託銀行(株) (信託口) (注)	東京都港区浜松町二丁目11-3	3,739	3.69
日本トラスティ・サービス信託銀 行(株) (信託口) (注)	東京都中央区晴海一丁目8-11	3,421	3.37
きずな商事(株)	東京都千代田区神田小川町三丁目6-8	2,950	2.91
村井 温	東京都杉並区	2,885	2.84
(株)SMBC信託銀行 (株)三井住友銀行 退職給付信託口)	東京都港区西新橋一丁目3-1	2,735	2.70
計	—	41,084	40.57

(注) 上記の所有株式数のうち、信託業務に係る株式数は次のとおりであります。

日本マスタートラスト信託銀行(株) (信託口) 2,940千株

日本トラスティ・サービス信託銀行(株) (信託口) 1,521千株

## (7) 【議決権の状況】

## ① 【発行済株式】

平成30年3月31日現在

区分	株式数 (株)	議決権の数 (個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式 (自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式 (その他)	—	—	—
完全議決権株式 (自己株式等)	普通株式 781,600	—	権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式であり、単元株式数は100株であります。
完全議決権株式 (その他)	普通株式 101,240,800	1,012,408	同上
単元未満株式	普通株式 17,642	—	1単元(100株)未満の株式であります。
発行済株式総数	102,040,042	—	—
総株主の議決権	—	1,012,408	—

## ② 【自己株式等】

平成30年3月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数 (株)	他人名義所有株式数 (株)	所有株式数の合計 (株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合 (%)
総合警備保障株	東京都港区 元赤坂一丁目 6-6	781,600	—	781,600	0.76
計	—	781,600	—	781,600	0.76

## 2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 会社法第155条第7号および第9号に該当する普通株式の取得

### (1) 【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

### (2) 【取締役会決議による取得の状況】

区分	株式数 (株)	価額の総額 (円)
取締役会 (平成29年12月5日) での決議状況 (取得期間 平成29年12月5日)	2	株式数に取締役会決議日の終値を乗じた金額
当事業年度前における取得自己株式	—	—
当事業年度における取得自己株式	2	12,200
残存決議株式の総数及び価額の総額	—	—
当事業年度の末日現在の未行使割合 (%)	—	—
当期間における取得自己株式	—	—
提出日現在の未行使割合 (%)	—	—

(注) 買取単価は、買取日の株式会社東京証券取引所における当社株式の終値であります。

### (3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

区分	株式数 (株)	価額の総額 (円)
当事業年度における取得自己株式	191	1,101,285
当期間における取得自己株式	—	—

(注) 当期間における取得自己株式には、平成30年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取による株式は含まれておりません。

### (4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数 (株)	処分価額の総額 (円)	株式数 (株)	処分価額の総額 (円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式	—	—	—	—
消却の処分を行った取得自己株式	—	—	—	—
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式	725,500	4,374,765,000	—	—
その他	—	—	—	—
保有自己株式数	781,657	—	781,657	—

(注) 1. 当事業年度における「合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式」は、平成29年11月10日を効力発生日とした当社の連結子会社 (群馬綜合ガードシステム株式会社) を完全子会社化する簡易株式交換において、株式の割当に自己株式725,500株を充当したことによるものです。

2. 当期間における保有自己株式には、平成30年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取による株式は含まれておりません。

### 3 【配当政策】

当社は、株主に対する利益還元を経営の重要政策として位置付け、内部留保の充実を図りながら、業績に裏付けられた成果の配分を行うことを基本方針としております。内部留保資金は、将来の成長・発展に必要な研究開発費、情報システムの高度化や新規事業のための設備投資等に充当し、業績の一層の向上に努めてまいります。

また、当社は中間配当と期末配当の年2回の剰余金の配当を行うことを基本的な方針としており、これらの剰余金の配当の決定機関は、期末配当については株主総会、中間配当については取締役会であります。

当期（平成30年3月期）の配当につきましては、当期の業績、来期以降の業績見通し、設備投資計画等を総合的に勘案し、中間配当（1株当たり30円00銭）と合わせ、1株当たり年60円00銭、配当性向は33.7%となります。

「当社は、取締役会の決議によって、毎年9月30日の最終の株主名簿に記載又は記録された株主又は登録株式質権者に対し、中間配当を行うことができる。」旨を定款に定めております。

なお、当事業年度に係る剰余金の配当は以下の通りであります。

決議年月日	配当金の総額（百万円）	1株当たり配当額（円）
平成29年10月31日 取締役会決議	3,015	30.0
平成30年6月26日 定時株主総会決議	3,037	30.0

### 4 【株価の推移】

#### （1）【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次	第49期	第50期	第51期	第52期	第53期
決算年月	平成26年3月	平成27年3月	平成28年3月	平成29年3月	平成30年3月
最高（円）	2,260	4,445	6,480	6,440	6,520
最低（円）	1,260	2,088	3,750	4,025	4,205

（注）最高・最低株価は、東京証券取引所市場第一部におけるものであります。

#### （2）【最近6月間の月別最高・最低株価】

月別	平成29年10月	11月	12月	平成30年1月	2月	3月
最高（円）	5,470	6,230	6,330	6,520	5,780	5,310
最低（円）	4,910	5,520	5,890	5,710	4,845	4,795

（注）最高・最低株価は、東京証券取引所市場第一部におけるものであります。

## 5 【役員 の 状 況】

男性 16名 女性 一名 (役員のうち女性の比率 -%)

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (株)
代表取締役会長	最高経営責任者 (CEO)	村井 温	昭和18年2月12日生	平成7年9月 警察庁中部管区警察局長 (平成8年6月退官) 平成8年6月 預金保険機構理事 (平成9年9月退任) 平成9年9月 当社顧問就任 平成10年6月 代表取締役副社長就任 平成13年6月 代表取締役社長就任 平成15年7月 営業本部長 平成16年4月 警備運用本部長 平成23年4月 最高経営責任者(CEO)就任 (現任) 平成24年4月 代表取締役会長就任 (現任) (主要な兼職) 平成9年12月 総合商事㈱代表取締役 (現任)	(注) 3	2,885,074
代表取締役社長 (社長執行役員)	最高執行責任者 (COO) 営業本部長	青山 幸恭	昭和27年9月28日生	平成18年7月 財務省関税局長 (平成20年7月退官) 平成20年8月 当社常務執行役員就任 警備運用本部長 平成21年4月 人事総括担当 運用担当 企業倫理担当 平成21年6月 代表取締役専務執行役員就任 平成22年4月 代表取締役副社長執行役員就任 営業本部長 平成23年4月 最高執行責任者(COO)就任 (現任) 平成24年4月 代表取締役社長就任 (現任) 社長執行役員就任 (現任) 平成30年4月 営業本部長 (現任) (主要な兼職) 平成26年6月 一般社団法人全国警備業協会会長 (現任)	(注) 3	13,700
代表取締役 (専務執行役員)	ALSOKカンパニー長 東日本担当 営業本部副本部長 法人担当	栢木 伊久二	昭和35年1月3日生	昭和57年4月 当社入社 平成23年4月 第四地域本部長 平成24年4月 執行役員就任 平成26年4月 運用副総括担当 警送構造改革担当 平成27年4月 常務執行役員就任 運用総括担当 平成29年6月 取締役常務執行役員就任 平成30年4月 代表取締役専務執行役員就任 (現任) ALSOKカンパニー長 (現任) 東日本担当 (現任) 営業本部副本部長 (現任) 法人担当 (現任)	(注) 3	4,200

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (株)
取締役 (専務執行役員)	経営企画担当 戦略事業担当 営業本部副本部長 営業企画・管理担当 営業推進担当 金融担当	穂苅 裕久	昭和31年7月4日生	平成22年4月 日本銀行業務局長(平成23年6月退職) 平成23年6月 当社執行役員就任 営業企画担当 金融営業・営業推進担当 営業企画部長 平成24年2月 常務執行役員就任 営業本部副本部長(現任) 営業企画・管理担当 平成24年4月 金融営業担当 警送営業担当 平成26年4月 総務・企画担当 金融営業総括担当 コンプライアンス担当 リスク管理担当 情報資産管理担当 平成26年6月 取締役常務執行役員就任 平成28年4月 経営企画担当(現任) 戦略事業担当(現任) 営業企画・管理担当(現任) 金融担当(現任) 平成30年4月 取締役専務執行役員就任(現任) 営業推進担当(現任)	(注)3	3,600
取締役 (常務執行役員)	海外事業担当 調達担当 海外事業本部長	大谷 啓	昭和32年4月5日生	平成20年4月 ㈱みずほコーポレート銀行(現㈱みずほ銀行)執行役員就任(平成22年4月退任) 平成22年6月 当社執行役員就任 経理担当 内部統制担当 平成23年6月 常務執行役員就任 平成24年4月 調達担当 平成25年4月 海外事業担当(現任) 平成26年4月 海外統括本部長 平成28年6月 取締役常務執行役員就任(現任) 平成30年4月 海外事業本部長(現任) 調達担当(現任)	(注)3	2,500
取締役 (常務執行役員)	人事総括担当 総務・広報担当 東京オリンピック・パラリンピック推進本部長 中日本担当 営業本部副本部長 中日本営業担当 企業倫理担当 コンプライアンス担当 リスク管理担当 情報資産管理担当	村井 豪	昭和44年8月15日生	平成11年7月 当社入社 平成19年6月 ホームマーケット営業部長 平成22年4月 執行役員就任 第一地域本部長 平成23年2月 総合管理担当 平成23年3月 日本ファシリオ㈱出向 代表取締役社長就任(平成26年3月退任) 平成26年4月 常務執行役員就任 営業本部副本部長(現任) 営業企画・管理担当 地域金融営業担当 平成28年4月 人事総括担当(現任) 企業倫理担当(現任) 平成28年6月 取締役常務執行役員就任(現任) 平成30年4月 総務・広報担当(現任) 東京オリンピック・パラリンピック推進本部長(現任) コンプライアンス担当(現任) リスク管理担当(現任) 情報資産管理担当(現任) 平成30年5月 中日本担当(現任) 中日本営業担当(現任) (主要な兼職) 平成26年9月 総合商事㈱代表取締役就任(現任)	(注)3	671,800

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (株)
取締役 (常務執行役員)	関西駐在 西日本担当 営業本部副本 部長 関西営業担当	野村 茂樹	昭和34年5月15日 生	昭和59年4月 当社入社 平成23年4月 人事部長 平成23年6月 執行役員就任 人事担当 平成26年4月 常務執行役員就任 中部駐在 営業本部副本部長 (中日本営業担 当) 第三地域本部長 平成29年4月 第七地域本部長 平成29年6月 取締役常務執行役員就任 (現任) 平成30年5月 関西駐在 (現任) 西日本担当 (現任) 営業本部副本部長 (現任) 関西営業担当 (現任)  (主要な兼職) 平成30年6月 広島総合警備保障㈱代表取締役就 任 (現任) 愛媛総合警備保障㈱代表取締役就 任 (現任)	(注) 3	4,800
取締役 (常務執行役員)	第一地域本部 長 営業本部副本 部長 首都圏担当	八木 雅人	昭和30年10月27日 生	昭和54年4月 当社入社 平成23年4月 第七地域本部長 平成24年4月 執行役員就任 平成27年4月 第一地域本部長 (現任) 平成28年4月 常務執行役員就任 平成30年4月 営業本部副本部長 (現任) 首都圏担当 (現任) 平成30年6月 取締役常務執行役員就任 (現任)  (主要な兼職) 平成27年4月 ㈱アーバンセキュリティ代表取締 役就任 (現任)	(注) 3	1,100
取締役		竹花 豊	昭和24年5月18日 生	平成13年9月 広島県警察本部長 平成15年6月 東京都副知事 (平成17年7月退 任) 平成17年8月 警察庁生活安全局長 (平成19年1 月退官) 平成19年3月 松下電器産業㈱ (現パナソニック ㈱) 参与 平成19年10月 東京都教育委員 (平成27年9月退 任) 平成20年4月 松下電器産業㈱ (現パナソニック ㈱) 役員就任 平成21年4月 パナソニック㈱常務役員就任 (平 成25年3月退任) 平成25年6月 ㈱東京ビッグサイト代表取締役社 長就任 (平成29年6月退任) 平成27年6月 当社取締役就任 (現任) 平成29年5月 明治安田生命保険相互会社顧問就 任 (現任)	(注) 3	500

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (株)
取締役		岩城 正和	昭和24年3月20日生	平成22年6月 新日本製鐵(株) (現新日鐵住金(株)) 代表取締役副社長就任 (平成26年3月退任) 平成26年4月 新日鐵住金(株)取締役就任 (平成26年6月退任) 平成26年6月 同社常任顧問就任 平成28年6月 当社取締役就任 (現任) 平成28年7月 新日鐵住金(株)顧問就任 (平成29年6月退任) 平成29年6月 ミサワホーム(株)社外取締役就任 (現任)	(注) 3	700
取締役		小野 誠英	昭和25年9月10日生	平成21年4月 三菱商事(株)常務執行役員 (平成25年3月退任) 平成22年4月 米国三菱商事会社社長就任 (平成24年3月退任) 平成24年4月 北米統括兼北米三菱商事会社社長就任 (平成25年3月退任) 平成25年12月 (株)三菱総合研究所 代表取締役専務就任 平成26年12月 同社代表取締役副社長就任 (平成28年12月退任) 平成28年12月 同社常勤顧問就任 平成29年6月 当社取締役就任 (現任) 平成30年1月 (株)三菱総合研究所顧問就任 (現任)	(注) 3	200
取締役		門脇 英晴	昭和19年6月20日生	平成13年4月 (株)三井住友銀行代表取締役専務取締役兼専務執行役員 (平成14年11月退任) 平成14年12月 (株)三井住友フィナンシャルグループ代表取締役専務取締役 平成15年6月 同社代表取締役副社長 (平成16年3月退任) 平成16年6月 (株)日本総合研究所理事長 (平成20年6月退任) 平成20年6月 同社特別顧問・シニアフェロー (現任) 平成24年6月 学校法人アジア学院理事就任 (現任) 平成29年7月 (株)シーボン顧問就任 (現任) 平成30年6月 当社取締役就任 (現任)	(注) 3	—

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (株)
常勤監査役		龍口 真樹	昭和30年8月30日生	昭和53年4月 当社入社 平成17年8月 滋賀支社長 平成22年1月 経理部長 平成24年10月 総務部長 平成26年6月 第八地域本部長 平成27年6月 常勤監査役就任(現任)	(注)4	6,400
常勤監査役		大岩 武史	昭和27年12月7日生	平成19年4月 ㈱損害保険ジャパン(現損害保険ジャパン日本興亜㈱) 常務執行役員就任 平成19年6月 同社取締役常務執行役員就任 平成22年6月 同社取締役専務執行役員就任 平成23年1月 同社取締役副社長執行役員就任(平成23年3月退任) 平成23年4月 独立行政法人日本貿易保険監事就任(平成29年3月退任) 平成23年6月 当社監査役就任 平成29年6月 当社常勤監査役就任(現任)	(注)4	1,100
監査役		上野山 実	昭和28年2月14日生	平成19年6月 松下電器産業㈱(現パナソニック㈱) 取締役就任 平成22年4月 パナソニック㈱常務取締役就任(平成24年6月退任) 平成24年6月 同社常務役員就任(平成25年3月退任) 平成25年4月 同社顧問就任(平成27年3月退任) 平成25年6月 当社常勤監査役就任 平成27年4月 パナソニック㈱客員就任(現任) 平成29年6月 当社監査役就任(現任)	(注)5	—
監査役		渡辺 郁洋	昭和30年6月8日生	平成19年6月 農林中央金庫管財部長(平成21年5月退職) 平成21年6月 スターゼン㈱内部監査部長 平成25年4月 同社執行役員法務部長就任(平成26年9月退任) 平成26年10月 ㈱農林中金総合研究所顧問就任(平成27年6月退任) 平成27年6月 当社監査役就任(現任) 平成28年6月 ㈱農林中金総合研究所監査役就任(平成29年6月退任)	(注)4	200
計						3,595,874

- (注) 1. 取締役竹花豊、岩城正和、小野誠英及び門脇英晴は、社外取締役であります。また、監査役大岩武史、上野山実及び渡辺郁洋は、社外監査役であります。
2. 当社は、意思決定の迅速化、監督と執行の分離による取締役会の活性化のため、執行役員制度を導入しております。
3. 平成30年6月26日開催の定時株主総会の終結の時から1年間
4. 平成27年6月25日開催の定時株主総会の終結の時から4年間
5. 平成29年6月27日開催の定時株主総会の終結の時から4年間

本報告書提出日現在の執行役員は20名で、次のとおり構成されております。

役名	氏名	職名
社長執行役員	青山 幸恭	最高執行責任者（COO） 営業本部長
専務執行役員	栢木 伊久二	ALSOKカンパニー長 東日本担当 営業本部副本部長 法人担当
専務執行役員	穂苺 裕久	経営企画担当 戦略事業担当 営業本部副本部長 営業企画・管理担当 営業推進担当 金融担当
常務執行役員	大谷 啓	海外事業担当 調達担当 海外統括本部長
常務執行役員	村井 豪	人事総括担当 総務・広報担当 東京オリンピック・パラリンピック推進本部長 中日本担当 営業本部副本部長 中日本営業担当 企業倫理担当 コンプライアンス担当 リスク管理担当 情報資産管理担当
常務執行役員	野村 茂樹	関西駐在 西日本担当 営業本部副本部長 関西営業担当
常務執行役員	八木 雅人	第一地域本部長 営業本部副本部長 首都圏担当
常務執行役員	熊谷 敬	介護事業担当 統括カンパニー担当 開発技術等副総括担当 営業本部副本部長 HOME ALSOK担当
常務執行役員	岸本 孝治	経理担当 内部統制担当
常務執行役員	水谷 紀彦	開発技術等総括担当
常務執行役員	鈴木 基久	運用総括担当 警送構造改革担当 東京オリンピック・パラリンピック推進副本部長
執行役員	小野 誠司	総務副担当
執行役員	重見 一秀	経営企画副担当 戦略事業副担当
執行役員	鈴木 一三	開発企画担当
執行役員	吉本 康弘	総合管理・防災担当
執行役員	本庄 信一	第二地域本部長
執行役員	熊崎 善夫	第三地域本部長
執行役員	高橋 賢	第四地域本部長
執行役員	高野 明	第五地域本部長
執行役員	長嶋 義春	第六地域本部長

## 6 【コーポレート・ガバナンスの状況等】

### (1) 【コーポレート・ガバナンスの状況】

当社は、経営理念を「我が社は『ありがとうの心』と『武士の精神』をもって社業を推進し、お客様と社会の安全・安心の確保のために最善を尽くす」と定めるとともに、「社会・公共への貢献」を経営指針のひとつに掲げ、ステークホルダーの皆様から信頼される企業グループであり続けるために、経営の執行と監督の分離、迅速な意思決定、企業倫理の確立、経営の透明性の確保等によるコーポレート・ガバナンスの充実に努めております。また、情報開示を重視し、投資家・アナリスト向け決算説明会の開催、機関投資家の皆様への訪問説明の実施等、内外での積極的なIR活動に努めております。

また、当社は、企業統治に関する指針として東京証券取引所が策定した「コーポレートガバナンス・コード」の諸原則に則り、社内の組織体制等の点検・見直しをきめ細かく行っております。当社は、「コーポレートガバナンス・コード」への対応等を記載した「コーポレート・ガバナンスに関する報告書」を、東京証券取引所に毎年提出しており、当該報告書を同取引所及び当社のホームページに掲載しております。

今後とも、当社では、世の中の動向を注視しながら、コーポレート・ガバナンスがより有効に機能する組織体制の構築を目指し、諸制度の施策について検討を継続してまいります。

### ア 会社の機関の内容及び内部統制システムの整備の状況

#### (ア) 企業統治の体制の概要及び当該企業統治の体制を採用する理由

当社は監査役会設置会社であり、後述する体制の下で、監査役による実効的かつ充実した監査が行われており、経営陣に対するガバナンスが有効に機能しているものと認識しております。

本報告書提出日現在の取締役は12名（うち社外取締役4名）、監査役は4名（うち社外監査役3名）で構成されております。取締役会は原則として月1回開催し、経営の基本方針及び業務執行に関する重要事項を決定するとともに、取締役及び執行役員の職務の執行の監督を行っております。さらに、代表取締役会長を議長とする経営会議を原則として月2回開催し、取締役会に付議すべき案件を決定するとともに、取締役会の決定に基づく業務執行方針の協議を行っております。監査役会は原則として月1回開催し、監査に関する重要な事項について報告を受け協議を行い、又は決議を行っております。また、監査役1名は経営会議に出席し、経営執行状況の適切な監視を行っております。

こうした現在の体制により経営の公正性及び透明性が適正に確保されているものと判断し、本体制を採用しております。

なお、当社と社外取締役および社外監査役は、会社法第427条第1項の規定に基づき、同法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結しております。当該契約に基づく賠償責任の限度額は、10百万円又は同法第425条第1項に定める最低責任限度額のいずれか高い額としております。これは、社外取締役及び社外監査役がその期待される役割を十分に発揮できることを目的とするものであります。

#### (イ) 内部統制システムの整備の状況

当社は、会社法、金融商品取引法等に基づき、取締役の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制、その他株式会社業務ならびに当該株式会社及びその子会社から成る企業集団の業務の適正を確保するための体制を整備しております。

##### a. 当社の取締役と使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制

- (a) 会社創業以来の精神や社訓を集大成した基本理念として「綜警憲章」を制定し、あらゆる企業活動の前提とする。
- (b) 「取締役会規則」「稟議規程」「業務分掌規程」及び「職務権限規程」を制定し、職務権限を適切に分担させ、担当権限を超えるものについて決裁を義務付けることにより、職務の執行を監視する。
- (c) 「倫理規則」を制定し、誠実な職務執行と倫理に基づく行動のための規範とする。
- (d) 「コンプライアンス規則」を制定し、コンプライアンス担当役員を指名するとともに、活動状況について、必要に応じ取締役会及び経営会議に報告させる。
- (e) 「内部通報規則」を制定し、内部通報体制を確立するとともに、その適正な運用を図る。
- (f) 社長直轄の内部監査専管部署を設置し、本社各部及び事業所等に対して、定期的に経営活動を検証するとともに、その結果を取締役及び監査役に報告させる。
- (g) 金融商品取引法その他の法令に基づき、財務報告が適正に作成されるための体制を整備し、運用する。
- (h) 取締役及び使用人に対する、法令並びに定款及び社内規則に関する各種教育を適切に実施する。

- b. 当社の取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制
- (a) 株主総会議事録、取締役会議事録、経営会議議事録、稟議書、契約書、会計帳簿・計算書類その他業務の執行状況を示す主要な情報の取り扱いに関する規程を制定し、当該情報を適正に保存管理する。
  - (b) 取締役及び監査役は、これらの情報をいつでも閲覧できるものとする。
- c. 当社の損失の危険の管理に関する規程その他の体制
- (a) 「リスク管理規則」を制定し、リスク管理担当役員を指名するとともに、リスクの予測及び評価を行い、リスクの予防、軽減、移転その他必要な措置を講じ、又はリスク発生時の対処方法を定め、必要に応じ取締役会及び経営会議に報告させる。
  - (b) 「事業継続計画」を制定し、大災害や大事故、疫病の蔓延等の不測の事態発生時でも事業の継続や早期の復旧・再開ができる体制を構築する。
  - (c) 「情報資産管理規則」を制定し、情報資産管理担当役員を指名するとともに、情報資産を盗難、漏えい、改ざん、破壊、災害等の脅威から保護するための体制を構築し、必要に応じ取締役会及び経営会議に報告させる。
- d. 当社の取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制
- (a) 経営目標に基づき中期経営計画及び年度経営計画を作成する。
  - (b) 年度経営計画については、毎月、取締役会及び経営会議に報告し、月次単位で進捗管理を行う。
  - (c) 「職務権限規程」を制定し、職務権限の分担により、効率的な意思決定を行う。
  - (d) ITを活用した基幹業務システムにより事業処理を簡素化し、経営及び業務の合理化、効率化を図る。
- e. 当社及び子会社から成る企業集団における業務の適正を確保するための体制
- (a) 子会社の業務管理のための規則を制定するとともに子会社管理のための専管部署を設置し、子会社に対し、職務の執行に係る事項の報告を義務付けるほか、当社から取締役または監査役を派遣するなどして、厳正な指導、監督を行う。
  - (b) 子会社の損失の危険に係る重要な情報については、子会社の業務管理の規則に基づき当社の子会社管理専管部署に報告させ、当社と連携してリスク対応を行う。
  - (c) 子会社は、各種会議、社内電子掲示板等を通じて当社と情報を共有するとともに、子会社共通の業務システムの利用などを通じて業務の効率化を図る。また、グループの中期経営計画及び年度経営計画を策定し、子会社から毎月の業況を当社に報告させ計画の進捗管理を行う。
  - (d) 当社及び子会社は、相互に連携してコンプライアンス活動の実施及び内部通報制度の運用を行うとともに、反社会的勢力との関係を完全に遮断し、そのために必要な社内体制の整備、外部専門機関と連携等の取組みを行う。また、子会社と連携し、重要な子会社に対しては年一回の内部監査を実施する。
- f. 監査役が監査が実効的に行われることを確保するための体制
- (a) 当社は、監査役会事務局を設置し、監査役の職務を補助する使用人を配置する。
  - (b) 監査役会事務局員の人事については監査役会の同意を得る。また、監査役会事務局員は、もっぱら監査役の指揮命令に従う。
  - (c) 当社の取締役及び使用人は、監査役に対して、業務に関する重要な事項について報告するとともに、当社の内部監査専管部署は、監査役と相互連携し、子会社の状況も含め、定期的に情報交換を行う。また、監査役は、当社の取締役会及び経営会議に出席する。
  - (d) 子会社の取締役及び使用人は、当社の監査役から業務執行に関する事項について報告を求められたときは、速やかに適切な報告を行う。また、当社の内部通報の窓口部署は、子会社からの通報を含め、重要な通報について監査役会に報告する。  
なお、監査役へ報告を行った当社の取締役、使用人及び子会社の取締役等に対し、当該報告をしたことを理由として不利な取り扱いを行うことを禁止する。
  - (e) 当社は、監査役が職務の執行について生ずる費用等を支弁するため、毎年、一定額の予算を設ける。また、監査役が当該費用等の請求をしたときは適切に処理する。
  - (f) 監査役は、代表取締役及び本社各部長等と定期的に意見交換またはヒアリングを行うとともに、各事業所及び子会社へ往査する。また、定期的に監査法人と意見交換会を開催する。

(ウ) リスク管理体制の整備の状況

当社は、社会安全の確保を社業とする性質上、リスク管理を特に重要視しております。平成14年に制定したリスク管理規程（現リスク管理規則）に基づき、リスク管理委員会を組織し、リスク管理担当役員をその委員長としております。また、本社及び各事業所単位でリスク管理検討組織を設置しており、リスクの洗い出し、評価、予防策、対策案の策定といったリスクマネジメントについて全社網羅的に取り組んでおります。さらに、リスク管理委員会に分野別のリスク検討部会をおき、該当分野ごとにリスク情報の収集、分析及び評価を行い、リスク軽減のための施策を検討しております。重大事案発生時の緊急連絡体制、対策本部の設置等につきましても、迅速な対応が図れるよう組織体制を整備しております。

コンプライアンスに関しては、コンプライアンス担当役員を委員長とするコンプライアンス委員会を組織し、法令遵守に努めております。コンプライアンス委員会は、平成14年に制定したコンプライアンス規程（現コンプライアンス規則）に基づき、役員及び従業員に対するコンプライアンス意識の周知徹底に努め、定期的に業務活動状況等のチェックを行っております。

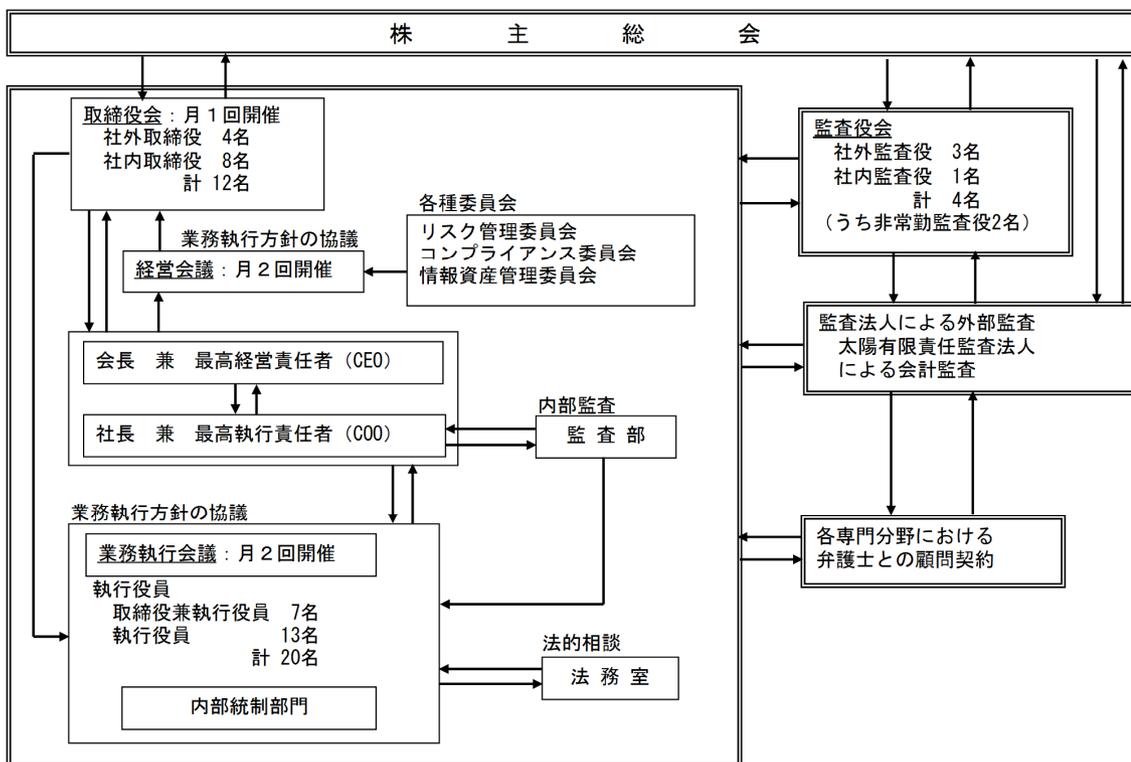
企業倫理上の問題の早期発見と予防についても、平成16年4月より「ALSOKホットライン」を設け、役員及び従業員が会社に係る違法行為、不正行為及び反倫理的行為に遭遇した際、不利益な扱いを受けることなく、電子メールや電話、文書にて内部通報が可能な体制を構築しております。なお、通報の受付窓口として、従来の社内窓口に加え、平成28年4月1日付で社外窓口を設置しております。

加えて、平成17年4月の個人情報保護法の完全施行に先立ち、平成16年9月より情報資産管理担当役員を委員長とする情報資産管理委員会を設置いたしました。情報資産管理委員会は、当社が保有する個人情報及び経営情報等の重要情報について、管理体制の整備や社員への啓発教育等を推進しております。

訴訟、紛争、その他の法的リスクについては、法務室を設置し、各業務部門と連携しながら対応しております。また、当社は7箇所の法律事務所と顧問契約を締結し、重要な法的問題やコンプライアンスに関する事象等について、適宜助言、指導を受けるなど、リスクを未然に防止する体制を整えております。そして、このような助言、指導を仰ぎつつコンプライアンスを維持することを通じて、弁護士をコーポレート・ガバナンスに関与させております。

(エ) 会社の機関・内部統制図

本報告書提出日現在の当社の経営上の意思決定、執行及び監督に係る経営管理組織、その他のコーポレート・ガバナンス体制の状況を図示すると次の通りであります。



イ 内部監査、監査役監査及び会計監査の相互連携並びにこれらの監査と内部統制部門との関係

内部監査を専門とする部門として社長直轄の監査部（人員は34名：提出日現在）を社内を設置しております。監査部は、原則として月に1回、監査役と「監査業務連絡会」で定期的かつ綿密に情報交換を行うことにより監査役監査との連携を図っております。また、監査部が実施する内部統制の評価のための統制テスト、内部監査の実施結果等は、太陽有限責任監査法人（以下「監査法人」という。）による閲覧を通じて内部統制上の留意点等の共有化が図られており、内部監査と会計監査の連携に役立てております。

監査役4名は、定期的に監査法人と取締役会の議事内容やお互いが認識している課題について、情報交換を行うことで監査役監査と会計監査の連携に努めております。

これらの監査と内部統制部門との関係は次の通りであります。

監査部は、全社的な内部統制及び業務プロセスに係る内部統制の評価手続きの一環として総務部門、経理部門等の内部統制部門が所管するコンプライアンスの推進、リスク管理、決算・財務報告等の業務活動に対し統制テストを行っております。監査部が実施した統制テストの結果は、適時社長及び内部統制担当役員へ報告され、監査部が是正を必要と判断した不備事項については、内部統制担当役員から関係部署に対し期限を定めて是正措置回答を求めるなど内部統制部門の管理体制の強化に役立てております。また、監査部が実施する内部監査は、管理部門監査、現業部門監査で構成されており、内部統制部門を含む会社の全般的な業務活動領域が監査対象となっております。内部監査の結果は、速やかに社長へ報告され、関係役員、監査役及び関係部署の責任者へ回覧を行い問題点を周知させております。監査部長は、改善や是正を要する事項について、監査対象先の責任者へ期限を定めて是正報告を求めるなど業務改善に役立てております。

監査役は、内部統制部門に対する業務監査や会計監査の手続きの過程で認識する経営上の課題の検討、リスク管理委員会関係資料の閲覧、経営会議その他の各種会議への参加により、内部統制部門における業務の適法性を評価しており、内部統制部門は必要に応じて監査役から業務に関する助言を受けております。

監査法人は、監査計画に基づき、内部統制監査、会社法監査、財務諸表監査及び四半期レビューを行っております。内部統制監査では、監査部が内部統制部門に対して実施した統制テストの結果の検証及び監査法人が独自に実施する統制テスト、関係資料の閲覧等に基づき、内部統制部門における内部統制の整備・運用状況の評価を行っております。また、内部統制監査と一体的に実施される財務諸表監査等の手続きでは、内部統制部門に対し、重要な勘定科目の残高確認、会計上の見積りの検証、財務諸表等の表示方法の検証等を行っております。監査法人は、監査対象先の責任者への質問や内部統制部門の担当役員を含む取締役等に対するヒアリング等を通じ、会社の統制環境及びビジネスリスクを十分に考慮した上で財務諸表の適正性の評価を行っております。

なお、監査法人は、期中に実施した監査結果について、過去に指摘した事項のフォローアップとともに、適時、取締役、監査役及び内部統制部門へ報告を行っております。

ウ 社外取締役又は社外監査役による監督又は監査と内部監査、監査役監査及び会計監査との相互連携並びに内部統制部門との関係

当社の社外取締役は4名、社外監査役は3名であります。また、社外取締役及び社外監査役のうち当社株式を所有している者は、5「役員状況」に記載の通りです。

社外取締役の竹花豊氏が平成25年まで在籍していたパナソニック株式会社、同氏が平成27年まで在籍していた東京都及び同氏が現在在籍している明治安田生命保険相互会社と当社との間には、警備業務委託等の取引がありますが、直近事業年度における取引規模は当社売上高の2%未満であります。

社外取締役の岩城正和氏が平成29年まで在籍していた新日鐵住金株式会社及び同氏が現在在籍しているミサワホーム株式会社と当社との間には、警備業務委託等の取引がありますが、直近事業年度における取引規模は当社売上高の2%未満であります。

社外取締役の小野誠英氏が平成25年まで在籍していた三菱商事株式会社及び同氏が現在在籍している株式会社三菱総合研究所と当社との間には、警備業務委託等の取引がありますが、直近事業年度における取引規模は当社売上高の2%未満であります。

社外取締役の門脇英晴氏が平成20年まで在籍していた株式会社日本総合研究所及び同氏が現在在籍している株式会社シーボンと当社との間には、警備業務委託等の取引がありますが、直近事業年度における取引規模は当社売上高の2%未満であります。

社外監査役の大岩武史氏が平成23年まで在籍していた株式会社損害保険ジャパン(現損害保険ジャパン日本興亜株式会社)と当社との間には、警備業務委託等の取引がありますが、直近事業年度における取引規模は当社売上高の2%未満であります。

社外監査役の上野山実氏が平成27年まで在籍していたパナソニック株式会社と当社との間には、警備業務委託等の取引がありますが、直近事業年度における取引規模は当社売上高の2%未満であります。

社外監査役の渡辺郁洋氏が平成21年まで在籍していた農林中央金庫及び同氏が平成26年まで在籍していたスターゼン株式会社と当社との間には、警備業務委託等の取引がありますが、直近事業年度における取引規模は当社売上高の2%未満であります。

社外取締役及び社外監査役については、当社において、客観的・中立的な立場から、経営陣を監視・監督する機能を担っていただくことを想定しております。また、当社においては、社外取締役及び社外監査役を選任するための独立性に関する基準又は方針を明示的には定めてはませんが、社外取締役及び社外監査役の選任にあたっては、株式会社東京証券取引所の定めるいわゆる独立役員の要件などを参考に、独立性の有無を判断材料の一つとしております。

社外取締役は、社外監査役とともに当社の取締役会に出席し、出席した取締役会において適宜適切な発言を行っております。また、社外取締役は、事前に総務部長等から取締役会で予定されている事項の概要説明を受けるなど実効的な経営の監視に努めております。また、社外監査役は、他の監査役と同様に監査部及び監査法人と定期的に情報交換、意見交換を行っており、これらにより、社外取締役による監督、監査役監査、内部監査及び会計監査との相互の連携を図っております。

これらの監督又は監査と内部統制部門との関係は次の通りであります。

社外取締役は、取締役会への参加を通じ、内部統制部門等における他の取締役の業務執行状況に対し、独立した立場から監督を行っております。

社外監査役は、他の監査役と同様に内部統制部門に対する業務監査及び会計監査の実施、各種資料の閲覧を通じて、内部統制部門における業務の適法性の評価を実施しております。

当社は、株式会社東京証券取引所に対して、社外取締役4名及び社外監査役3名を独立役員として届け出ております。

エ 従業員の報酬等の額に関する方針の内容及び決定方法

当社は、株主総会の決議により、取締役については総額400百万円、監査役については総額120百万円を報酬限度額と決定しております。

取締役の報酬は、役職及び社外取締役、それ以外の取締役の別により定められている定額部分と、一定の基準に基づき各取締役の職務執行に対する業績評価を行い算定する業績連動部分から構成されており、その具体的な金額は、取締役会で決定しております。

監査役の報酬は、定額であり、その具体的な金額は、監査役会で取り決めた基準に従って決定しております。

役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (百万円)	報酬等の種類別の総額 (百万円)				対象となる 役員の員数 (人)
		基本報酬	ストック オプション	賞与	退職 慰労金	
取締役 (社外取締役を除く。)	304	304	—	—	—	11
監査役 (社外監査役を除く。)	23	23	—	—	—	1
社外役員	58	58	—	—	—	6

オ 提出会社の役員ごとの連結報酬等の総額等

連結報酬等の総額が1億円以上である者が存在しないため、記載しておりません。

カ 株式の保有状況

(ア) 投資株式のうち保有目的が純投資目的以外の目的であるものの銘柄数及び貸借対照表計上額の合計額  
133銘柄 14,487百万円

(イ) 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式の保有区分、銘柄、株式数、貸借対照表計上額及び保有目的

前事業年度

特定投資株式

銘柄	株式数 (株)	貸借対照表計上額 (百万円)	保有目的
台湾新光保全股份有限公司	35,424,578	5,255	海外への事業拡大
(株)セブン銀行	5,000,000	1,820	取引の強化・拡大
(株)みずほフィナンシャルグループ	8,563,435	1,746	取引の強化・拡大
ヒューリック(株)	659,100	690	取引の強化・拡大
スルガ銀行(株)	196,000	459	取引の強化・拡大
(株)LIXILグループ	148,600	419	取引の強化・拡大
(株)ファーストリテイリング	9,600	335	取引の強化・拡大
(株)滋賀銀行	500,000	285	取引の強化・拡大
(株)紀陽銀行	148,900	254	取引の強化・拡大
(株)三菱UFJフィナンシャル・グループ	274,500	192	取引の強化・拡大
大和ハウス工業(株)	60,000	191	取引の強化・拡大
(株)ニトリホールディングス	12,500	175	取引の強化・拡大
(株)ダイナムジャパンホールディングス	800,000	164	取引の強化・拡大
オムロン(株)	30,000	146	取引の強化・拡大
三菱電機(株)	60,000	95	取引の強化・拡大
(株)清水銀行	24,800	84	取引の強化・拡大
寿スピリッツ(株)	30,000	82	取引の強化・拡大
近鉄グループホールディングス(株)	200,000	80	取引の強化・拡大
(株)めぶきフィナンシャルグループ	171,990	76	取引の強化・拡大
三井住友トラスト・ホールディングス(株)	19,327	74	取引の強化・拡大
(株)クレディセゾン	37,100	73	取引の強化・拡大
(株)大和証券グループ本社	103,000	69	取引の強化・拡大
(株)三井住友フィナンシャルグループ	15,200	61	取引の強化・拡大
(株)山口フィナンシャルグループ	50,000	60	取引の強化・拡大
(株)りそなホールディングス	97,000	57	取引の強化・拡大
東急不動産ホールディングス(株)	95,400	57	取引の強化・拡大
ユニー・ファミリーマートホールディングス(株)	8,487	56	取引の強化・拡大
第一生命ホールディングス(株)	28,200	56	取引の強化・拡大
(株)京葉銀行	116,000	55	取引の強化・拡大
トモニホールディングス(株)	93,500	55	取引の強化・拡大

当事業年度  
特定投資株式

銘柄	株式数 (株)	貸借対照表計上額 (百万円)	保有目的
台湾新光保全股份有限公司	35,424,578	5,010	海外への事業拡大
(株)セブン銀行	5,000,000	1,695	取引の強化・拡大
(株)みずほフィナンシャルグループ	8,563,435	1,639	取引の強化・拡大
ヒューリック(株)	659,100	765	取引の強化・拡大
(株)ファーストリテイリング	9,600	415	取引の強化・拡大
(株)LIXILグループ	148,600	353	取引の強化・拡大
スルガ銀行(株)	196,000	287	取引の強化・拡大
(株)滋賀銀行	500,000	268	取引の強化・拡大
(株)紀陽銀行	148,900	251	取引の強化・拡大
大和ハウス工業(株)	60,000	246	取引の強化・拡大
(株)ニトリホールディングス	12,500	235	取引の強化・拡大
(株)三菱UFJフィナンシャル・グループ	274,500	191	取引の強化・拡大
オムロン(株)	30,000	187	取引の強化・拡大
寿スピリッツ(株)	30,000	168	取引の強化・拡大
(株)ダイナムジャパンホールディングス	800,000	117	取引の強化・拡大
三菱電機(株)	60,000	102	取引の強化・拡大
三井住友トラスト・ホールディングス(株)	19,327	83	取引の強化・拡大
近鉄グループホールディングス(株)	20,000	82	取引の強化・拡大
ユニー・ファミリーマートホールディングス(株)	8,487	76	取引の強化・拡大
東急不動産ホールディングス(株)	95,400	73	取引の強化・拡大
(株)清水銀行	24,800	73	取引の強化・拡大
(株)めぶきフィナンシャルグループ	171,990	70	取引の強化・拡大
(株)大和証券グループ本社	103,000	69	取引の強化・拡大
(株)三井住友フィナンシャルグループ	15,200	67	取引の強化・拡大
(株)クレディセゾン	37,100	64	取引の強化・拡大
(株)山口フィナンシャルグループ	50,000	64	取引の強化・拡大
(株)京葉銀行	116,000	55	取引の強化・拡大
第一生命ホールディングス(株)	28,200	54	取引の強化・拡大
(株)りそなホールディングス	97,000	54	取引の強化・拡大
住友商事(株)	28,600	51	取引の強化・拡大

キ 会計監査の状況

業務を執行した公認会計士の状況は、以下の通りであります。

氏名	所属する監査法人	継続監査年数
柴谷 哲朗	太陽有限責任監査法人	(注) 1
岩崎 剛	太陽有限責任監査法人	(注) 1
上西 貴之	太陽有限責任監査法人	(注) 1

(注) 1. 継続監査年数が7年以内であるため、記載を省略しております。

2. 当社の会計監査業務に係る補助者は、公認会計士9名、その他19名であります。

ク 取締役の定数

当社の取締役は12名以内とする旨定款に定めております。

ケ 取締役の選任の要件

当社は、取締役の選任決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、出席した議決権を行使することができる株主の議決権の過半数をもって行う旨定款に定めております。

コ 株主総会決議事項のうち取締役会で決議することができる事項

(ア) 自己の株式の取得の決定機関

当社は、会社法第165条第2項の規定により、株主総会の決議によらず取締役会の決議によって、自己の株式の取得をすることができる旨定款に定めております。これは、自己の株式の取得を取締役会の権限とすることにより、機動的な資本政策を行うことを目的とするものであります。

(イ) 取締役の責任免除

当社は、会社法第426条第1項の規定により、会社法第423条第1項に定める取締役（取締役であったものを含む。）の損害賠償責任につき、善意にしてかつ重大な過失がない場合は、取締役会の決議によって、法令の定める限度額の範囲内で、その責任を免除することができる旨定款に定めております。これは、取締役がその期待される役割を十分に発揮できることを目的とするものであります。

(ウ) 監査役の責任免除

当社は、会社法第426条第1項の規定により、会社法第423条第1項に定める監査役（監査役であったものを含む。）の損害賠償責任につき、善意にしてかつ重大な過失がない場合は、取締役会の決議によって、法令の定める限度額の範囲内で、その責任を免除することができる旨定款に定めております。これは、監査役がその期待される役割を十分に発揮できることを目的とするものであります。

(エ) 中間配当の決定機関

当社は、会社法第454条第5項に定める剰余金の配当（中間配当）について、株主総会の決議によらず取締役会の決議により定められる旨定款に定めております。これは、中間配当の決定機関を取締役会とすることにより、当社を取り巻く事業環境や業績に応じて、株主への機動的な利益還元を行うことを目的とするものであります。

サ 株主総会の特別決議要件

当社は、会社法第309条第2項に定める株主総会の特別決議要件について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、出席した議決権を行使することができる株主の議決権の3分の2以上の決議をもって行う旨定款に定めております。これは、株主総会における特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を行うことを目的とするものであります。

(2) 【監査報酬の内容等】

① 【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬（百万円）	非監査業務に基づく報酬（百万円）	監査証明業務に基づく報酬（百万円）	非監査業務に基づく報酬（百万円）
提出会社	85	—	92	—
連結子会社	10	—	10	—
計	95	—	102	—

② 【その他重要な報酬の内容】

(前連結会計年度)

該当事項はありません。

(当連結会計年度)

当社は、当社の監査公認会計士等と同一のネットワークに属している者に対して、非監査業務（財務デューデリジェンス等）に基づく報酬を2百万円支払っております。

③ 【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

(前連結会計年度)

該当事項はありません。

(当連結会計年度)

該当事項はありません。

④ 【監査報酬の決定方針】

当社の監査公認会計士等に対する監査報酬の決定方針としましては、監査日数、当社の規模・業務の特性等の要素を勘案して、監査役会の同意を得て決定することとしております。

## 第5【経理の状況】

### 1. 連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

- (1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和51年大蔵省令第28号）に基づいて作成しております。
- (2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。）に基づいて作成しております。  
また、当社は、特例財務諸表提出会社に該当し、財務諸表等規則第127条の規定により財務諸表を作成しております。

### 2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度（平成29年4月1日から平成30年3月31日まで）の連結財務諸表及び事業年度（平成29年4月1日から平成30年3月31日まで）の財務諸表について、太陽有限責任監査法人により監査を受けております。

### 3. 連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みを行っております。具体的には、会計基準等の内容を適切に把握し、又は会計基準等の変更等についての確に対応することができる体制を整備するため、公益財団法人財務会計基準機構へ加入しております。

また、同財団が主催する講演会、セミナー等へ積極的に参加しております。

## 1 【連結財務諸表等】

## (1) 【連結財務諸表】

## ① 【連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	※4 55,587	※4 47,573
警備輸送業務用現金	※1 66,745	※1 68,715
受取手形及び売掛金	50,118	※2 52,286
リース債権及びリース投資資産	4,336	4,535
有価証券	803	338
原材料及び貯蔵品	5,375	5,708
未成工事支出金	451	456
立替金	6,340	6,526
繰延税金資産	2,183	2,311
その他	7,881	8,620
貸倒引当金	△197	△226
流動資産合計	199,627	196,845
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	※4 48,336	※4 48,096
減価償却累計額	△25,480	△26,191
建物及び構築物 (純額)	22,856	21,905
機械装置及び運搬具	130,824	136,429
減価償却累計額	△111,367	△114,244
機械装置及び運搬具 (純額)	19,457	22,185
土地	※3, ※4 23,018	※3, ※4 22,740
リース資産	29,444	33,291
減価償却累計額	△13,513	△14,475
リース資産 (純額)	15,931	18,815
建設仮勘定	992	662
その他	16,227	17,049
減価償却累計額	△11,509	△12,111
その他 (純額)	4,717	4,937
有形固定資産合計	86,974	91,246
無形固定資産		
ソフトウェア	3,411	3,207
のれん	18,615	21,108
その他	2,973	5,996
無形固定資産合計	25,000	30,313
投資その他の資産		
投資有価証券	※4, ※5 40,300	※4, ※5 42,597
長期貸付金	359	337
敷金及び保証金	8,935	8,447
保険積立金	2,167	1,679
退職給付に係る資産	533	4,250
繰延税金資産	10,394	8,912
その他	11,975	12,913
貸倒引当金	△392	△380
投資その他の資産合計	74,275	78,759
固定資産合計	186,250	200,319
資産合計	385,877	397,164

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	21,426	23,420
短期借入金	※1 27,438	※1, ※4 14,435
1年内返済予定の長期借入金	※4 3,378	※4 3,176
1年内償還予定の社債	54	24
未払金	17,060	22,762
リース債務	4,090	4,511
未払法人税等	6,214	5,769
未払消費税等	3,849	3,762
賞与引当金	1,958	2,189
役員賞与引当金	100	118
繰延税金負債	0	0
その他	12,534	12,324
流動負債合計	98,104	92,495
固定負債		
社債	47	23
長期借入金	※4 11,161	※4 8,493
リース債務	19,429	21,993
繰延税金負債	621	808
再評価に係る繰延税金負債	314	314
退職給付に係る負債	29,572	27,327
役員退職慰労引当金	1,778	1,806
資産除去債務	77	101
その他	2,539	2,417
固定負債合計	65,542	63,287
負債合計	163,647	155,782
純資産の部		
株主資本		
資本金	18,675	18,675
資本剰余金	31,485	34,243
利益剰余金	157,596	171,161
自己株式	△2,019	△1,069
株主資本合計	205,737	223,010
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	7,306	7,358
土地再評価差額金	※3 △5,286	※3 △5,286
為替換算調整勘定	69	4
退職給付に係る調整累計額	△11,204	△6,850
その他の包括利益累計額合計	△9,114	△4,773
非支配株主持分	25,607	23,144
純資産合計	222,230	241,382
負債純資産合計	385,877	397,164

## ②【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】

## 【連結損益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
売上高	413,343	435,982
売上原価	※5 310,704	※5 330,493
売上総利益	102,639	105,489
販売費及び一般管理費	※1,※2 74,217	※1,※2 75,378
営業利益	28,422	30,111
営業外収益		
受取利息	176	176
受取配当金	587	613
投資有価証券売却益	6	86
受取賃貸料	277	311
受取保険差益	57	87
持分法による投資利益	1,420	1,292
違約金収入	274	300
その他	999	942
営業外収益合計	3,798	3,810
営業外費用		
支払利息	1,005	987
投資有価証券売却損	3	1
固定資産除却損	※3 162	※3 198
資金調達費用	296	295
その他	443	525
営業外費用合計	1,911	2,008
経常利益	30,309	31,913
特別利益		
投資有価証券売却益	59	1
特別利益合計	59	1
特別損失		
投資有価証券評価損	12	1
減損損失	※4 45	※4 73
厚生年金基金解散損失引当金繰入額	95	—
特別損失合計	153	74
税金等調整前当期純利益	30,215	31,841
法人税、住民税及び事業税	10,940	11,366
法人税等調整額	△659	△473
法人税等合計	10,281	10,893
当期純利益	19,934	20,948
非支配株主に帰属する当期純利益	1,603	1,603
親会社株主に帰属する当期純利益	18,330	19,344

## 【連結包括利益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
当期純利益	19,934	20,948
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	755	56
為替換算調整勘定	48	△61
退職給付に係る調整額	2,091	4,462
持分法適用会社に対する持分相当額	△6	108
その他の包括利益合計	※ 2,888	※ 4,566
包括利益	22,823	25,514
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	21,128	23,761
非支配株主に係る包括利益	1,694	1,752

③【連結株主資本等変動計算書】

前連結会計年度（自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日）

（単位：百万円）

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	18,675	32,117	144,551	△1,991	193,352
会計方針の変更による累積的影響額			495		495
会計方針の変更を反映した当期首残高	18,675	32,117	145,046	△1,991	193,848
当期変動額					
剰余金の配当			△5,780		△5,780
親会社株主に帰属する当期純利益			18,330		18,330
自己株式の取得				△28	△28
自己株式の処分					—
非支配株主との取引に係る親会社の持分変動		△632			△632
連結子会社株式の取得による持分の増減					—
連結子会社の増資による持分の増減					—
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）					
当期変動額合計	—	△632	12,550	△28	11,889
当期末残高	18,675	31,485	157,596	△2,019	205,737

	その他の包括利益累計額					非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	土地再評価差額金	為替換算調整勘定	退職給付に係る調整累計額	その他の包括利益累計額合計		
当期首残高	6,570	△5,286	113	△13,309	△11,912	24,182	205,622
会計方針の変更による累積的影響額							495
会計方針の変更を反映した当期首残高	6,570	△5,286	113	△13,309	△11,912	24,182	206,118
当期変動額							
剰余金の配当							△5,780
親会社株主に帰属する当期純利益							18,330
自己株式の取得							△28
自己株式の処分							—
非支配株主との取引に係る親会社の持分変動							△632
連結子会社株式の取得による持分の増減							—
連結子会社の増資による持分の増減							—
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	735	—	△43	2,105	2,797	1,425	4,222
当期変動額合計	735	—	△43	2,105	2,797	1,425	16,112
当期末残高	7,306	△5,286	69	△11,204	△9,114	25,607	222,230

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	18,675	31,485	157,596	△2,019	205,737
会計方針の変更による累積的影響額					—
会計方針の変更を反映した当期首残高	18,675	31,485	157,596	△2,019	205,737
当期変動額					
剰余金の配当			△5,780		△5,780
親会社株主に帰属する当期純利益			19,344		19,344
自己株式の取得				△1	△1
自己株式の処分		3,422		952	4,374
非支配株主との取引に係る親会社の持分変動					—
連結子会社株式の取得による持分の増減		△668			△668
連結子会社の増資による持分の増減		4			4
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）					
当期変動額合計	—	2,758	13,564	950	17,273
当期末残高	18,675	34,243	171,161	△1,069	223,010

	その他の包括利益累計額					非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	土地再評価差額金	為替換算調整勘定	退職給付に係る調整累計額	その他の包括利益累計額合計		
当期首残高	7,306	△5,286	69	△11,204	△9,114	25,607	222,230
会計方針の変更による累積的影響額							—
会計方針の変更を反映した当期首残高	7,306	△5,286	69	△11,204	△9,114	25,607	222,230
当期変動額							
剰余金の配当							△5,780
親会社株主に帰属する当期純利益							19,344
自己株式の取得							△1
自己株式の処分							4,374
非支配株主との取引に係る親会社の持分変動							—
連結子会社株式の取得による持分の増減							△668
連結子会社の増資による持分の増減							4
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	51	—	△64	4,354	4,341	△2,462	1,878
当期変動額合計	51	—	△64	4,354	4,341	△2,462	19,151
当期末残高	7,358	△5,286	4	△6,850	△4,773	23,144	241,382

## ④【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	30,215	31,841
減価償却費	13,773	14,133
減損損失	45	73
のれん償却額	1,076	1,627
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△20	17
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	658	△329
賞与引当金の増減額(△は減少)	184	210
役員賞与引当金の増減額(△は減少)	△36	17
受取利息及び受取配当金	△763	△790
支払利息	1,005	987
持分法による投資損益(△は益)	△1,420	△1,292
固定資産売却損益(△は益)	△22	9
固定資産除却損	162	198
投資有価証券売却損益(△は益)	△62	△87
投資有価証券評価損益(△は益)	12	1
デリバティブ評価損益(△は益)	9	20
売上債権の増減額(△は増加)	△878	△2,175
たな卸資産の増減額(△は増加)	844	△323
仕入債務の増減額(△は減少)	△2,300	5,033
退職給付に係る資産の増減額(△は増加)	402	438
警備輸送業務に係る資産・負債の増減額	18,157	△13,630
その他	4,135	1,014
小計	65,181	36,996
利息及び配当金の受取額	984	1,056
利息の支払額	△1,005	△989
法人税等の支払額	△10,617	△11,591
法人税等の還付額	19	23
営業活動によるキャッシュ・フロー	54,561	25,496

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の増減額 (△は増加)	△741	947
有形固定資産の取得による支出	△11,006	△11,776
有形固定資産の売却による収入	165	22
投資有価証券の取得による支出	△2,899	△1,987
投資有価証券の売却による収入	2,106	1,544
事業譲受による支出	—	△43
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	※2 △6,424	※2 △5,973
関係会社株式の取得による支出	—	△108
短期貸付金の増減額 (△は増加)	183	25
長期貸付けによる支出	△90	△45
長期貸付金の回収による収入	110	76
その他	△3,459	△1,807
投資活動によるキャッシュ・フロー	△22,055	△19,125
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	△5,989	196
長期借入れによる収入	491	586
長期借入金の返済による支出	△3,826	△3,456
社債の償還による支出	△104	△54
自己株式の取得による支出	△1	△1
リース債務の返済による支出	△4,265	△4,420
配当金の支払額	△5,780	△5,780
非支配株主への配当金の支払額	△474	△500
連結の範囲の変更を伴わない子会社株式の取得による支出	△632	—
財務活動によるキャッシュ・フロー	△20,582	△13,429
現金及び現金同等物に係る換算差額	△4	△7
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	11,919	△7,064
現金及び現金同等物の期首残高	35,630	47,549
現金及び現金同等物の期末残高	※1 47,549	※1 40,484

## 【注記事項】

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

### 1. 連結の範囲に関する事項

#### (1) 連結子会社の数 72社

主要な連結子会社名

日本ファシリオ(株)

(株)ウイズネット

ALSOK常駐警備(株)

ALSOK福島(株)

ALSOKビルサービス(株)

当連結会計年度において、株式取得を通じ、ALSOK関東デリバリー(株)を連結の範囲に含めております。

また、(株)ウイズネットの子会社4社は清算したため、連結の範囲から除外しております。

#### (2) 主要な非連結子会社の名称等

愛媛綜警サービス(株)

(連結の範囲から除いた理由)

非連結子会社は、いずれも小規模であり、合計の総資産、売上高、当期純損益(持分に見合う額)及び利益剰余金(持分に見合う額)等は、いずれも連結財務諸表に重要な影響を及ぼしていないためであります。

### 2. 持分法の適用に関する事項

#### (1) 持分法適用の関連会社数 11社

主要な会社名

ホーチキ(株)

日本ドライケミカル(株)

当連結会計年度において、株式取得を通じ、京阪神セキュリティサービス(株)を持分法適用の範囲に含めております。

#### (2) 持分法を適用していない主要な非連結子会社及び関連会社の名称

愛媛綜警サービス(株)

(持分法を適用しない理由)

持分法を適用しない非連結子会社及び関連会社は、いずれも当期純損益(持分に見合う額)及び利益剰余金(持分に見合う額)等からみて、持分法の対象から除いても連結財務諸表に及ぼす影響が軽微であり、かつ、全体としても重要性がないため持分法の適用範囲から除外しております。

### 3. 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社のうちALSOK (Vietnam) Co., Ltd.、愛龍所克商貿(上海) 有限公司、ALSOK MALAYSIASDN. BHD.、PT. ALSOK INDONESIA、PT. ALSOK BASS Indonesia Security Services およびALSOK Vietnam Security Services Joint Stock Companyの決算日は、12月31日であります。連結財務諸表の作成に当たっては、同決算日現在の財務諸表を使用しております。ただし、1月1日から連結決算日3月31日までの期間に発生した重要な取引については、連結上必要な調整を行っております。

#### 4. 会計方針に関する事項

##### (1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

###### ①有価証券

その他有価証券

時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は主として移動平均法により算定）を採用しております。また、区分処理できないデリバティブ組入債券については時価法（売却原価は主として移動平均法により算定）を採用しております。

時価のないもの

主として移動平均法による原価法を採用しております。

###### ②デリバティブ

時価法を採用しております。

###### ③たな卸資産

原材料及び貯蔵品

主として先入先出法による原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）を採用しております。

未成工事支出金

個別法による原価法を採用しております。

##### (2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

###### ①有形固定資産（リース資産を除く）

主として定額法を採用しております。主な耐用年数は、次のとおりであります。

建物及び構築物 15～50年

機械装置及び運搬具 3～5年

###### ②無形固定資産（リース資産を除く）

定額法を採用しております。

なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法を採用しております。また、顧客関連資産については、その効果の及ぶ期間（12年）に基づく定額法を採用しております。

###### ③リース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

##### (3) 重要な引当金の計上基準

###### ①貸倒引当金

売上債権、貸付金等の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

###### ②賞与引当金

一部の連結子会社は、従業員賞与の支給に備えるため、将来の支給見込額のうち当期の負担額を計上しております。

###### ③役員賞与引当金

一部の連結子会社は、役員賞与の支給に備えるため、将来の支給見込額のうち当期の負担額を計上しております。

###### ④役員退職慰労引当金

一部の連結子会社は、役員の退職慰労金の支出に備えるため、内規に基づく期末要支給額を計上しております。

(4) 退職給付に係る会計処理の方法

①退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

②数理計算上の差異及び過去勤務費用の費用処理方法

過去勤務費用については、その発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（主として5年）による定額法により費用処理しております。

数理計算上の差異については、各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（主として10年）による定額法により按分した額をそれぞれ発生の翌連結会計年度から費用処理しております。

③小規模企業等における簡便法の採用

一部の連結子会社は、退職給付に係る負債及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。

(5) 重要な収益及び費用の計上基準

①ファイナンス・リース取引に係る収益の計上基準

リース料受取時に売上高と売上原価を計上する方法によっております。

②完成工事高及び完成工事原価の計上基準

当連結会計年度末までの進捗部分について成果の確実性が認められる工事契約については工事進行基準を適用し、その他の工事契約については、工事完成基準を適用しております。なお、工事進行基準を適用する工事の当連結会計年度末における進捗率の見積りは、原価比例法によっております。

(6) 重要な外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算の基準

外貨建金銭債権債務は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。なお、在外子会社等の資産及び負債は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、収益及び費用は期中平均相場により円貨に換算し、換算差額は純資産の部における為替換算調整勘定及び非支配株主持分に含めて計上しております。

(7) 重要なヘッジ会計の方法

①ヘッジ会計の方法

繰延ヘッジ処理を採用しております。また、金利スワップについては特例処理の条件を充たしている場合には特例処理を採用しております。

②ヘッジ手段とヘッジ対象

当連結会計年度にヘッジ会計を適用したヘッジ手段とヘッジ対象は次のとおりであります。

ヘッジ手段 金利スワップ

ヘッジ対象 銀行借入金

③ヘッジ方針

金利変動リスクの低減並びに金融収支改善のため、内規に基づき、金利変動リスクをヘッジしております。

④ヘッジの有効性評価の方法

特例処理によっている金利スワップにつきましてはヘッジの高い有効性があるとみなされるため、有効性の評価は省略しております。

(8) のれんの償却方法及び償却期間

のれんの償却については、原則として個々の投資の実態に合わせ、20年以内の投資回収見込年数で均等償却を行っております。

(9) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりリスクしか負わない取得日から3ヵ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。

(10) その他連結財務諸表作成のための重要な事項

消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は税抜方式によっており、控除対象外消費税及び地方消費税は、当連結会計年度の費用として処理しております。

(未適用の会計基準等)

- ・「税効果会計に係る会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第28号 平成30年2月16日改正 企業会計基準委員会)
- ・「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成30年2月16日最終改正 企業会計基準委員会)

(1) 概要

「税効果会計に係る会計基準の適用指針」等は、日本公認会計士協会における税効果会計に関する実務指針を企業会計基準委員会に移管するに際して、基本的にその内容を踏襲した上で、必要と考えられる以下の見直しが行われたものであります。

(会計処理の見直しを行った主な取扱い)

- ・個別財務諸表における子会社株式等に係る将来加算一時差異の取扱い
- ・(分類1)に該当する企業における繰延税金資産の回収可能性に関する取扱い

(2) 適用予定日

平成31年3月期の期首から適用します。

(3) 当該会計基準等の適用による影響

「税効果会計に係る会計基準の適用指針」等の適用による連結財務諸表に与える影響額については、現時点で評価中であります。

- ・「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 平成30年3月30日 企業会計基準委員会)
- ・「収益認識に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第30号 平成30年3月30日 企業会計基準委員会)

(1) 概要

国際会計基準審議会(IASB)及び米国財務会計基準審議会(FASB)は、共同して収益認識に関する包括的な会計基準の開発を行い、平成26年5月に「顧客との契約から生じる収益」(IASBにおいてはIFRS第15号、FASBにおいてはTopic606)を公表しており、IFRS第15号は平成30年1月1日以後開始する事業年度から、Topic606は平成29年12月15日より後に開始する事業年度から適用される状況を踏まえ、企業会計基準委員会において、収益認識に関する包括的な会計基準が開発され、適用指針と合わせて公表されたものです。

企業会計基準委員会の収益認識に関する会計基準の開発にあたっての基本的な方針として、IFRS第15号と整合性を図る便益の1つである財務諸表間の比較可能性の観点から、IFRS第15号の基本的な原則を取り入れることを出発点とし、会計基準を定めることとされ、また、これまで我が国で行われてきた実務等に配慮すべき項目がある場合には、比較可能性を損なわせない範囲で代替的な取扱いを追加することとされております。

(2) 適用予定日

平成34年3月期の期首から適用します。

(3) 当該会計基準等の適用による影響

「収益認識に関する会計基準」等の適用による連結財務諸表に与える影響額については、現時点で評価中であります。

(追加情報)

リース投資資産およびリース債務については、「リース取引に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第16号 平成23年3月25日)第32項が規定するリース資産総額に重要性が乏しいと認められる場合に該当していたため、従来、利息相当額控除前の金額で連結貸借対照表に計上しておりましたが、重要性が増したため、当連結会計年度末より重要なリース投資資産およびリース債務について利息相当額を控除する会計処理方法を適用しております。この結果、当連結会計年度末において、リース投資資産が305百万円、リース債務が320百万円減少し、これらの差額14百万円はその他の営業外収益として計上しております。

(連結貸借対照表関係)

※1 警備輸送業務用現金

前連結会計年度(平成29年3月31日)

警備輸送業務用の現金であり、他の目的による使用を制限されております。

また、短期借入金残高のうち、当該業務用に調達した資金が23,103百万円含まれております。

当連結会計年度(平成30年3月31日)

警備輸送業務用の現金であり、他の目的による使用を制限されております。

また、短期借入金残高のうち、当該業務用に調達した資金が9,082百万円含まれております。

※2 期末日満期手形

連結会計年度末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理をしております。なお、当連結会計年度の末日が金融機関の休日であったため、次の連結会計年度末日満期手形が連結会計年度末残高に含まれております。

	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
受取手形	54百万円

※3 土地の再評価に関する法律(平成10年3月31日公布法律第34号)及び土地の再評価に関する法律の一部を改正する法律(平成11年3月31日公布法律第24号)に基づき、平成14年3月31日に事業用土地の再評価を行い、土地再評価差額金を純資産の部に計上しております。

・再評価の方法

土地の再評価に関する法律施行令(平成10年3月31日公布政令第119号)第2条第4号に定める地価税法(平成3年法律第69号)第16条に規定する地価税の課税価格の計算の基礎となる土地の価額を算定するために、国税庁長官が定めて公表した方法により算出した価額に基づいて、奥行価格補正等合理的な調整を行って算出する方法を採用しております。

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
再評価を行った土地の連結会計年度末における時価が再評価後の帳簿価額を下回る額	890百万円	765百万円

※4 担保資産及び担保付債務

担保に供している資産は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
現金及び預金	210百万円	260百万円
建物及び構築物	1,333	1,307
土地	2,573	2,611
投資有価証券	26	26
計	4,143	4,204

担保付債務は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
短期借入金	一百万円	30百万円
1年内返済予定の長期借入金	149	149
長期借入金	459	309
計	609	489

※5 非連結子会社及び関連会社に対するものは、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
投資有価証券(株式)	13,618百万円	14,893百万円

(連結損益計算書関係)

※1 販売費及び一般管理費の主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
広告宣伝費	2,687百万円	2,556百万円
給与諸手当	39,114	39,567
賞与引当金繰入額	340	363
役員賞与引当金繰入額	100	114
役員退職慰労引当金繰入額	131	177
貸倒引当金繰入額	—	75
福利厚生費	7,234	7,006
退職給付費用	2,609	2,597
賃借料	5,332	5,563
減価償却費	1,938	1,881
租税公課	2,944	3,033
通信費	1,464	1,404

※2 研究開発費の総額

一般管理費に含まれる研究開発費

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
	475百万円	463百万円

※3 固定資産除却損の内容

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
機械装置	102百万円	146百万円
その他	59	52
計	162	198

※4 減損損失

当社グループは以下の資産について減損損失を計上しております。

前連結会計年度（自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日）

種類	用途	減損損失
建物	遊休資産	8百万円
土地	遊休資産	37百万円

当社及び連結子会社の資産グループは、遊休資産においては個別物件単位で、事業資産においては管理会計上の単位で区分しております。

時価の下落した、将来の使用が見込まれていない遊休資産について、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、減損損失（45百万円）として特別損失に計上しております。なお、当資産グループの回収可能価額は、正味売却価額により算出しております。正味売却価額は、遊休資産については路線価に基づいて奥行価格補正等の合理的な調整を行って算出した価額及び鑑定評価額に基づいた価額等から処分費用見込額を控除して算定しております。

当連結会計年度（自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日）

種類	用途	減損損失
建物	遊休資産	6百万円
土地	遊休資産	15百万円
リース資産	介護施設	49百万円
工具、器具及び備品などのその他の有形固定資産	介護施設	1百万円

当社及び連結子会社の資産グループは、遊休資産においては個別物件単位で、事業資産においては管理会計上の単位で区分しております。

時価の下落した、将来の使用が見込まれていない遊休資産について、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、減損損失（21百万円）として特別損失に計上しております。なお、当資産グループの回収可能価額は、正味売却価額により算出しております。正味売却価額は、遊休資産については路線価に基づいて奥行価格補正等の合理的な調整を行って算出した価額及び鑑定評価額に基づいた価額等から処分費用見込額を控除して算定しております。

また、株式会社ウイズネットが有する介護施設1棟（神奈川県茅ヶ崎市）については、将来キャッシュ・フローに基づく回収可能性の判定の結果、回収可能性が認められなかったため、当該施設に係る有形固定資産については帳簿価額を備忘価格まで減額し、減損損失（51百万円）として特別損失に計上しております。なお、割引前キャッシュ・フローがマイナスであるため、割引率に係る記載を省略しております。

※5 期末たな卸高は収益性の低下に伴う簿価切下後の金額であり、次のたな卸資産評価損が売上原価に含まれております。

前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
△0百万円	△0百万円

(連結包括利益計算書関係)

※ その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
その他有価証券評価差額金：		
当期発生額	1,161百万円	163百万円
組替調整額	△38	△77
税効果調整前	1,123	85
税効果額	△368	△29
その他有価証券評価差額金	755	56
為替換算調整勘定：		
当期発生額	48	△61
退職給付に係る調整額：		
当期発生額	△223	2,885
組替調整額	3,272	3,410
税効果調整前	3,049	6,296
税効果額	△958	△1,833
退職給付に係る調整額	2,091	4,462
持分法適用会社に対する持分相当額：		
当期発生額	△7	106
組替調整額	0	2
持分法適用会社に対する持分相当額	△6	108
その他の包括利益合計	2,888	4,566

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自平成28年4月1日至平成29年3月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度期首 株式数 (株)	当連結会計年度 増加株式数 (株)	当連結会計年度 減少株式数 (株)	当連結会計年度末 株式数 (株)
発行済株式				
普通株式	102,040,042	—	—	102,040,042
合計	102,040,042	—	—	102,040,042
自己株式				
普通株式(注)	1,524,240	5,660	—	1,529,900
合計	1,524,240	5,660	—	1,529,900

(注) 普通株式の自己株式増加5,660株は、単元未満株式の買取りに伴うものおよび関連会社の持分に相当する株式数の増加によるものであります。

2. 新株予約権及び自己新株予約権に関する事項

該当事項はありません。

3. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成28年6月24日 定時株主総会	普通株式	3,015	30.0	平成28年3月31日	平成28年6月27日
平成28年10月28日 取締役会	普通株式	2,764	27.5	平成28年9月30日	平成28年12月5日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	配当の原資	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成29年6月27日 定時株主総会	普通株式	2,764	利益剰余金	27.5	平成29年3月31日	平成29年6月28日

当連結会計年度（自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日）

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度期首 株式数 (株)	当連結会計年度 増加株式数 (株)	当連結会計年度 減少株式数 (株)	当連結会計年度末 株式数 (株)
発行済株式				
普通株式	102,040,042	—	—	102,040,042
合計	102,040,042	—	—	102,040,042
自己株式				
普通株式（注）	1,529,900	193	725,500	804,593
合計	1,529,900	193	725,500	804,593

（注）普通株式の自己株式増加193株は、単元未満株式の買取りに伴う増加であります。また、普通株式の自己株式減少725,500株は、株式交換の対価として株式交換完全子会社の株主に交付したことによる減少であります。

2. 新株予約権及び自己新株予約権に関する事項

該当事項はありません。

3. 配当に関する事項

（1）配当金支払額

（決議）	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成29年6月27日 定時株主総会	普通株式	2,764	27.5	平成29年3月31日	平成29年6月28日
平成29年10月31日 取締役会	普通株式	3,015	30.0	平成29年9月30日	平成29年12月4日

（2）基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

（決議）	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	配当の原資	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成30年6月26日 定時株主総会	普通株式	3,037	利益剰余金	30.0	平成30年3月31日	平成30年6月27日

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

※1 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
現金及び預金勘定	55,587百万円	47,573百万円
預入期間が3ヵ月を超える預金	△8,038	△7,088
その他(証券会社預け金)	0	0
現金及び現金同等物	47,549	40,484

※2 当連結会計年度に株式の取得により新たに連結子会社となった会社の資産及び負債の主な内訳

株式の取得により新たに連結したことに伴う連結開始時の資産及び負債の内訳並びに株式の取得価額と取得のための支出(純額)との関係は次のとおりであります。

前連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

(株式会社ウイズネットおよびその子会社6社)

流動資産	4,625百万円
固定資産	10,458
のれん	3,596
流動負債	△3,783
固定負債	△13,453
株式の取得価額	1,443
現金及び現金同等物	△1,435
差引:取得のための支出	8

(PT. ALSOK BASS Indonesia Security Services)

流動資産	159百万円
固定資産	34
のれん	388
流動負債	△20
固定負債	△10
為替換算調整勘定	31
非支配株主持分	△83
株式の取得価額	499
現金及び現金同等物	△23
差引:取得のための支出	475

(ALSOK Vietnam Security Services Joint Stock Company)

流動資産	122百万円
固定資産	23
のれん	640
流動負債	△59
固定負債	△0
為替換算調整勘定	△43
非支配株主持分	△43
株式の取得価額	638
現金及び現金同等物	△42
差引:取得のための支出	596

(ALSOK昇日セキュリティサービス株式会社)

流動資産	1,545百万円
固定資産	1,230
のれん	4,870
流動負債	△1,488
固定負債	△687
非支配株主持分	△59
株式の取得価額	5,409
株式取得に係る未払金	△52
現金及び現金同等物	△11
差引：取得のための支出	5,345

当連結会計年度（自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日）

(ALSOK関東デリバリー株式会社)

流動資産	2,580百万円
固定資産	572
のれん	3,773
流動負債	△888
固定負債	△54
株式の取得価額	5,983
現金及び現金同等物	△9
差引：取得のための支出	5,973

### 3 重要な非資金取引の内容

前連結会計年度（自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日）

該当事項はありません。

当連結会計年度（自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日）

当連結会計年度に、当社を株式交換完全親会社とし、当社の連結子会社である群馬総合ガードシステム株式会社を株式交換完全子会社とする株式交換を実施いたしました。この取引において対価として自己株式を交付したことに伴い、資本剰余金及び自己株式が次のとおり増減しております。

資本剰余金の増加額	2,753百万円
自己株式の減少額	952百万円

(リース取引関係)

1. ファイナンス・リース取引 (借主側)

所有権移転外ファイナンス・リース取引

①リース資産の内容

有形固定資産

主として、建物 (介護施設)、警報機器および車両 (機械装置及び運搬具) であります。

②リース資産の減価償却の方法

連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項「4. 会計方針に関する事項 (2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法」に記載のとおりであります。

2. オペレーティング・リース取引

オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

(単位: 百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
1年内	3,430	3,442
1年超	24,234	21,103
合計	27,665	24,545

3. 転リース取引に該当し、かつ、利息相当額控除前の金額で連結貸借対照表に計上している額

(1) リース債権及びリース投資資産

(単位: 百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
流動資産	4,336	—

(2) リース債務

(単位: 百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
流動負債	1,377	—
固定負債	2,925	—

4. 追加情報

リース投資資産およびリース債務については、「リース取引に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第16号 平成23年3月25日)第32項が規定するリース資産総額に重要性が乏しいと認められる場合に該当していたため、従来、利息相当額控除前の金額で連結貸借対照表に計上しておりましたが、重要性が増したため、当連結会計年度末より重要なリース投資資産およびリース債務について利息相当額を控除する会計処理方法を適用しております。

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、資金運用については余剰資金の範囲内で、かつ長期の安定的な運用に限定しております。一方、資金調達については主に銀行借入による方針であります。なお、デリバティブ取引は、将来の金利変動によるリスク回避を目的としております。また、一部の連結子会社において資金運用の一環として、その他有価証券(為替リンク債等)について組込デリバティブ取引を利用しております。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク並びにリスク管理体制

営業債権である受取手形及び売掛金は、顧客の信用リスクに晒されております。当該リスクに関しては、当社グループの与信管理規程に従い、取引における不良債権の発生防止、優良取引先の選別、取引基盤の強化等を図っております。また、売上債権管理規程に従い、取引先ごとに債権の期日及び残高を管理しております。

投資有価証券である株式は、市場価格の変動リスクに晒されておりますが、主に業務上の関係を有する企業の株式であり、定期的に把握された時価が取締役会に報告されております。また、組込デリバティブ取引は、将来の為替変動に伴う金利変動及び元本毀損リスクを有しておりますが、取引の相手方は、信用度の高い金融機関であり、相手方契約の不履行から生ずる信用損失の発生は予想しておりません。

営業債務である支払手形及び買掛金は、そのほとんどが1年以内の支払期日であります。

借入金のうち、短期借入金は主に警備輸送業務に係る資金調達であり、長期借入金は主に設備投資に係る資金調達であります。

変動金利の借入金は、金利の変動リスクに晒されておりますが、このうち長期のものの一部については、支払金利の変動リスクを回避し支払利息の固定化を図るために、個別契約ごとにデリバティブ取引(金利スワップ取引)をヘッジ手段として利用しております。ヘッジの有効性の評価方法については、金利スワップの特例処理の要件を満たしているため、その判定をもって有効性の評価を省略しております。

デリバティブ取引の執行・管理については、取引権限及び取引限度額等を定めた社内ルールに従って行っており、また、デリバティブの利用にあたっては、信用リスクを軽減するために、格付の高い金融機関とのみ取引を行っております。

また、営業債務や借入金は、流動性リスクに晒されておりますが、当社グループでは、各社が連結経営計画を作成するなどの方法により管理しております。

ファイナンス・リース取引に係るリース債務は、固定金利のため、金利の変動リスクはありません。

(3) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

「2. 金融商品の時価等に関する事項」におけるデリバティブ取引に関する契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引に係る市場リスクを示すものではありません。

2. 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含まれておりません（（注）2参照）。

前連結会計年度（平成29年3月31日）

	連結貸借対照表計上額 (百万円)	時価(百万円)	差額(百万円)
(1) 現金及び預金	55,587	55,587	—
(2) 警備輸送業務用現金	66,745	66,745	—
(3) 受取手形及び売掛金	50,118	50,115	△3
(4) 有価証券	798	798	—
(5) 投資有価証券			
関係会社株式	5,869	7,728	1,858
その他有価証券	25,351	25,351	—
資産計	204,471	206,326	1,855
(1) 支払手形及び買掛金	21,426	21,426	—
(2) 短期借入金	27,438	27,438	—
(3) 未払金	17,060	17,060	—
(4) 長期借入金(*)	14,539	14,536	△3
(5) リース債務(*)	23,520	22,583	△936
負債計	103,984	103,045	△939

(\*)長期借入金には1年内返済予定の長期借入金を含めております。

(\*)リース債務には1年内返済予定のリース債務を含めております。

当連結会計年度（平成30年3月31日）

	連結貸借対照表計上額 (百万円)	時価(百万円)	差額(百万円)
(1) 現金及び預金	47,573	47,573	—
(2) 警備輸送業務用現金	68,715	68,715	—
(3) 受取手形及び売掛金	52,286	52,283	△2
(4) 有価証券	333	333	—
(5) 投資有価証券			
関係会社株式	6,628	10,042	3,414
その他有価証券	26,407	26,407	—
資産計	201,944	205,355	3,411
(1) 支払手形及び買掛金	23,420	23,420	—
(2) 短期借入金	14,435	14,435	—
(3) 未払金	22,762	22,762	—
(4) 長期借入金(*)	11,670	11,674	3
(5) リース債務(*)	26,505	26,279	△226
負債計	98,794	98,572	△222

(\*)長期借入金には1年内返済予定の長期借入金を含めております。

(\*)リース債務には1年内返済予定のリース債務を含めております。

(注) 1. 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

#### 資 産

(1) 現金及び預金、(2) 警備輸送業務用現金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にはほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(3) 受取手形及び売掛金

時価については、一定の期間ごとに区分した債権ごとに債権額を満期までの期間及び信用リスクを加味した利率により割り引いた現在価値によっております。

(4) 有価証券、(5) 投資有価証券

これらの時価について、株式等は取引所の価格によっており、債券は取引所の価格又は取引金融機関等から提示された価格によっております。また、保有目的ごとの有価証券に関する事項については、注記事項「有価証券関係」をご参照ください。

#### 負 債

(1) 支払手形及び買掛金、(2) 短期借入金、(3) 未払金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にはほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(4) 長期借入金

変動金利建ての長期借入金については、短期間で市場金利を反映することから、帳簿価額によっております。

固定金利建ての長期借入金については、元利金の合計額を同様の新規借入を行った場合に想定される利率で割り引いて計算する方法によっております。

(5) リース債務

リース債務については、元利金の合計額を同様の新規リース取引を行った場合に想定される利率で割り引いて計算する方法によっております。

#### デリバティブ取引

「デリバティブ取引関係」注記をご参照ください。

なお、組込デリバティブの時価を区分して測定できない複合金融商品は、複合金融商品全体を時価評価し、

(5) 投資有価証券に含めて記載しております。

(注) 2. 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

(単位：百万円)

区分	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
非上場株式	1,273	1,248
非上場関係会社株式	7,749	8,265
社債	10	5
その他	50	47
合計	9,083	9,566

これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難であると認められるものであるため、「資産(4)有価証券、(5)投資有価証券」には含めておりません。

(注) 3. 金銭債権及び満期のある有価証券の連結決算日後の償還予定額  
前連結会計年度（平成29年3月31日）

	1年以内 (百万円)	1年超 5年以内 (百万円)	5年超 10年以内 (百万円)	10年超 (百万円)
現金及び預金	55,587	—	—	—
警備輸送業務用現金	66,745	—	—	—
受取手形及び売掛金	50,035	82	0	—
その他有価証券のうち満期があるもの				
(1) 国債・地方債等	—	215	—	—
(2) 社債	803	1,510	2,645	741
(3) その他	—	585	149	—
合計	173,171	2,394	2,795	741

当連結会計年度（平成30年3月31日）

	1年以内 (百万円)	1年超 5年以内 (百万円)	5年超 10年以内 (百万円)	10年超 (百万円)
現金及び預金	47,573	—	—	—
警備輸送業務用現金	68,715	—	—	—
受取手形及び売掛金	52,210	74	1	—
その他有価証券のうち満期があるもの				
(1) 国債・地方債等	202	10	—	—
(2) 社債	30	1,885	3,549	692
(3) その他	101	369	193	—
合計	168,833	2,338	3,744	692

(注) 4. 社債、長期借入金、リース債務及びその他の有利子負債の連結決算日後の返済予定額  
前連結会計年度（平成29年3月31日）

	1年以内 (百万円)	1年超 2年以内 (百万円)	2年超 3年以内 (百万円)	3年超 4年以内 (百万円)	4年超 5年以内 (百万円)	5年超 (百万円)
短期借入金	27,438	—	—	—	—	—
社債	54	24	14	9	—	—
長期借入金	3,378	3,001	2,589	2,007	1,784	1,777
リース債務	4,090	3,424	2,831	2,099	1,381	9,692
合計	34,960	6,449	5,434	4,116	3,166	11,470

当連結会計年度（平成30年3月31日）

	1年以内 (百万円)	1年超 2年以内 (百万円)	2年超 3年以内 (百万円)	3年超 4年以内 (百万円)	4年超 5年以内 (百万円)	5年超 (百万円)
短期借入金	14,435	—	—	—	—	—
社債	24	14	9	—	—	—
長期借入金	3,176	2,775	2,062	1,843	1,768	41
リース債務	4,511	3,857	2,868	2,159	1,560	11,547
合計	22,148	6,647	4,939	4,003	3,329	11,589

(有価証券関係)

1. その他有価証券

前連結会計年度 (平成29年3月31日)

	種類	連結貸借対照表計上額 (百万円)	取得原価又は償却原価 (百万円)	差額 (百万円)	
連結貸借対照表 計上額が取得原 価又は償却原価 を超えるもの	(1) 株式	17,626	6,767	10,859	
	(2) 債券	国債・地方債等	215	209	5
		社債	3,388	3,281	107
	(3) その他	1,005	883	122	
	小計	22,236	11,141	11,095	
連結貸借対照表 計上額が取得原 価又は償却原価 を超えないもの	(1) 株式	995	1,151	△155	
	(2) 債券	国債・地方債等	—	—	—
		社債	2,303	2,339	△36
	(3) その他	614	704	△89	
	小計	3,913	4,195	△281	
合計		26,150	15,336	10,813	

(注) 非上場株式 (連結貸借対照表計上額1,273百万円)、社債 (連結貸借対照表計上額10百万円)、その他 (連結貸借対照表計上額50百万円) については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

当連結会計年度 (平成30年3月31日)

	種類	連結貸借対照表計上額 (百万円)	取得原価又は償却原価 (百万円)	差額 (百万円)	
連結貸借対照表 計上額が取得原 価又は償却原価 を超えるもの	(1) 株式	17,750	6,680	11,070	
	(2) 債券	国債・地方債等	212	209	2
		社債	3,815	3,697	118
	(3) その他	653	562	91	
	小計	22,432	11,149	11,282	
連結貸借対照表 計上額が取得原 価又は償却原価 を超えないもの	(1) 株式	1,094	1,356	△261	
	(2) 債券	国債・地方債等	—	—	—
		社債	2,336	2,354	△18
	(3) その他	877	980	△103	
	小計	4,309	4,692	△382	
合計		26,741	15,841	10,900	

(注) 非上場株式 (連結貸借対照表計上額1,248百万円)、社債 (連結貸借対照表計上額5百万円)、その他 (連結貸借対照表計上額47百万円) については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

2. 売却したその他有価証券

前連結会計年度（自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日）

種類	売却額 (百万円)	売却益の合計額 (百万円)	売却損の合計額 (百万円)
(1) 株式	66	62	—
(2) 債券			
国債・地方債等	—	—	—
社債	341	1	0
(3) その他	203	2	1
合計	610	65	2

当連結会計年度（自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日）

種類	売却額 (百万円)	売却益の合計額 (百万円)	売却損の合計額 (百万円)
(1) 株式	151	30	0
(2) 債券			
国債・地方債等	—	—	—
社債	100	—	—
(3) その他	240	49	—
合計	491	80	0

3. 減損処理を行った有価証券

前連結会計年度（自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日）

その他有価証券について12百万円（株式12百万円）減損処理を行っております。

当連結会計年度（自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日）

その他有価証券について1百万円（株式1百万円）減損処理を行っております。

(デリバティブ取引関係)

前連結会計年度（平成29年3月31日）

ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

種類	契約額等 (百万円)	時価 (百万円)	評価損益 (百万円)
市場取引以外の取引 (複合金融商品)	199	172	△26
合計	199	172	△26

(注) 1. 時価については、取引金融機関より提示されたものによっております。

2. 組込デリバティブについて、時価の測定を合理的に区分して測定できないため、当該複合金融商品全体を時価評価し、評価差額を損益に計上しております。

当連結会計年度（平成30年3月31日）

ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

種類	契約額等 (百万円)	時価 (百万円)	評価損益 (百万円)
市場取引以外の取引 (複合金融商品)	199	157	△41
合計	199	157	△41

(注) 1. 時価については、取引金融機関より提示されたものによっております。

2. 組込デリバティブについて、時価の測定を合理的に区分して測定できないため、当該複合金融商品全体を時価評価し、評価差額を損益に計上しております。

(退職給付関係)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社は、確定給付型の制度として、企業年金制度及び退職一時金制度を設けているほか、確定拠出年金制度を設けております。

連結子会社は当社と同様の制度を設けている会社のほか、確定給付型の退職給付制度、並びに中小企業退職金共済制度等による確定拠出型の退職給付制度を設けております。

なお、一部の連結子会社は、退職給付に係る負債及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。

2. 確定給付制度

(1) 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表（(3)に掲げられた簡便法を適用した制度を除く。）

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
退職給付債務の期首残高	108,911 百万円	112,935 百万円
勤務費用	5,149	5,286
利息費用	731	759
数理計算上の差異の発生額	1,246	△758
退職給付の支払額	△3,454	△4,483
新規連結に伴う増加	351	322
退職給付債務の期末残高	112,935	114,062

## (2) 年金資産の期首残高と期末残高の調整表（(3)に掲げられた簡便法を適用した制度を除く。）

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
年金資産の期首残高	79,716 百万円	85,737 百万円
期待運用収益	1,962	2,122
数理計算上の差異の発生額	928	2,128
事業主からの拠出額	4,787	4,853
退職給付の支払額	△1,657	△2,038
新規連結に伴う増加	—	391
年金資産の期末残高	85,737	93,195

## (3) 簡便法を適用した制度の、退職給付に係る負債の期首残高と期末残高の調整表

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
退職給付に係る負債の期首残高	1,674 百万円	1,839 百万円
退職給付費用	285	297
退職給付の支払額	△88	△190
制度への拠出額	△31	△32
新規連結に伴う増加	—	294
退職給付に係る負債の期末残高	1,839	2,209

## (4) 退職給付債務及び年金資産の期末残高と連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債及び退職給付に係る資産の調整表

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
積立型制度の退職給付債務	87,365 百万円	89,310 百万円
年金資産	△85,876	93,375
	1,489	△4,065
非積立型制度の退職給付債務	27,549	27,141
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	29,038	23,076
退職給付に係る負債	29,572	27,327
退職給付に係る資産	△533	△4,250
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	29,038	23,076

(注) 簡便法を適用した制度を含めております。

## (5) 退職給付費用及びその内訳項目の金額

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
勤務費用	5,149 百万円	5,286 百万円
利息費用	731	759
期待運用収益	△1,962	△2,122
数理計算上の差異の費用処理額	3,347	3,390
過去勤務費用の費用処理額	19	19
簡便法で計算した退職給付費用	285	297
その他	110	94
確定給付制度に係る退職給付費用	7,681	7,726

(6) 退職給付に係る調整額

退職給付に係る調整額に計上した項目（税効果控除前）の内訳は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
過去勤務費用	△19 百万円	△19 百万円
数理計算上の差異	△3,029	△6,276
合 計	△3,049	△6,296

(7) 退職給付に係る調整累計額

退職給付に係る調整累計額に計上した項目（税効果控除前）の内訳は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
未認識過去勤務費用	59 百万円	39 百万円
未認識数理計算上の差異	16,319	10,043
合 計	16,379	10,083

(8) 年金資産に関する事項

①年金資産の主な内訳

年金資産合計に対する主な分類ごとの比率は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
債券	35 %	33 %
株式	35	36
現金及び預金	1	1
一般勘定	17	18
その他	12	12
合 計	100	100

②長期期待運用収益率の設定方法

年金資産の長期期待運用収益率を決定するため、現在及び予想される年金資産の配分と、年金資産を構成する多様な資産からの現在及び将来期待される長期の収益率を考慮しております。

(9) 数理計算上の計算基礎に関する事項

主要な数理計算上の計算基礎（加重平均で表わしております。）

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
割引率	0.68 %	0.68 %
長期期待運用収益率	2.50 %	2.50 %
予想昇給率	1.5～1.9 %	1.5～1.9 %

4. 確定拠出制度

連結子会社の確定拠出制度への要拠出額は、前連結会計年度が97百万円、当連結会計年度288百万円であります。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
繰延税金資産		
未払事業税	601 百万円	544 百万円
賞与引当金損金算入限度超過額	704	771
貸倒引当金損金算入限度超過額	213	223
退職給付に係る負債	9,251	8,562
役員退職慰労金の未払額	632	642
減価償却限度超過額	1,283	1,341
警報機器設置工事費否認	3,176	3,490
投資有価証券評価損	251	215
繰越欠損金	713	928
土地再評価差額金	1,839	1,839
資産調整勘定	—	1,117
その他	1,277	1,475
繰延税金資産小計	19,944	21,152
評価性引当額	△4,302	△5,728
繰延税金資産合計	15,641	15,424
繰延税金負債		
その他有価証券評価差額金	△3,335	△3,363
退職給付に係る資産	△183	△1,359
外国株式配当減額	△117	△210
土地再評価差額金	△314	△314
固定資産圧縮積立金	△12	△7
負債調整勘定	△35	△67
繰延税金負債合計	△3,999	△5,323
繰延税金資産の純額	11,641	10,100

(注) 繰延税金資産の純額は、連結貸借対照表の以下の項目に含まれております。

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
流動資産－繰延税金資産	2,183 百万円	2,311 百万円
固定資産－繰延税金資産	10,394	8,912
流動負債－繰延税金負債	△0	△0
固定負債－繰延税金負債	△621	△808
固定負債－再評価に係る繰延税金負債	△314	△314

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目の内訳

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当連結会計年度 (平成30年3月31日)
法定実効税率	30.9%	30.9%
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	0.4	0.4
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	△0.0	△0.1
住民税均等割	1.4	1.4
のれん償却額	1.1	1.6
持分法による投資利益	△1.5	△1.3
子会社等に適用される税率の影響	1.1	1.0
法人税額の特別控除	△0.3	△0.2
評価性引当額(繰延税金資産から控除された金額)	0.9	0.4
その他	0.1	0.2
税効果会計適用後の法人税等の負担率	34.0	34.2

(企業結合等関係)

取得による企業結合

1 ALSOK-TW東日本株式会社

(1) 企業結合の概要

ア 相手企業の名称及び取得した事業の内容

相手企業の名称 テルウェル東日本株式会社

事業の内容 セキュリティ事業(常駐警備業務)

イ 企業結合を行った主な理由

テルウェル東日本株式会社は、警備事業について、長年に亘りNTTグループ各社が入居するオフィスビルを中心に常駐警備業務を担ってきた豊富な実績をもつ企業であります。

この度、当社およびテルウェル東日本株式会社は、警備事業を取り巻く人員不足や機械化・専門化等が進む環境の変化に対応するため、両者の経営資源を相互に活用できる体制を構築し、より付加価値の高いサービスをご提供することができると考え、本件の企業結合に至りました。

当社は、常駐警備と機械警備の組み合わせや、警備と総合管理・防災事業等の新たなサービスにつき結合後企業と共同提案を行う等、お客様の多様なニーズに対してこれまで以上にきめ細かく対応してまいります。

なお、吸収分割後は、当社がALSOK-TW東日本株式会社の発行済株式総数の80%、テルウェル東日本株式会社が20%を保有し、両社が協調しながら運営してまいります。

ウ 企業結合日

平成29年4月1日

エ 企業結合の法的形式

テルウェル東日本株式会社を分割会社とし、ALSOK-TW東日本株式会社を承継会社とする吸収分割

オ 結合後企業の名称

ALSOK-TW東日本株式会社

カ 取得企業を決定するに至った主な根拠

ALSOK-TW東日本株式会社が現金及び預金ならびに同社が発行する普通株式500株を対価として、事業を承継したことによるものであります。

(2) 連結財務諸表に含まれる取得した事業の業績の期間

平成29年4月1日から平成30年3月31日まで

(3) 被取得企業の取得原価及び対価の種類ごとの内訳

取得の対価	現金及び預金	43百万円
	ALSOK-TW東日本株式会社の普通株式	40
取得原価		83

- (4) 主要な取得関連費用の内容及び金額  
 アドバイザリー費用 8百万円
- (5) 発生したのれんの金額、発生原因、償却方法及び償却期間  
 ア 発生したのれん  
 377百万円  
 イ 発生原因  
 主として当社が長年培ってきたセキュリティのノウハウを被取得企業へ提供することによって期待される超過収益力であります。  
 ウ 償却方法及び償却期間  
 17年間にわたる均等償却
- (6) 企業結合日に受け入れた資産及び引き受けた負債の額並びにその主な内訳
- |      |      |
|------|------|
| 流動資産 | 0百万円 |
| 固定資産 | 0    |
| 資産合計 | 0    |
| 固定負債 | 294  |
| 負債合計 | 294  |

## 2 ALSOK関東デリバリー株式会社

- (1) 企業結合の概要
- ア 被取得企業の名称及びその事業の内容  
 被取得企業の名称 デリバリーサービス株式会社  
 事業の内容 セキュリティ事業（警備輸送業務）
- イ 企業結合を行った主な理由  
 東武デリバリー株式会社の警備輸送業務は、山梨県を除く首都圏エリアを営業エリアとし、東武鉄道グループ各社をはじめ、流通・小売業を中心とした幅広いお客様に対し、現金・貴重品、商品券の集配サービス等、きめ細やかなサービスを長年提供してきた豊富な実績があります。  
 当社は、東武デリバリー株式会社より当該業務を承継するデリバリーサービス株式会社の全株式を譲り受け、更に付加価値の高いサービス提供ができると考え、本件の企業結合に至りました。
- ウ 企業結合日  
 平成29年7月3日
- エ 企業結合の法的形式  
 株式取得
- オ 結合後企業の名称  
 ALSOK関東デリバリー株式会社
- カ 取得した議決権比率  
 100%
- キ 取得企業を決定するに至った主な根拠  
 当社が現金を対価として株式を取得したことによります。
- (2) 連結財務諸表に含まれている被取得企業の業績の期間  
 平成29年7月1日をみなし取得日としているため、平成29年7月1日から平成30年3月31日まで
- (3) 被取得企業の取得原価及び対価の種類ごとの内訳
- |       |        |          |
|-------|--------|----------|
| 取得の対価 | 現金及び預金 | 5,983百万円 |
| 取得原価  |        | 5,983    |
- (4) 主要な取得関連費用の内容及び金額  
 アドバイザリー費用 10百万円

- (5) 発生したのれんの金額、発生原因、償却方法及び償却期間
- ア 発生したのれん  
3,773百万円
- イ 発生原因  
主として当社およびALSOK関東デリバリー株式会社が有する警備輸送業務を統合することにより期待される超過収益力であります。
- ウ 償却方法及び償却期間  
14年間にわたる均等償却

- (6) 企業結合日に受け入れた資産及び引き受けた負債の額並びにその主な内訳

流動資産	2,580百万円
固定資産	572
資産合計	3,152
流動負債	888
固定負債	54
負債合計	942

- (7) 企業結合が連結会計年度の開始の日に完了したと仮定した場合の当連結会計年度の連結損益計算書に及ぼす影響の概算額及びその算定方法  
当該影響の概算額に重要性が乏しいため、記載を省略しております。

#### 共通支配下の取引等

(株式交換による連結子会社の完全子会社化)

当社は、平成29年10月3日開催の取締役会において、当社を株式交換完全親会社とし、群馬綜合ガードシステム株式会社（以下、「群馬綜合ガードシステム」という。）を株式交換完全子会社とする株式交換（以下、「本株式交換」という。）を行うことを決議し、平成29年11月10日付で本株式交換を実施いたしました。

#### 1. 取引の概要

- (1) 株式交換完全子会社の名称及びその事業の内容

被取得企業の名称 群馬綜合ガードシステム株式会社  
事業の内容 セキュリティ事業および総合管理・防災事業

- (2) 企業結合日

平成29年11月10日

- (3) 企業結合の法的形式

当社を株式交換完全親会社、群馬綜合ガードシステムを株式交換完全子会社とする株式交換

- (4) 結合後企業の名称

名称変更はありません。

- (5) その他取引の概要に関する事項

群馬綜合ガードシステムは、群馬県内において常駐警備、機械警備等を中心としたサービスを提供しております。当社は、群馬綜合ガードシステムを完全子会社化することにより、グループ経営の機動性と柔軟性を高め、当社グループ内の経営資源を活用した事業の持続的成長、企業価値の向上を図ることを目的としております。

#### 2. 実施した会計処理の概要

「企業結合に関する会計基準」（企業会計基準第21号）及び「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」（企業会計基準適用指針第10号）に基づき、共通支配下の取引等のうち、非支配株主との取引として処理しております。

3. 被取得企業の取得原価及び対価の種類ごとの内訳	
当社普通株式	4,374百万円
取得原価	4,374

4. 株式の種類別の交換比率及びその算定方法並びに交付した株式数

(1) 株式の種類別の交換比率

	当社 (株式交換完全親会社)	群馬綜合ガードシステム (株式交換完全子会社)
本株式交換に係る割当の内容	1	72.55
本株式交換により交付する株式数	当社普通株式：725,500株	

ただし、当社が保有する群馬綜合ガードシステム株式会社については、本株式交換による株式の割当は行っておりません。

(2) 株式交換比率の算定方法

本株式交換の株式交換比率については、その公正性・妥当性を確保するため、当社は両社から独立した第三者算定機関であるフロンティア・マネジメント株式会社に株式交換比率の算定を依頼いたしました。当社は、第三者算定機関から提出を受けた株式交換比率の算定結果を参考に、両社の財務状況、業績動向、株価動向等を勘案の上、当事者間で慎重に協議した結果、上場会社である当社の株式価値については市場株価平均法により、非上場会社である群馬綜合ガードシステムの株式価値については、類似会社比較法、及びディスカунテッド・キャッシュ・フロー法により評価を実施し、上記(1)の株式交換比率とすることが妥当であるとの判断に至りました。

5. 非支配株主との取引に係る当社の持分変動に関する事項

(1) 資本剰余金の主な変動要因

子会社株式の追加取得

(2) 非支配株主との取引によって増加した資本剰余金の金額

2,753百万円

(資産除去債務関係)

資産除去債務のうち連結貸借対照表に計上しているもの

1. 当該資産除去債務の概要

事業所等の不動産賃貸借契約に伴う原状回復義務であります。

2. 当該資産除去債務の金額の算定方法

主として使用見込期間を取得から50年と見積り、割引率は2.3%を使用して資産除去債務の金額を計算しております。

3. 当該資産除去債務の総額の増減

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
期首残高	75 百万円	77 百万円
有形固定資産の取得に伴う増加額	—	—
時の経過による調整額	1	1
資産除去債務の履行による減少額	—	—
その他増減額 (△は減少)	—	22
期末残高	77	101

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1. 報告セグメントの概要

(1) 報告セグメントの決定方法

当社グループの報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものがあります。

当社グループは、機械警備業務、常駐警備業務および警備輸送業務を展開する「セキュリティ事業」、管工事、電気工事をはじめとした設備工事、設備管理、環境衛生管理、清掃管理、消防用設備の点検および工事、各種防災機材の販売等を実施する「総合管理・防災事業」、ならびに居宅介護支援、訪問介護、通所介護および施設介護等を提供する「介護事業」の3つを報告セグメントとしております。

なお、「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、多機能型ATM「MMK」の提供、「ALSOK安否確認サービス」、多機能型モバイルセキュリティ端末「まもるっく」の提供、セキュリティソリューション事業、情報警備事業等の事業を含んでおります。

(2) 報告セグメントの変更に関する事項

当社グループは、当連結会計年度において、各セグメントの経営成績の実態をよりの確に把握することを目的として、従来セキュリティ事業に含めていた収益及び費用の一部を、総合管理・防災事業に含めるように管理体制を見直し、セグメントの配分方法を変更しております。

なお、前連結会計年度のセグメント情報は、当連結会計年度において用いた報告セグメントならびに収益及び費用の配分方法に基づき作成したものを開示しております。

2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、連結財務諸表作成において採用している会計処理の方法と概ね同一であります。

報告セグメントの利益は、営業利益ベースの数値であります。

セグメント間の内部収益及び振替高は市場実勢価格に基づいております。

3. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

I 前連結会計年度（自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日）

（単位：百万円）

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	セキュリティ事業	総合管理・ 防災事業	介護事業	計				
売上高								
外部顧客への 売上高	327,169	57,819	24,921	409,910	3,433	413,343	—	413,343
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	817	101	10	929	468	1,398	△1,398	—
計	327,987	57,920	24,932	410,840	3,901	414,742	△1,398	413,343
セグメント利益 又は損失（△）	32,626	4,582	△354	36,853	875	37,729	△9,306	28,422
減価償却費	11,618	895	828	13,343	404	13,747	26	13,773
のれん償却額	267	86	722	1,076	0	1,076	—	1,076

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、多機能型ATM「MMK」の提供、「ALSOK安否確認サービス」、多機能型モバイルセキュリティ端末「まもるつく」の提供、セキュリティソリューション事業、情報警備事業等の事業を含んでおります。
2. セグメント利益又は損失の調整額△9,306百万円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり、全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
3. セグメント利益又は損失は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。
4. 資産については、事業セグメントに配分しておりません。

（単位：百万円）

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	セキュリティ事業	総合管理・ 防災事業	介護事業	計				
売上高								
外部顧客への 売上高	344,302	61,993	25,631	431,927	4,055	435,982	—	435,982
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	992	752	13	1,758	461	2,220	△2,220	—
計	345,295	62,746	25,644	433,685	4,517	438,203	△2,220	435,982
セグメント利益	33,292	5,075	105	38,473	938	39,411	△9,300	30,111
減価償却費	11,884	934	862	13,681	426	14,107	25	14,133
のれん償却額	815	88	723	1,627	0	1,627	—	1,627

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、多機能型ATM「MMK」の提供、「ALSOK安否確認サービス」、多機能型モバイルセキュリティ端末「まもるつく」の提供、セキュリティソリューション事業、情報警備事業等の事業を含んでおります。
2. セグメント利益の調整額△9,300百万円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり、全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
3. セグメント利益は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。
4. 資産については、事業セグメントに配分しておりません。

【関連情報】

I 前連結会計年度（自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日）

1. 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、連結損益計算書の売上高の10%以上を占める顧客が存在しないため、記載を省略しております。

II 当連結会計年度（自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日）

1. 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、連結損益計算書の売上高の10%以上を占める顧客が存在しないため、記載を省略しております。

**【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】**

I 前連結会計年度（自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日）

報告セグメントに配分された減損損失はありません。報告セグメントに配分されていない減損損失は45百万円であり、その内訳は建物8百万円および土地37百万円であります。

II 当連結会計年度（自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日）

報告セグメントに配分された減損損失はありません。報告セグメントに配分されていない減損損失は73百万円であり、その内訳は建物6百万円、土地15百万円、リース資産49百万円、ならびに工具、器具及び備品などのその他の有形固定資産1百万円であります。

**【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】**

I 前連結会計年度（自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日）

（のれんの償却額及び未償却残高）

のれん償却額につきましてはセグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

当連結会計年度末におけるのれんの未償却残高は18,615百万円であります。なお、のれんの未償却残高につきましては、事業セグメントに資産を配分していないため、当期末残高は報告セグメントに含まれておりません。

II 当連結会計年度（自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日）

（のれんの償却額及び未償却残高）

のれん償却額につきましてはセグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

当連結会計年度末におけるのれんの未償却残高は21,108百万円であります。なお、のれんの未償却残高につきましては、事業セグメントに資産を配分していないため、当期末残高は報告セグメントに含まれておりません。

**【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】**

I 前連結会計年度（自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日）

当連結会計年度において、日本ドライケミカル株式会社を持分法適用の範囲に含めたことにより、負ののれん発生益135百万円を連結損益計算書上「持分法による投資利益」に含めて計上しております。当該負ののれん発生益は、報告セグメントに配分しておりません。

II 当連結会計年度（自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日）

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

前連結会計年度（自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日）

関連当事者との取引

1. 連結財務諸表提出会社と関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社の役員及び主要株主（個人の場合に限る。）等

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金 (百万円)	事業の内容 又は職業	議決権等の所有 (被所有) 割合 (%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
役員	村井 温	—	—	公益財団法人村井順記念奨学財団理事長	(被所有) 直接 2.9	寄付金の支払	寄付金の支払	13	—	—

- (注) 1. 当社代表取締役村井温が公益財団法人村井順記念奨学財団の理事長として行った取引であります。  
 なお、当該財団の活動内容は、神奈川県内の工学系大学（工学系の学部を含む）または工学系大学院に在学する学生を対象とした返還不要の奨学金の支給であります。
2. 取引条件及び取引条件の決定方針等  
 公益財団法人村井順記念奨学財団への寄付金の金額につきましては、当社の社会貢献の必要性、当該財団の活動目的を達成するために必要と認められる年間奨学金等を勘案し決定しております。
3. 上記金額のうち、取引金額には消費税等は含まれておりません。

2. 連結財務諸表提出会社の連結子会社と関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社の役員及び主要株主（個人の場合に限る。）等

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金 (百万円)	事業の内容 又は職業	議決権等の所有 (被所有) 割合 (%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
役員	村井 温	—	—	公益財団法人村井順記念奨学財団理事長	(被所有) 直接 2.9	寄付金の支払	寄付金の支払	2	—	—

- (注) 1. 当社代表取締役村井温が公益財団法人村井順記念奨学財団の理事長として行った取引であります。  
 なお、当該財団の活動内容は、神奈川県内の工学系大学（工学系の学部を含む）または工学系大学院に在学する学生を対象とした返還不要の奨学金の支給であります。
2. 取引条件及び取引条件の決定方針等  
 公益財団法人村井順記念奨学財団への寄付金の金額につきましては、当社の社会貢献の必要性、当該財団の活動目的を達成するために必要と認められる年間奨学金等を勘案し決定しております。
3. 上記金額のうち、取引金額には消費税等は含まれておりません。

当連結会計年度（自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日）

関連当事者との取引

1. 連結財務諸表提出会社と関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社の役員及び主要株主（個人の場合に限る。）等

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金 (百万円)	事業の内容 又は職業	議決権等の所有 (被所有) 割合 (%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
役員	村井 温	—	—	公益財団法人村井順記念奨学財団理事長	(被所有) 直接 2.8	寄付金の支払	寄付金の支払	13	—	—

- (注) 1. 当社代表取締役村井温が公益財団法人村井順記念奨学財団の理事長として行った取引であります。  
 なお、当該財団の活動内容は、神奈川県内の工学系大学（工学系の学部を含む）または工学系大学院に在学する学生を対象とした返還不要の奨学金の支給であります。
2. 取引条件及び取引条件の決定方針等  
 公益財団法人村井順記念奨学財団への寄付金の金額につきましては、当社の社会貢献の必要性、当該財団の活動目的を達成するために必要と認められる年間奨学金等を勘案し決定しております。
3. 上記金額のうち、取引金額には消費税等は含まれておりません。

2. 連結財務諸表提出会社の連結子会社と関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社の役員及び主要株主（個人の場合に限る。）等

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金 (百万円)	事業の内容 又は職業	議決権等の所有 (被所有) 割合 (%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
役員	村井 温	—	—	公益財団法人村井順記念奨学財団理事長	(被所有) 直接 2.8	寄付金の支払	寄付金の支払	2	—	—

- (注) 1. 当社代表取締役村井温が公益財団法人村井順記念奨学財団の理事長として行った取引であります。  
 なお、当該財団の活動内容は、神奈川県内の工学系大学（工学系の学部を含む）または工学系大学院に在学する学生を対象とした返還不要の奨学金の支給であります。
2. 取引条件及び取引条件の決定方針等  
 公益財団法人村井順記念奨学財団への寄付金の金額につきましては、当社の社会貢献の必要性、当該財団の活動目的を達成するために必要と認められる年間奨学金等を勘案し決定しております。
3. 上記金額のうち、取引金額には消費税等は含まれておりません。

(開示対象特別目的会社関係)

該当事項はありません。

## (1株当たり情報)

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
1株当たり純資産額	1,956.25 円	2,155.74 円
1株当たり当期純利益金額	182.37 円	191.93 円

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載していません。

2. 1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
1株当たり当期純利益金額		
親会社株主に帰属する当期純利益金額 (百万円)	18,330	19,344
普通株主に帰属しない金額 (百万円)	—	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する 当期純利益金額 (百万円)	18,330	19,344
期中平均株式数 (千株)	100,511	100,792

3. 1株当たり純資産額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度末 (平成29年3月31日)	当連結会計年度末 (平成30年3月31日)
純資産の部の合計額 (百万円)	222,230	241,382
純資産の部の合計額から控除する金額 (うち非支配株主持分) (百万円)	25,607 (25,607)	23,144 (23,144)
普通株式に係る期末の純資産額 (百万円)	196,622	218,237
1株当たり純資産額の算定に用いられた 期末の普通株式の数 (千株)	100,510	101,235

(重要な後発事象)

(取得による企業結合)

当社は、投資事業有限責任組合キャス・キャピタル・ファンド六号無限責任組合員CCP6株式会社および個人株主4名から平成30年6月29日付で株式会社ケアプラスの全株式を譲り受けることについて、平成30年6月18日の取締役会において決議し、同日付で株式譲渡契約を締結いたしました。

1 企業結合の概要

(1) 被取得企業の名称及び取得する事業の内容

被取得企業の名称 株式会社ケアプラス

事業の内容 訪問医療マッサージ事業および医療保険によるマッサージ施術に関する請求等事務  
代行業業

(2) 企業結合を行うことになった主な理由

当社は、国や地方公共団体、各種金融機関、一般事業者向けに、多種多様な警備サービスを提供するほか、個人のお客様にもホームセキュリティをはじめ、安全安心を提供する取組みを進めています。

なかでも、高齢者向けサービスを重要領域と位置づけ、株式会社HCM、ALSOKあんしんケアサポート株式会社、株式会社ウイズネットの買収により介護サービスの充実を図りつつ、「みまもりサポート」や「緊急通報サービス」等の商品・サービスの開発・提供に努めてまいりました。

今般、新たに子会社となる株式会社ケアプラスは、在宅療養者向けに、訪問医療マッサージを提供しており、『まごころベルサービス』ブランドで事業を展開しています。株式会社ケアプラスには、専門的な技能を有するあん摩指圧マッサージ師の施術によって、多くのお客様のADL（日常生活動作）機能の維持・改善に役立ってきた豊富な実績があります。

今回の株式取得は、このような実績を有する株式会社ケアプラスを当社グループに迎えることにより、当社グループの介護事業のみならず個人・法人の幅広いお客様の満足度の向上を図り、当社グループの発展と企業価値の向上を目指すものです。

(3) 企業結合日

平成30年6月29日（予定）

(4) 企業結合の法的形式

株式取得

(5) 結合後企業の名称

株式会社ケアプラス

(6) 取得する議決権比率

100%

(7) 取得企業を決定するに至った主な根拠

当社が現金を対価として、株式を取得することによります。

2 取得した事業の取得原価及び対価の種類ごとの内訳

取得の対価	現金及び預金	2,001百万円
取得原価		2,001

3 主要な取得関連費用の内容及び金額

アドバイザー費用 9百万円

※現時点では確定していないため、暫定額を記載しております。

4 発生したのれんの金額、発生原因、償却方法及び償却期間

現時点では確定しておりません。

5 企業結合日に受け入れた資産及び負債の額並びにその主な内訳

現時点では確定しておりません。

## ⑤【連結附属明細表】

## 【社債明細表】

会社名	銘柄	発行年月日	当期末残高 (百万円)	当期末残高 (百万円)	利率 (%)	担保	償還期限
		平成年月日					平成年月日
(株)HCM	第1回無担保社債	25. 9. 30	51 (14)	37 (14)	0.67	なし	32. 9. 30
(株)ウイズネット	第15回無担保社債	24. 12. 27	20 (20)	— (—)	0.45	なし	29. 12. 27
(株)ウイズネット	第16回無担保社債	25. 6. 28	30 (20)	10 (10)	0.67	なし	30. 6. 29
合計	—	—	101 (54)	47 (24)	—	—	—

(注) 1. ( ) 内の金額は、1年以内に償還が予定されております。

2. 連結決算日後5年間の償還予定額は、次のとおりであります。

1年以内 (百万円)	1年超2年以内 (百万円)	2年超3年以内 (百万円)	3年超4年以内 (百万円)	4年超5年以内 (百万円)
24	14	9	—	—

## 【借入金等明細表】

区分	当期末残高 (百万円)	当期末残高 (百万円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	27,438	14,435	1.27	—
1年以内に返済予定の長期借入金	3,378	3,176	0.58	—
1年以内に返済予定のリース債務	4,090	4,511	—	—
長期借入金 (1年以内に返済予定のものを除く。)	11,161	8,493	0.43	平成31年4月1日～ 平成37年4月1日
リース債務 (1年以内に返済予定のものを除く。)	19,429	21,993	—	—
その他有利子負債	—	—	—	—
合計	65,498	52,611	—	—

(注) 1. 「平均利率」については、期末借入金残高に対する加重平均利率を記載しております。

2. リース債務の平均利率については、リース債務からリース料総額に含まれる利息相当額を控除しない会計処理方法によっているため、記載しておりません。なお、当連結会計年度末よりリース債務から利息相当額を控除する会計処理方法を適用しております。

3. 長期借入金及びリース債務（1年以内に返済予定のものを除く。）の連結決算日後5年内における返済予定額は、次のとおりであります。

	1年超2年以内 (百万円)	2年超3年以内 (百万円)	3年超4年以内 (百万円)	4年超5年以内 (百万円)
長期借入金	2,775	2,062	1,843	1,768
リース債務	3,857	2,868	2,159	1,560

## 【資産除去債務明細表】

当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における資産除去債務の金額が、当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における負債及び純資産の合計額の100分の1以下であるため、連結財務諸表規則第92条の2の規定により記載を省略しております。

## (2) 【その他】

## 当連結会計年度における四半期情報等

(累計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	当連結会計年度
売上高 (百万円)	102,107	210,121	319,303	435,982
税金等調整前四半期(当期) 純利益金額 (百万円)	6,021	13,813	21,773	31,841
親会社株主に帰属する四半期 (当期)純利益金額 (百万円)	3,392	8,056	12,886	19,344
1株当たり四半期(当期) 純利益金額 (円)	33.75	80.15	128.03	191.93

(会計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
1株当たり四半期純利益金額 (円)	33.75	46.40	47.86	63.80

## 2 【財務諸表等】

### (1) 【財務諸表】

#### ① 【貸借対照表】

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	18,926	8,409
警備輸送業務用現金	※1 65,671	※1 65,104
受取手形	221	※2 421
売掛金	※3 26,923	※3 24,560
貯蔵品	4,099	4,345
前払費用	1,900	1,892
立替金	※3 6,266	※3 6,238
繰延税金資産	914	998
その他	※3 6,232	※3 7,802
貸倒引当金	△54	△57
流動資産合計	131,102	119,716
固定資産		
有形固定資産		
建物	13,498	13,050
構築物	322	293
機械及び装置	15,591	17,845
車両運搬具	8	6
工具、器具及び備品	3,155	2,985
土地	10,113	10,113
リース資産	2,340	2,014
建設仮勘定	842	529
有形固定資産合計	45,874	46,837
無形固定資産		
ソフトウェア	2,933	2,568
ソフトウェア仮勘定	960	4,101
電気通信施設利用権	0	0
その他	1	1
無形固定資産合計	3,895	6,671
投資その他の資産		
投資有価証券	※4 15,050	※4 14,694
関係会社株式	42,549	53,112
長期貸付金	※3 722	※3 686
長期前払費用	290	289
敷金及び保証金	7,179	6,652
保険積立金	618	389
前払年金費用	7,945	7,489
繰延税金資産	2,821	3,146
その他	10,402	10,908
貸倒引当金	△183	△175
投資その他の資産合計	87,397	97,193
固定資産合計	137,167	150,702
資産合計	268,269	270,418

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	※3 12,101	※3 12,296
短期借入金	※1, ※3 38,321	※1, ※3 24,453
1年内返済予定の長期借入金	1,714	1,714
リース債務	957	728
未払金	※3 4,907	※3 8,167
未払費用	2,997	3,057
未払法人税等	3,393	2,997
未払消費税等	2,123	1,749
前受金	8,184	7,811
預り金	※3 410	※3 416
その他	582	475
流動負債合計	75,694	63,867
固定負債		
長期借入金	8,572	6,858
リース債務	1,540	1,441
再評価に係る繰延税金負債	314	314
退職給付引当金	16,067	15,627
預り保証金	1,901	1,793
長期未払金	92	89
資産除去債務	61	62
固定負債合計	28,550	26,187
負債合計	104,244	90,054
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	18,675	18,675
資本剰余金		
資本準備金	29,320	29,320
その他資本剰余金	—	3,422
資本剰余金合計	29,320	32,742
利益剰余金		
利益準備金	792	792
その他利益剰余金		
別途積立金	14,000	14,000
繰越利益剰余金	102,161	114,351
利益剰余金合計	116,953	129,144
自己株式	△1,978	△1,026
株主資本合計	162,970	179,535
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	6,346	6,121
土地再評価差額金	△5,292	△5,292
評価・換算差額等合計	1,053	828
純資産合計	164,024	180,363
負債純資産合計	268,269	270,418

## ②【損益計算書】

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当事業年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
売上高	※2 229,504	※2 232,697
売上原価	※2 166,257	※2 169,862
売上総利益	63,247	62,835
販売費及び一般管理費	※1, ※2 47,744	※1, ※2 46,576
営業利益	15,502	16,258
営業外収益		
受取利息及び受取配当金	※2 6,030	※2 6,949
その他	※2 1,579	※2 1,597
営業外収益合計	7,610	8,546
営業外費用		
支払利息	※2 520	※2 566
その他	※2 480	※2 517
営業外費用合計	1,000	1,083
経常利益	22,112	23,720
特別利益		
投資有価証券売却益	59	1
特別利益合計	59	1
特別損失		
投資有価証券評価損	10	0
減損損失	16	0
子会社株式評価損	7	—
特別損失合計	34	0
税引前当期純利益	22,137	23,722
法人税、住民税及び事業税	5,857	6,062
法人税等調整額	△352	△310
法人税等合計	5,505	5,751
当期純利益	16,632	17,971

## (売上原価明細書)

区分	注記 番号	前事業年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)		当事業年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)		
		金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)	
I 労務費						
給料		36,796		37,173		
賞与		9,838		9,303		
退職給付費用		2,645		2,865		
法定福利費		7,399		7,015		
その他		141	56,821	141	56,498	33.3
II 経費						
外注費		36,391		37,604		
減価償却費		8,581		8,587		
賃借料		8,925		9,388		
燃料費		838		908		
警備用通信費		5,862		6,082		
その他		16,160	76,760	16,979	79,550	46.8
警備原価			133,581		136,049	80.1
機器・工事原価			32,675		33,812	19.9
売上原価			166,257		169,862	100.0

③【株主資本等変動計算書】

前事業年度（自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日）

（単位：百万円）

	株主資本									
	資本金	資本剰余金			利益剰余金				自己株式	株主資本合計
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計	利益準備金	その他利益剰余金		利益剰余金合計		
						別途積立金	繰越利益剰余金			
当期首残高	18,675	29,320	—	29,320	792	14,000	91,284	106,076	△1,977	152,095
会計方針の変更による累積的影響額							25	25		25
会計方針の変更を反映した当期首残高	18,675	29,320	—	29,320	792	14,000	91,309	106,102	△1,977	152,120
当期変動額										
剰余金の配当							△5,780	△5,780		△5,780
当期純利益							16,632	16,632		16,632
自己株式の取得									△1	△1
自己株式の処分										—
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）										
当期変動額合計	—	—	—	—	—	—	10,851	10,851	△1	10,850
当期末残高	18,675	29,320	—	29,320	792	14,000	102,161	116,953	△1,978	162,970

	評価・換算差額等			純資産合計
	その他有価証券評価差額金	土地再評価差額金	評価・換算差額等合計	
当期首残高	5,786	△5,292	494	152,589
会計方針の変更による累積的影響額				25
会計方針の変更を反映した当期首残高	5,786	△5,292	494	152,614
当期変動額				
剰余金の配当				△5,780
当期純利益				16,632
自己株式の取得				△1
自己株式の処分				—
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	559	—	559	559
当期変動額合計	559	—	559	11,409
当期末残高	6,346	△5,292	1,053	164,024

	株主資本									株主資本 合計
	資本金	資本剰余金			利益剰余金			自己株式		
		資本準備金	その他資本 剰余金	資本剰余金 合計	利益準備金	その他利益剰余金 別途積立金	繰越利益 剰余金		利益剰余金 合計	
当期首残高	18,675	29,320	—	29,320	792	14,000	102,161	116,953	△1,978	162,970
会計方針の変更による 累積的影響額										—
会計方針の変更を反映し た当期首残高	18,675	29,320	—	29,320	792	14,000	102,161	116,953	△1,978	162,970
当期変動額										
剰余金の配当							△5,780	△5,780		△5,780
当期純利益							17,971	17,971		17,971
自己株式の取得									△1	△1
自己株式の処分			3,422	3,422					952	4,374
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）										
当期変動額合計	—	—	3,422	3,422	—	—	12,190	12,190	951	16,564
当期末残高	18,675	29,320	3,422	32,742	792	14,000	114,351	129,144	△1,026	179,535

	評価・換算差額等			純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	土地再評価 差額金	評価・換算差額等 合計	
当期首残高	6,346	△5,292	1,053	164,024
会計方針の変更による 累積的影響額				—
会計方針の変更を反映し た当期首残高	6,346	△5,292	1,053	164,024
当期変動額				
剰余金の配当				△5,780
当期純利益				17,971
自己株式の取得				△1
自己株式の処分				4,374
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）	△225	—	△225	△225
当期変動額合計	△225	—	△225	16,339
当期末残高	6,121	△5,292	828	180,363

## 【注記事項】

(重要な会計方針)

### 1. 有価証券の評価基準及び評価方法

#### (1) 子会社株式及び関連会社株式

移動平均法による原価法を採用しております。

#### (2) その他有価証券

時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)を採用しております。

時価のないもの

移動平均法による原価法を採用しております。

### 2. デリバティブ等の評価基準及び評価方法

時価法を採用しております。

### 3. たな卸資産の評価基準及び評価方法

主として先入先出法による原価法(貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)を採用しております。

### 4. 固定資産の減価償却の方法

#### (1) 有形固定資産(リース資産を除く)

定額法を採用しております。

主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物及び構築物 15～50年

機械及び装置 5年

#### (2) 無形固定資産(リース資産を除く)

定額法を採用しております。

なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法を採用しております。

#### (3) リース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

### 5. 引当金の計上基準

#### (1) 貸倒引当金

売上債権、貸付金等の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

#### (2) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

過去勤務費用については、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(5年)による定額法により処理しております。

数理計算上の差異は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(10年)による定額法により発生時の翌事業年度から処理しております。

6. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

(1) 繰延資産の処理方法

株式交付費

支出時に全額費用処理しております。

(2) ヘッジ会計の処理

ア ヘッジ会計の方法

繰延ヘッジ処理を採用しております。また、金利スワップについては特例処理の条件を充たしている場合には特例処理を採用しております。

イ ヘッジ手段とヘッジ対象

ヘッジ手段 金利スワップ

ヘッジ対象 銀行借入金

ウ ヘッジ方針

金利変動リスクの低減並びに金融収支改善のため、内規に基づき、金利変動リスクをヘッジしております。

エ ヘッジの有効性評価の方法

特例処理によっている金利スワップにつきましてはヘッジの高い有効性があるとみなされるため、有効性の評価は省略しております。

(3) 消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は税抜方式によっており、控除対象外消費税及び地方消費税は、当事業年度の費用として処理しております。

(貸借対照表関係)

※1 警備輸送業務用現金

前事業年度 (平成29年3月31日)

警備輸送業務用の現金であり、他の目的による使用を制限されております。

また、短期借入金残高のうち、当該業務用に調達した資金が23,103百万円含まれております。

当事業年度 (平成30年3月31日)

警備輸送業務用の現金であり、他の目的による使用を制限されております。

また、短期借入金残高のうち、当該業務用に調達した資金が9,082百万円含まれております。

※2 期末日満期手形

期末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理をしております。なお、当事業年度の末日が金融機関の休日であったため、次の期末日満期手形が事業年度末残高に含まれております。

	当事業年度 (平成30年3月31日)
受取手形	3百万円

※3 関係会社に対する金銭債権及び債務

関係会社に対する金銭債権及び債務は、次のとおりであります。

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
短期金銭債権	6,323百万円	7,477百万円
長期金銭債権	533	523
短期金銭債務	16,370	16,681

※4 担保資産

出資会社の借入金に対して下記の資産を担保に供しております。

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
投資有価証券	26百万円	26百万円

5 保証債務

次の子会社の債務について、債務保証を行っております。

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
㈱ウイズネットの賃借不動産に係る未経過リース料	3,723百万円	3,127百万円

## (損益計算書関係)

※1 販売費に属する費用のおおよその割合は前事業年度43.1%、当事業年度43.2%、一般管理費に属する費用のおおよその割合は前事業年度56.9%、当事業年度56.8%であります。

主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当事業年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
広告宣伝費	2,162百万円	2,057百万円
給料	17,765	17,639
賞与	6,581	6,058
貸倒引当金繰入額	20	29
福利厚生費	5,042	4,710
退職給付費用	2,182	2,156
賃借料	3,619	3,689
減価償却費	1,292	1,244
租税公課	1,786	1,760
通信費	982	889
委託料	1,597	1,538

※2 関係会社との取引に係るものの総額は、次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当事業年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
営業取引の取引高		
売上高	13,181百万円	13,137百万円
営業費用	35,596	35,993
営業取引以外の取引高	5,796	6,726

## (有価証券関係)

前事業年度 (平成29年3月31日)

区分	貸借対照表計上額 (百万円)	時価 (百万円)	差額 (百万円)
関連会社株式	2,897	7,728	4,830

当事業年度 (平成30年3月31日)

区分	貸借対照表計上額 (百万円)	時価 (百万円)	差額 (百万円)
関連会社株式	2,897	10,042	7,144

(注) 時価を把握することが極めて困難と認められる子会社株式及び関連会社株式の貸借対照表計上額

(単位：百万円)

区分	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
子会社株式	38,715	49,168
関連会社株式	937	1,045

上記については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「関連会社株式」には含めておりません。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
繰延税金資産		
未払事業税	331 百万円	301 百万円
貸倒引当金損金算入限度超過額	72	71
退職給付引当金損金算入限度超過額	4,923	4,785
役員退職慰労金の未払額	25	25
減価償却限度超過額	633	699
警報機器設置工事費否認	2,875	3,088
投資有価証券評価損	21	21
土地再評価差額金	1,839	1,839
その他	644	707
繰延税金資産小計	11,367	11,538
評価性引当額	△2,279	△2,276
繰延税金資産合計	9,087	9,262
繰延税金負債		
その他有価証券評価差額金	△2,800	△2,701
前払年金費用	△2,432	△2,293
外国株式配当減額	△117	△117
土地再評価差額金	△314	△314
その他	△0	△4
繰延税金負債合計	△5,666	△5,431
繰延税金資産の純額	3,420	3,830

(注) 繰延税金資産の純額は、貸借対照表の以下の項目に含まれております。

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
流動資産－繰延税金資産	914 百万円	998 百万円
固定資産－繰延税金資産	2,821	3,146
固定負債－再評価に係る繰延税金負債	△314	△314

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目の内訳

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
法定実効税率	30.9 %	30.9 %
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	0.2	0.2
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	△7.5	△8.1
住民税均等割	1.5	1.4
法人税額の特別控除	△0.2	△0.1
評価性引当額 (繰延税金資産から控除された金額)	0.1	△0.0
その他	△0.1	0.1
税効果会計適用後の法人税等の負担率	24.9	24.2

(企業結合等関係)

取得による企業結合

連結財務諸表「注記事項(企業結合等関係)」に記載しているため、注記を省略しております。

共通支配下の取引等

連結財務諸表「注記事項(企業結合等関係)」に記載しているため、注記を省略しております。

(重要な後発事象)

取得による企業結合

連結財務諸表「注記事項(重要な後発事象)」に記載しているため、注記を省略しております。

④【附属明細表】

【有形固定資産等明細表】

(単位：百万円)

区分	資産の種類	当期首 残高	当期 増加額	当期 減少額	当期 償却額	当期末 残高	減価償却 累計額
有形 固定資産	建物	27,381	207	87	648	27,501	14,451
	構築物	872	0	—	29	873	580
	機械及び装置	102,623	8,650	3,876	6,085	107,397	89,552
	車両運搬具	555	3	4	5	554	548
	工具、器具及び備品	11,651	693	631	786	11,713	8,728
	土地	10,113 [△4,977]	—	0 (0)	—	10,113 [△4,977]	—
	リース資産	6,112	690	953	1,005	5,849	3,834
	建設仮勘定	842	491	804	—	529	—
	計	160,152 [△4,977]	10,737	6,357 (0)	8,561	164,532 [△4,977]	117,695
無形 固定資産	ソフトウェア	6,471	889	1,133	1,254	6,227	3,659
	ソフトウェア仮勘定	960	3,245	104	—	4,101	—
	電気通信施設利用権	8	—	5	0	2	2
	その他	2	—	—	0	2	0
	計	7,442	4,134	1,242	1,254	10,334	3,663

- (注) 1. 「機械及び装置」の「当期増加額」は、主として小口多数の機械警備に係る警報機器の設置に伴うものであります。また、「当期減少額」は、小口多数の機械警備の解約に伴う警報機器の廃棄等によるものであります。
2. 「当期減少額」欄の( )内は内書きで、減損損失の計上額であります。
3. 「当期首残高」および「当期末残高」欄の[ ]内は内書きで、土地の再評価に関する法律(平成10年法律第34号)により行った土地の再評価実施前の帳簿価額との差額であります。
4. 「当期首残高」および「当期末残高」については、取得価額により記載しております。

【引当金明細表】

(単位：百万円)

科目	当期首残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
貸倒引当金	237	232	237	232

(2) 【主な資産及び負債の内容】

連結財務諸表を作成しているため、記載を省略しております。

(3) 【その他】

該当事項はありません。

## 第6【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	6月中
基準日	3月31日
剰余金の配当の基準日	9月30日 3月31日
1単元の株式数	100株
単元未満株式の買取り	
取扱場所	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
株主名簿管理人	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
取次所	_____
買取手数料	株式の売買の委託に係る手数料相当額として別途定める金額
公告掲載方法	電子公告により行う。ただし電子公告によることができない事故その他やむを得ない事由が生じたときは日本経済新聞に掲載して行う。 公告掲載URL <a href="http://www.alsok.co.jp/">http://www.alsok.co.jp/</a>
株主に対する特典	該当事項はありません。

(注) 当社定款の定めにより、単元未満株主は、会社法第189条第2項各号に掲げる権利以外の権利を有しておりません。

## 第7【提出会社の参考情報】

### 1【提出会社の親会社等の情報】

当社は、金融商品取引法第24条の7第1項に規定する親会社等はありません。

### 2【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

- (1) 有価証券報告書及びその添付書類並びに確認書  
事業年度（第52期）（自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日）平成29年6月27日関東財務局長に提出
- (2) 内部統制報告書及びその添付書類  
平成29年6月27日関東財務局長に提出
- (3) 四半期報告書及び確認書  
（第53期第1四半期）（自 平成29年4月1日 至 平成29年6月30日）平成29年8月8日関東財務局長に提出  
（第53期第2四半期）（自 平成29年7月1日 至 平成29年9月30日）平成29年11月7日関東財務局長に提出  
（第53期第3四半期）（自 平成29年10月1日 至 平成29年12月31日）平成30年2月6日関東財務局長に提出
- (4) 臨時報告書
  - ・平成29年6月30日関東財務局長に提出  
企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2（株主総会における議決権行使の結果）に基づく臨時報告書であります。
  - ・平成30年4月2日関東財務局長に提出  
企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号（代表取締役の異動）に基づく臨時報告書であります。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

# 独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成30年6月26日

総合警備保障株式会社

取締役会 御中

太陽有限責任監査法人

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	柴谷 哲朗	印
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	岩崎 剛	印
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	上西 貴之	印

## <財務諸表監査>

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている総合警備保障株式会社の平成29年4月1日から平成30年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

## 連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

## 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

## 監査意見

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、総合警備保障株式会社及び連結子会社の平成30年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### <内部統制監査>

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、総合警備保障株式会社の平成30年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。

#### 内部統制報告書に対する経営者の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した内部統制監査に基づいて、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき内部統制監査を実施することを求めている。

内部統制監査においては、内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための手続が実施される。内部統制監査の監査手続は、当監査法人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。また、内部統制監査には、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

#### 監査意見

当監査法人は、総合警備保障株式会社が平成30年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

---

(注) 1. 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（有価証券報告書提出会社）が別途保管しております。

2. X B R L データは監査の対象には含まれていません。

# 独立監査人の監査報告書

平成30年6月26日

総合警備保障株式会社

取締役会 御中

太陽有限責任監査法人

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	柴谷 哲朗	印
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	岩崎 剛	印
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	上西 貴之	印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている総合警備保障株式会社の平成29年4月1日から平成30年3月31日までの第53期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

## 財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

## 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

## 監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、総合警備保障株式会社の平成30年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

## 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- 
- (注) 1. 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（有価証券報告書提出会社）が別途保管しております。
2. XBR Lデータは監査の対象には含まれていません。